

創立10周年記念 **桂坂**

桂坂学区創立10周年記念事業実行委員会
京都市立桂坂小学校・桂坂小学校P T A

創立10周年記念 **桂坂**

桂坂学区創立10周年記念事業実行委員会
京都市立桂坂小学校・桂坂小学校PTA

目次

CONTENTS

ご挨拶

- 4 菊池潤治桂坂学区自治連合会会長

祝辞

- 6 榎本頼兼京都市長
7 中野代志男西京区長
8 成瀬英夫西京区洛西支所長
9 豊田英嗣西京区自治連合会会長
10 桂坂の人口

10周年の慶祝

- 12 桂坂学区創立10周年記念式典・祝賀会
桂坂学区創立10周年記念の諸行事
14 桂坂ふれあい会
16 桂坂学区民体育祭
18 合同作品展〈かつらぎか物語〉
19 高齢者ドライバー研修会
20 桂坂自治会館 消防器具庫 〈地鎮祭・竣工式〉

資料編

- 114 桂坂学区〔西京区〕年表
116 桂坂小学校観測所「気象観測報告」
118 消防団器具庫・自治会館建設寄付金集計表
並びに企業および篤志家・大口寄付者名簿
119 桂坂学区創立10周年記念事業特別寄贈者
120 自治連合会役員・自治会長・自治連合会委
員名簿
122 桂坂学区各種団体等役員名簿
123 桂坂学区創立10周年記念事業実行委員会
124 記念誌編集協力者並びに写真・資料の提供
者名簿
124 編集後記

歴史と自然と、そして私たち

- 22 「桂坂の地名をたどる」
山田まゆみ（元『桂坂』編集部）
24 桂坂の開発〈桂坂の昔・造成とその工夫〉
25 桂坂の街づくり〈人と自然との共生・野鳥園〉
26 騒音対策モデル事業〈「住みよいまち『桂坂』の
静かな街づくり宣言〉
27 環境の維持保全の努力〈建築協定〉
28「桂坂学区自治連合会発足のころ」
湯浅 忍 桂坂自治連合会顧問
28 自治会と自治連合会
28 学区最初の自治会——かえて自治会
29 桂坂自治連合会の胎動・誕生
29 13の自治会による大きな連合に——あかしあ自治会
30 各自治会の世帯数（1999.9.1 現在）
30 桂坂の各種団体
31 会員制をとる各種団体——山の手倶楽部
32 各種団体の多様な活動——市政協力委員連絡協議会・
保健協議会と献血会・日赤奉仕団・共同募金会・平
安講社

空から見た桂坂〈1985年・1999年撮影〉

桂坂点描

- 34 桂坂点描〈桂坂案内図〉
35 安心で快適な空間——「緑」・桂坂の街路樹・
「石」・桂坂センター街に集まる緑道・2つの公園・
「憩いの苑」・「緑」の解放感・古墳公園と桂坂公園
と
37 ひいらぎ自治会の公園愛護会
37 よりよい生活空間をもとめて——行政懇談会
39 業者懇談会
39 桂坂みどり会
40 行政との「協働」〈ワークショップ方式〉

空をかついで／「地域」と子ども

- 42 桂坂の教育
42 大枝中学校
43 かざらっこ〈桂坂保育所・桂坂児童館〉
43 地域の中で——育成のこころみ
44 小学校・中学校と福祉施設の交流
44 日文研の「授業」
45 地域の中で——キャンプ・スポーツを通して

- 45 桂坂少年補導委員会
- 45 地域の中で——昔の遊び
- 45 山の手倶楽部女性部
- 46 京の地藏盆
- 46 よりよい教育環境を求めて

京都市立桂坂小学校

- 48 桂坂小学校の紹介〈校旗・校章・校歌・沿革〉
- 50 角垣校長挨拶
- 51 歴代校長挨拶
- 52 桂坂小学校PTA
- 53 歴代PTA
- 54 数字で見る桂坂小学校の10年
- 55 10周年を迎えた桂坂小学校
- 56 教職員10年のあゆみ
- 60 桂坂小学校の10年〈平成元年度～平成10年度〉
- 80 桂坂小学校創立10周年記念行事

協和のひびき／ふれあい

- 82 ふれあい
- 82 統一ふれあいクリーンデー〈私たちの街を美しく〉
- 83 つばき自治会・さくら自治会
- 83 「環境美化」に関する表彰
- 84 みんなで集う夏まつり
- 84 桂坂の夏まつり〈統一夏まつり・京の夏まつり・親睦と活性化〉
- 85 くすのき自治会
- 86 若さみなぎる区民体育祭
- 87 生涯スポーツ——体育振興会
- 88 出合い——福祉
- 88 社会福祉協議会
- 89 在宅介護・社会福祉の相談〈民生児童委員・老人福祉員〉
- 89 女性会
- 90 授産園
- 90 療護園〈ディサービスセンター〉
- 91 更生園
- 92 西養護学校
- 92 沓掛寮内科診療所
- 93 ふれあい会館
- 93 特別養護老人ホーム——沓掛寮〈ディサービスセンター〉
- 94 ふれあい出合いの〈輪〉
- 94 桂坂地域での福祉施設の諸事業

文化／彩華映発

- 96 文化〈風土と活動〉
- 96 「日文研」と学術講演会・一般公開
- 97 カザラッカコンサート
- 97 ふれあい会館の教養講座と花の木ラウンジ
- 97 桂坂の放送網
- 97 文化普及会と「名月観賞の夕べ」
- 98 文化活動〈親睦を深めるために〉
- 98 けやき自治会・さつき自治会
- 98 山の手倶楽部と地域女性会の文化活動
- 99 自治会の広報活動
- 99 広報の発行・にれのき自治会
- 100 もみのき自治会館のOA化・もみのき自治会
- 100 自治連合会の広報
- 101 桂坂自治会館〈文化活動の拠点〉
- 101 「学校コミュニティプラザ構想」・「学校ふれあいサロン事業」
- 102 桂坂自治会館の維持管理・会館の印刷機

ロータリーのあるまち

- 104 安全の街づくり——防犯
- 104 防犯推進委員
- 104 防犯委員会
- 104 地域ぐるみで子どもを守る
- 105 安全の街づくり——交通・安全
- 105 交通安全推進協議会
- 105 桂坂消防分団
- 106 消防互助会
- 107 桂坂自治会館——防災の拠点
- 108 会館のできるまで
- 109 桂坂学区自主防災会〈防災に関する知識の普及・防災7つ道具・広域避難所・総合防災訓練〉
- 110 自主防災部
- 110 しらかば自治会
- 111 高層マンションの防災訓練——はなみずき自治会
ぼぶら自治会
- 112 阪神淡路大震災に対する桂坂の支援活動
- 112 桂坂——安心のまちづくりを
- 112 「優良自主防災部」受賞者

ご挨拶



桂坂学区自治連合会会長
菊池 潤治

このたび桂坂学区ならびに桂坂小学校の創立10周年を迎えるにあたり記念誌を発刊することとなりました。

榊本京都市長、中野西京区長、成瀬洛西支所長様及び豊田西京区自治連合会長様からご丁寧なるご祝辞を賜りました外、桂坂学区にご理解のある方々から玉章をいただき心から感謝申し上げます。

さて、桂坂学区は1989（平成元）年8月、かえで、しらかば、さつき自治会により桂坂学区自治連合会として発足いたしました。当時の人口は3033名、872世帯で、初代の会長には湯浅忍様が就任され近隣の大枝、新林学区の方々には大変お世話になったそうです。また、役員も並々ならぬご苦勞を重ねられ、今日の桂坂学区の基礎を築いていただきましたことに深甚の敬意を表させていただきます。

桂坂の現状を申しますと、桂坂は西京区の北西部に位置し、東西2キロ、南北0.8キロ、総面積163ヘクタールの丘陵地にあり、本年1月現在、人口9694名、2764世帯、13自治会によって桂坂学区自治連合会が構成されています。

各種団体は、社会福祉協議会をはじめ体育振興会、地域女性会等15団体が西京区内すべての団体の支部として設置され、積極的な活動を展開しています。

自治連合会の運営につきましては、

1. 自由な雰囲気漂うまち・桂坂
2. 便利で住みよいまち・桂坂
3. 安全、安心のまち・桂坂

を基本指針として活動してまいりました。

緑の空間を大切にする桂坂では、個人の家庭を尊重し、必要以上の干渉をしないスマートな都市型自治会が望まれますが、阪神大震災のような「いざ」の時には直ちに結束し、これに対応する体制が必要かと存じます。

次に、開発途上にある桂坂では、交通アクセスの問題及び日常生活をする上では、歩いて買物ができる利便性のあるまちづくりが必要です。スーパーイヅミヤの早期開店を願うと共に、地下鉄は是非とも桂坂に誘致したいものと考えています。

安全・安心のまちづくりは、桂警察署大枝交番をはじめ、桂坂自主防災会、消防分団等が設置され、住民の生命、身体、財産の保護や、防災について活動していただき、その体制も年々充実されてまいりました。

各種行事の運営につきましては、細密な計画のもと、これを着実に

実行し、一つ一つ実績を積み重ねていくことが学区民との信頼に繋がるものと思っています。

自治連合会としては、何をどのようにしていくのか、これを先ず学区民にお知らせすることが、何より肝要と考え、概ね月1回、編集部の発行する広報紙『桂坂』を通じて行事の結果、将来の展望、時の話題等をお届けしております。今では、そのきめ細かな内容が人気を呼び、次号が待たれる広報紙となりました。

これらのおかげで各自治会の動きも随分活発となり、桂坂の統一クーリーンデーには毎回1000名を越す住民の参加があり、統一夏祭りは、各自治会がそれぞれの趣向を凝らして楽しく競演するなど桂坂名物の一つとなりました。

また、記念事業の一つである桂坂自治会館・消防器具庫の建設に際しては、株式会社横綱、京都住宅生協をはじめ桂坂に関連のある企業各位から多大のご寄付を賜った外、住民の90%の方に賛同いただき、更に先般、20才以上の住民のうち、85%の方の署名をいただいた「地下鉄東西線の西伸ルートに桂坂駅を設置する請願」が市会で採決される等、そのパワーを心強く思っています。

10年が経過し、21世紀への一歩を踏み出そうとしています。この機会にしっかりとしたまちの基盤づくりをしなければと考えます。

その1つは、子どもたちの健全育成であります。未来に羽ばたく子どもたちの明るい人生のため、学校、PTAとの協力関係を一層深め地域ぐるみで子どもを育てていく教育環境の風土づくりが必要です。学区民の英知を結集し、子どもたちと正面に向き合って、たくましく思いやりのある子どもを育成しなければなりません。そのような趣旨から桂坂教育後援会を設立させていただきました。

今一つは、共生の福祉のまちづくりです。

桂坂には特別養護老人ホーム・沓掛寮をはじめ多くの福祉施設があります。高齢者や障害者との日常の交わりが、ごく自然のうちに行われる共生の福祉のまちづくりが望まれます。「人にやさしい桂坂」が更に定着しますよう一層のご支援をお願い申し上げます。

終わりに、このほど京都大学の新キャンパスを御陵坂に設置することが決まり、国際日本文化研究センターと共に世界に誇れる学術研究の環境が整います。私たちも、このアカデミックな雰囲気を十分味わいながら、桂坂らしい文化の香り高き華やぎと、「住んでよかった桂坂」を実感できる、活力のあるまちを築こうではありませんか。

今後とも皆様方のお力添えを心からお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

祝 辞



京都市長

高橋 明

魅力あふれる美しいまち 桂坂学区の新たな門出を祝して

桂坂学区創立10周年記念誌が、桂坂をこよなく愛する多くの皆様方の御努力により発刊されますことを心からお祝い申し上げます。

また、皆様方には、日頃から京都市政、西京区政の推進に格別の御支援、御協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

ここ桂坂は、西山連峰と松尾の山々に囲まれ、南北には小畑川の清流が流れる緑豊かな美しい自然にあふれたまちであるとともに、桂坂野鳥園をはじめ、古墳公園、国際日本文化研究センター、洛西ふれあいの里などを有し、自然・歴史・文化が、一体となって豊かな環境を創り上げているまちであります。

また、年々人口増加が続く西京区において、一番新しい躍動感に満ちたまちであり、自治の精神とエネルギーが力強く息づく、魅力あふれる美しいまちとして発展を遂げて参りました。

これもひとえに、桂坂学区の発展を真に願う学区民の皆様方の多大なる御努力と情熱によるものであり、心から敬意と感謝の意を表する次第であります。

さて、今年、20世紀を締めくくり、新たなミレニアム（千年紀）を迎える大切な年であり、「地方の時代」の幕開けの年であります。

私は、市民の皆様とのパートナーシップの下、くらしに安らぎ、まちに華やぎ、そして信頼を基本とする光り輝くまち「世界の京都」の実現に向けて、市民の皆様にお約束致しました160項目の公約すべてを何としても実行し、千年を超える悠久の歴史と文化を誇る京都を世界中の都市に先駆けて、新しい千年の都「千年新都」として参る所存でありますので、今後とも、皆様方のより一層の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、記念すべき創立10周年を契機として、桂坂学区が、菊池自治連合会長をはじめとする役員の皆様方を中心に更に結束され、益々飛躍、発展されますとともに、地域住民の皆様方の御健勝と御多幸を心からお祈り致しまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



西京区長
中野 代志男

桂坂学区誕生10周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

平素は京都市政並びに西京区政のために格別のご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

桂坂学区は平成元年の桂坂小学校開校と同時に誕生し、以来10年、著しい発展を遂げてられました。大枝の丘陵地帯に、桂坂ニュータウンの造成が始まって間もなく誕生した桂坂学区は、西京区内では最も新しい学区ですが、現在では人口9000人を超える大きなまちとなりました。学区内は整然と区画された住宅地でありながら、雄大な自然に囲まれ、ひとと自然とが見事に共生した美しい町並みとなっています。また、京都大学の新キャンパスの予定地として、これからの発展が大いに期待されるまちでもあります。

学区誕生当時を振り返ってみますと、山林を切りひらいて造られた新しいまちという性格上、何もない所からのスタートであり、学区民の皆様におかれましては、試行錯誤を重ねながら、大変なご苦勞をされたことと思います。そのような時期を乗り越えられ、今日の隆盛が見られますのも、偏に自治連合会を始めとする各種団体の役員の皆様方が、学区民の皆様方と一致協力して、地域の発展のために努力された賜であり、そのご尽力に深く敬意を表します。

私どもといたしましても、桂坂学区の素晴らしい住環境を守り、さらに発展させていくために、より一層の努力をしまいたいと思います。

さて、京都市ではすべての市民がいきいきとくらすよう「もっと元気に・京都アクションプラン」を平成8年に策定し、各種の事業を実施してまいりましたが、昨年はしめくくりの年として、その総仕上げに力を注いでまいりました。

また、アクションプランの後を引き継ぎ、京都市の更なる飛躍を目指す「京都市基本構想」を昨年策定いたしました。

この構想は、わたしたち京都市民が望む2025年までの市民のくらしとまちづくりを市民の視点から描いたものです。

この構想の実現にあたりましては皆様方のご参加が不可欠でございますので、よろしくご理解とご協力をお願いいたします。

最後に、桂坂学区が今後ますます発展されることを祈念いたしますとともに、学区民の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



西京区洛西支所長
成瀬 英夫

桂坂学区創立10周年をお祝いして

桂坂学区の皆様、学区創立10年を迎えられ、誠におめでとうございます。皆様方と共にこの記念すべき佳節を迎えることができましたことは、この上ない喜びであり、心からお祝いを申し上げます。

また、平素は、京都市政並びに西京区政の発展に格別のご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

桂坂学区は、西京区内で最も新しい学区であります。学区創設以来、一斉清掃や各自治会の趣向をこらした統一夏まつりの実施、多彩な文化スポーツ活動、地域福祉活動などに積極的に取り組まれるとともに、自治会館・消防器具庫の建設や消防分団の創設など、学区としての自治機能の拡充と住民の交流促進に力を注がれ、現在では、緑豊かな美しい自然環境に抱かれた、地域活動の盛んな魅力あふれる学区に大きく発展を遂げられています。これも、自治連合会、各自治会、各種団体の歴代役員の方々をはじめ、住民の皆様方一人一人の地域に対する熱い思いとご努力の賜であり、心からの感謝と深い敬意を表する次第であります。

これからも学区人口が年々増加し、住民エネルギーも増大してまいります。皆様方の幅広く、意欲的な活動は、より一層活力に満ちた魅力あふれる地域社会をつくりあげていく上で何よりも大切なものであり、21世紀の桂坂学区のさらなる発展の大きな礎になるものと確信しています。

また、少子化が進行する中で、子育て支援や教育が重要な課題になってきていますが、学区を挙げて取り組んでおられます「子供たちの教育環境の充実と健全育成」への支援は、これからの京都を担う人づくりの原点となる活動であると考えており、子供たちの健やかな成長を願う取組の輪がさらに広がりますとともに、桂坂学区が地域の子供たちすべてが誇り得る故郷となりますよう念願しております。

洛西支所におきましても、皆様方との揺るぎないパートナーシップにより、明るい希望と魅力あふれる桂坂学区を築いていくため全力を挙げて取り組んでまいりますので、より一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、桂坂学区が、この輝かしい創立10周年を契機として、今後ますます発展されますよう心からご祈念申し上げ、併せて住民の皆様方のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



西京自治連合会会長
豊田 英嗣

桂坂学区創立10周年おめでとうございます。また、桂坂小学校も10周年を迎えられましたこと、併せて心からお祝いとお慶びを申し上げます。

平素は、西京区自治連合会の自治活動推進に格別のご支援ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

桂坂学区は、平成に年号が変わりました当時、大枝学区より分離独立されました。発足時は人口2,500人程度でしたが、現在9,650人の大きい学区であります。

発足時「エライ所に住宅が出来たなァ」と近隣の人々は噂をしておりましたが、今や本当にすばらしい学区になり、人々の羨望の的であります。これも菊池会長を中心に役員一丸となり、住民の皆さまのご協力の賜で、唯々敬服するのみです。

学区の女性会、消防団の結成、自治会館兼消防器具庫の建設等、実現されましたことは「立派」の一語であり、先ず女性との合議、学区の防災、そして会議場を整えられたことは「見事」という言葉ピッタリです。

桂坂学区の地域は昔、谷ヶ堂、峰ヶ堂に位置するところで佛教文化の中心地でありましたが、当時の幕府の命により伽藍や佛像、地堂、お地藏さん等ブツ壊され、佛像は西京区内近在の寺々へ安置されております。

また、古墳公園があります。私どもは小さい頃、お正月用の「ウラジロ」別名「ホナガ」ともいいますが、採りに入り、アノ洞窟で遊んでおりました。酒吞童子がおったとか、夢は膨らみます。

このような文化豊かな環境のところだけに、町名に樹木の名をつけられたのもムベなるかなと、感心しておるのでございます。

ご存知のように、西京区には多くの問題があります。

一番に国道9号線であります。これは京都市東西道路の一大幹線でありまして、ラッシュ時の渋滞は相当なもので、実に危険極まりない状態であります。

京都市では地下鉄のイベントが実施されておりますが、洛西ニュータウン建設時から地下鉄を走らせるといっておられたのに、南北や東ばかりであります。やっとな調査費が付きましたが、今後とも建設促進に西京区一丸となり運動を続けて行こうではありませんか。宜しくご協力をお願いいたします。

今後は、都市化が進み、自治活動の分野も順次増大していくと思います。菊池会長を中心に自治会、各団体はじめ学区の皆さんが結束され、また次代を担う子どもたちの育成にも気を配られ、学区が益々発展しますようご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶といたします。



桂坂の人口

桂坂小学校で行われた「地域学習発表会」で、小学生が桂坂地区と洛西ニュータウンの人口を調べ、「人口の移り変わり」を次のような表にあらわしました。ご覧ください。

1995（平成7）年と1999（平成11）年を比較したもので、それぞれ10月1日現在の資料に基づいています。

人口の移り変わり——小学校の調査

学 区	1995年	1999年	人口の増減	
桂坂学区	7481	9586	2105	↗
大枝学区	4571	5558	987	↗
新林学区	10381	9802	579	↘
福西学区	9600	8613	987	↘
境谷学区	8499	8085	414	↘
竹の里学区	7769	6942	827	↘
大原野学区	10179	10253	74	↗

桂坂の推計人口——10月1日

国勢統計	世帯数	人 口		
		総 数	男	女
1988(昭和63)年	728	2538	1230	1308
1989(平成元年)	872	3033	1459	1578
1990(平成2)年	1197	4554	2185	2369
1991(平成3)年	1351	5007	2407	2600
1992(平成4)年	1615	5720	2754	2966
1993(平成5)年	1793	6273	3019	3254
1994(平成6)年	1951	6769	3271	3498
1995(平成7)年	2022	7481	3589	3892
1996(平成8)年	2183	7981	3804	4177
1997(平成9)年	2323	8463	4034	4429
1998(平成10)年	2496	8911	4253	4658
1999(平成11)年	2730	9586	4600	4986



春のプラザ 西洋環境開発提供

10周年の慶祝

桂坂学区創立10周年記念式典 祝賀会

創立10周年記念
事業実行委員会

10月24日
京都エミナース

ミレニアムを目前にした1999年10月24日、桂坂学区創立10周年記念式典とイベントが京都エミナースダイヤモンドホールにおいて挙行されました。

豊田西京自治連合会長、中野西京区長、成瀬洛西支所長、山口桂警察署長ら多数の来賓をお迎えして午後4時開会。

式典前の記念イベントでは、創立10周年を迎えた桂坂小学校に贈られる中路融人画伯の日本画『松籟』（松の梢を吹く風の音）が実行委員会の手で除幕、近江舞子の「松」が披露されました。その後、山の手倶楽部の女性コーラス、矢本知里さんのソプラノ、雨田さんご一家のハープ、チェロなどの演奏——式典に移る前の歓喜と清冽の響きは

参列者に強い感銘を与えるものでした。

その余韻なお残る中で記念式典。「自由な雰囲気」の漂う桂坂」を代表して菊池実行委員長が挨拶、そして豊田西京自治連合会長、成瀬洛西支所長のお二人からお祝いのことばをいただきました。

引続き桂警察署長より「防犯推進」、「交通安全推進」の各功労者が表彰されました。

中路融人画伯ら記念事業に協力いただいた方々には桂坂自治連合会より感謝状が贈られました。

午後6時からは祝賀会。花柳瞳さんの祝舞「俄獅子」と中野西京区長の音頭で「乾杯」のあと祝宴に入りました。榊本京都市長も駆けつけ、桂坂の栄えある10年を祝福してくださいました。

桂坂学区創立10周年記念の諸行事

1998年

12.13 桂坂自治会館・消防器具庫 新築落成

1999年

3.8 桂坂10周年記念事業として 桂坂小学校にコンピュータ等寄贈

3.14 桂坂自治会館・消防器具庫の一般公開

3.14 自治会館に掲げる榊本市長揮毫の扁額『楽在人和』の除幕式

4.18 自治会館の使用開始

5.16 第18回 統一ふれあいクリーンデー

8.21 桂坂統一夏祭り

8.29 実行委員会〈ふれあい会館にて〉

9.24 高齢者ドライバー研修会

10.10 体育祭「前夜祭」〈聖火リレー〉

10.11 第9回桂坂学区民体育祭

10.16・17 合同作品展〈ふれあい会館にて〉

10.24 桂坂学区創立10周年記念「ふれあい会」〈京都エミナースにて〉

中路融人画伯『松籟』の除幕式〈桂坂小学校に寄贈〉

桂坂学区創立10周年記念式典・祝賀会〈京都エミナースにて〉

11.12 桂坂小学校創立10周年記念式典

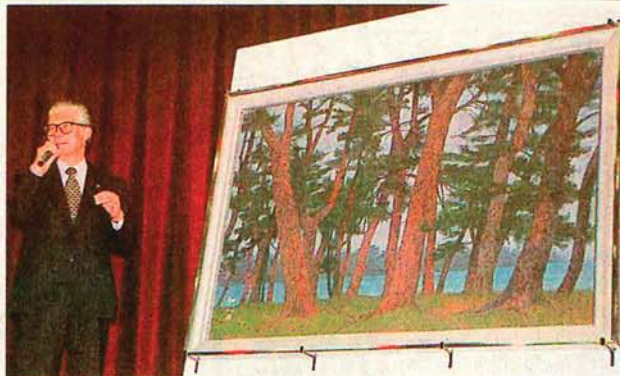
11.13 第7回 カザラッカコンサート・同窓会

11.21 第19回 統一ふれあいクリーンデー





寄贈した絵を前に生徒に気さくに話しかける中路さん



西京・桂坂学区が創設10年 日本画寄贈の画家中路さん

初披露し 絵の魅力語る

西京区の桂坂学区の誕生十周年を記念して桂坂小（魚垣健美校長）に日本画を寄贈した画家の中路融人さん。同区大枝寄掛町に九日、同小を訪れて児童に作品を初披露、絵の魅力などを語り、「自分の好きな道を歩んでほしい」とエールを送った。

「好きな道歩んで」

一九三三（昭和八）年生 委員会の依頼を受け、先月の珍しい「岩絵の具」やスマイルの中路さんは、琵琶湖二十四日に開かれた式典ケッチアックなどを実際に周辺の田園風景を描いた作品で、作品を寄贈した。「松示しながら、「もっと作品を数多く発表し、これま（願）（じょうらい）」と願いを贈り、いい絵をかきたでに文部大臣賞や日本芸術た作品で、百号サイズ、近いと思っっています。みなさん院賞などを受賞した。現在、江舞子の松林を描いてい、一生命努力してほしめる日本画の第一人者。自 この日は体育館で五、六い」と、気さくに話しかける中路さんに、児童らは熱心な耳を傾けていた。



「京都新聞」 1999.11.9



桂坂ふれあい会

日時 平成11年10月24日(日)
pm.1:00~3:30

場所 京都エミナース
ダイヤモンドホール

主催 桂坂学区創立10周年
記念事業実行委員会

1999

桂坂学区の各自治会より選ばれた「まちの達人」たちがすばらしい演奏を披露しました。

力強く打ちならされる祭り太鼓に始まって、詩吟、親子の演奏、姉妹の連弾、独唱に合唱、合奏と続く会場は終始なごやかな雰囲気包まれていました。

文化の秋に催されたこの多彩な内容の「桂坂ふれあい会」は10周年を祝う喜びと華やかさに充ちあふれ、来場の人々の心に強い感銘を残しました。

これだけ多くの「達人」がおられるのです。「桂坂」という可能性豊かな風土に香しい「文化」の華の咲き乱れることを願ってやみません。



開会の挨拶 記念事業実行委員会委員長 菊池潤治

和太鼓 〈桂清流のほり打ち・まつり太鼓〉

‘悠’のメンバーと子どもたち (しらかば)

詩吟 〈名槍日本号〉

津田正治 (さつき)

箏曲と尺八 〈さくら舞曲・荒城の月〉

中川ひとみ・足立美津子・安宅雄山 (さくら)

ヴァイオリンとシンセサイザー演奏 〈二枝誠一曲〉

二枝誠一・二枝祥子・朴梨恵 (にれのき)

エレクトーン演奏 〈星に願いを、ほか〉

星野京子 (あかしあ)

エレクトーンとサクソフォン演奏 〈ディズニーのナンバーより〉

大倉美知子・林努 (もみのき)

独唱とピアノ演奏 〈「ロミオとジュリエット」より〉

Haydn ソナタ ト長調 第3楽章、ほか

十倉紫野・松井愛・陽 (はなみずき)

ポピュラー音楽 〈希望・枯葉・虹の彼方に〉

咲田いずみ (かえで)

女性コーラス 〈早春賦・浜辺の唄・宵待草・どこかで春が〉

松岡重親・プランタン (つばき・けやき)

ピアノとヴァイオリン演奏 〈Mendelssohn ピアノ三重奏曲

(No.1 op49の1) 第2楽章

八木満・雨田一孝・真由美 (ひいらぎ・くすのき)





桂坂学区創立10周年記念

第9回 桂坂学区民体育祭

【前夜祭 平成11年10月10日(日・祝) 午後6時～】

●とき 平成11年10月11日(月・開)
午前8時30分 開会式
(雨天の場合は17日(日))

●ところ 桂坂小学校



【主催】
桂坂体育振興会
【共催】
桂坂自治連合会

【協力】
桂坂小学校 桂坂少年補習委員会
大洛西高等学校 桂坂地域女性会
桂坂消防分団

【協賛先 索引付】

半券は
当日12時
までに受付へ
ラッキーナンバー
№ 000520

ラッキーナンバー
№ 000520

1999年10月11日、桂坂学区創立10周年記念の体育祭が盛大に挙
行され、その前日は初めて前夜祭が行われました。

「西友」前広場で行われた点火式の後、子どもたちを中心とし
た聖火ランナーが、かえで自治会を皮切りにくすのき自治会ま
で全自治会の道路を約4時間かけて走り抜け、最後にトーチを
引き継いだ桂坂小学校の大文字駅伝チームによって、聖火は午
後6時30分、桂坂小学校のグラウンドに到着しました。

聖火リレーという初めての試みに加え、たこ焼きやジュースを
売る模擬店あり、和太鼓や沖縄民謡の演奏あり、そしてフィナ
ーレには皆で手をとりあって踊るフォークダンスありで、参加
者の盛り上がりは大変なものでした。

体育祭も天候に恵まれ、大枝中学校のプラスバンドの演奏で選
手入場、開会式が始まりました。

選手としていろいろな種目に参加する人、自治会代表の選手に
送られる熱い声援、そして昼の休憩時に繰り上げられた洛西高
校の華麗なマーチングバンド、桂坂小学校4年生全員の力強い
集団演舞「ソーラン節」——学区民相互の親睦、大いに深めるこ
とのできた楽しい1日でした。





桂坂学区創立10周年記念

合同作品展

山の手倶楽部
地域女性会

〈かつらざか物語〉

10月16日・
17日
ふれあい会館

1999





桂坂学区創立10周年記念

高齢者ドライバー研修会

9月24日
近畿安全自動車学校



1999

桂坂学区創立10周年記念

桂坂自治会館・消防器具庫

地鎮祭・竣工式・一般公開

1998

1999



感謝状の贈呈

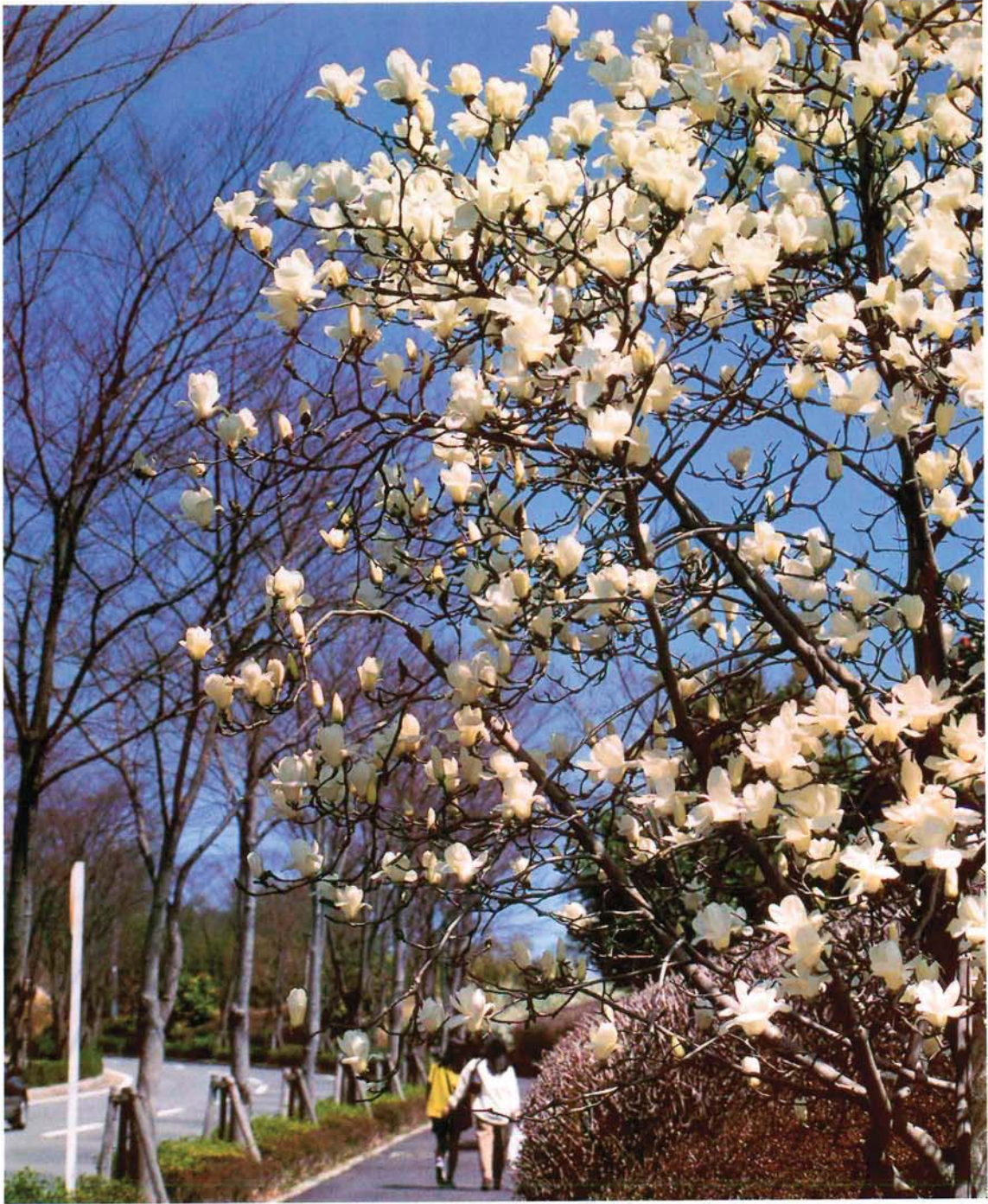


豊田西京区自治連合会長のご挨拶

桂坂自治会館・消防分団器具 竣工祝賀会



岩本住宅生協理事長のご挨拶〈祝賀会の席で〉



中央本通りの白木蓮 山の手倶楽部 大西 功氏

歴史と自然と、そして私たち

歴史と自然と そして私たち

私たちの住む桂坂は、京都駅のちょうど西、周りを風致地区で囲まれています。桂坂小学校の正門右側にある「規準点No1」に拠ると、海拔は161.53m、北緯34°58'56"、東経 135°40'0"です。気温は京都の街中に比べ約1度低いようです。(資料篇「桂坂小学校観測所・気象観測報告」)

風致地区は、自然の景観を維持するために都市計画区域内で指定されたところですから当然、身近に自然を味わうことができます。

1990(平成2)年といえば学区草創の頃です。「騒音対策モデル事業」の各調査が実施された際に桂坂小学校の5年生83名を対象に「公害教室」も開かれ、「日常生活の中で聞こえてきた音」のうち「いやな音・きれいな音」、「好きな音」について子どもたちにアンケート調査を行いました。11月17日から20日までの間に、各家庭で「聞こえてきた音」です。

行き交う一般車両や工事車両の音、ブルドーザなど造成工事では不可避の音、こうした「いやな音」を耳にする中で「好きな音」を聞き分け、5位以上に次の「音」を挙げています。

小鳥の音	13	ピアノの音(きれいな曲)	10
音楽	8	CDの音	4
フルートの音	2	金属バットで打つ音	2
ラジオの音	2	チャイムの音	2

当時の小学生たちは、建設の植音が響き、しかも植栽された樹木もまだ十分生育をみない公園や屋敷周りに朝夕、緑をたずねてやって来る小鳥のさえずりや、流れてくるピアノ、フルートの音色に快さを感じていたのでしょう。

この快い音色のみならず、桂坂の、四季折々に見せる自然の変容も、私たちの目を楽しませ、日常の憂さを忘れさせてくれます。

ところで、そこここに歴史を感じさせ、自然に恵まれた大枝の地に今日の桂坂が出来るに当たっては多くの知恵が集められ、また、新生の街の景観、生活空間の維持にも広い視野に立った細やかな配慮が払われてきました。

この「桂坂」について、先ず「地名」に即して歴史をたずね、次に開発の面からその街づくりの足跡をたどってみます。その後、居住するものの立場に立って活動し、新しい街の維持と更なる発展に寄与するところ大である自治連合会や自治会、あるいは各種団体の誕生とその活動の目的などを記しておきたいと思います。

桂坂の地名をたどる

山田まゆみ

桂坂の位置する西京区は、1976(昭和51)年、右京区から分離し、同年には洛西ニュータウンの入居も開始されました。その7年後の1983(昭和58)年に桂坂の造成が始まり、1986(昭和61)年には、第1期の入居となります。

私たちの街「桂坂」は、今でこそ交通や教育施設、自治会組織など、その当時と比べれば随分、整ってきましたが、歴史都市京都の中では「新しい街」です。

しかし、ここ大枝の歴史は古く、旧山陰街道を歩いてみると、淳和天皇御母陵、宇波多陵、伝大江関跡、さらに老ノ坂までたどれば、首塚など、実に多くの史跡に遭遇します。また桂坂センターの東には「古墳公園」もあり、この地に多くの歴史が秘められていることがわかるでしょう。その歴史のすべてを辿るには、時空ともあまりにも広大ですが、せめて私たちが住む街の地名の由来くらいは知っておきたいものです。

大枝

桂坂の街は、大枝北杵掛町、御陵大枝山町、御陵峰ヶ堂町の3つの町名で構成されています。因に「桂坂」というこの街の名は、西洋環境開発が販売にあたって命名したものです。

現在「大枝何々」と称される地域は、旧道沿いを含め広い範囲に及びますが、そもそもは1888(明治21)年に杵掛町、塚原村、長野新田村の3ヵ村が合併して大枝村として成立したものです。当時は京都府乙訓郡に属しており、京都市右京区へ合併されるのは、かなり後の1892(明治25)年です。

歴史の中の大枝

では、この3村の合併により新たに付けられた「大枝」という地名は、どこから来たのでしょうか。

古代史を紐解くと、山城国乙訓郡大江郷という名が見えますが、その範囲は定かではありません。

一説には、桓武天皇の母、高野新笠(たかののにいがさ)の実家が**大枝**にあり、その新笠の母である土師真妹(はじまいも)が、桓武天皇から大枝という姓を賜ったことに由来するといわれています。しかし、土師真妹の墓は、大和国平群郡(奈良県生駒郡)にあることから、真妹は大和に住んでおり、大枝姓を賜ったのは、娘である新笠の墓・大枝陵の所在地に因むものともいわれています。

また、山陰道の老ノ坂峠の峰は大枝山とよばれていますが、18世紀末の『都名所図会』によると老ノ坂は「大枝の坂」と表記されています。この大枝山は、源頼光の酒吞童子退治の伝説と結びつき、今も旧山陰道沿いに首塚大明神

の祠があって、頼光の退治した酒呑童子の首塚であると伝えられています。この酒呑童子で有名な「オオエヤマ」は現在の加佐郡大江町と与謝郡加悦町の境の山であるという説が有力ですが、大枝の人々は、山城国と丹波国の国境であった大枝こそが、その地であると信じているのです。

そもそも「大枝」は、平安京建都に際し、この辺りから木材を供給したことに由来するといわれる地名ですが、その他にも様々な史料があり、素人としては特定することはできません。しかし、「大枝」という地名は古くから伝えられた地名であることだけは間違いのないでしょう。

沓掛

沓掛という名は、交通の要衝によく見られる地名で、一般に「履物を懸け置く」ところに由来するとされます。旧山陰道は京から山陰へ通じる重要な街道であり、旅人は、大宮通りの丹波口から西七条、そして桂川を船で渡って檜原、塚原、沓掛を通り、丹波、丹後へと歩いたのです。檜原には、現在も檜原本陣跡が残っていますが、かつてこの街道沿いに旅籠や茶店が軒を連ねていた時代を想像すれば、この地に沓掛という名が付いたことは、ごく自然の成り行きと思われまふ。

御陵大枝山

この地名の大枝山は当然、先の「大枝山」から来たのであり、また、その意味が天皇、皇后の墓所であることを示す「御陵」も、旧街道沿いに点在する御陵を思い起こせば不思議ではありません。

しかし、この地になぜ多くの御陵が存在するのかを考えるには、現在、桂坂センターの東にある古墳公園に残されている古墳の作られた時代に逆上の必要があるでしょう。

桂坂の右の扇状地には集落跡が、そして、松尾山から南南東方向に派生する丘陵上では数多くの古墳が発掘されています。桂坂に近い洛西、大枝地区（大枝東長町、北福西町）で1971（昭和46）年に発見されたナイフ型石器は、驚いたことに後期旧石器時代の物であり、また、縄文初期の土器なども発見されています。このことから、この時期においては、この辺りが狩猟、採集を中心とした古代人の生活の場であったことが推測できます。

その後古墳時代に入り、檜原周辺にその時代の首長墓であろうと考えられる一本松古墳、百々池古墳、天皇の杜古墳などが作られます。

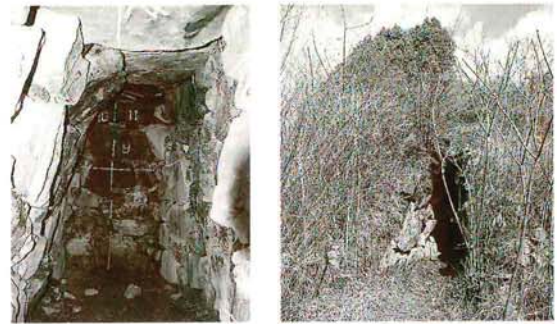
桂坂の古墳

さて桂坂の古墳ですが、これは古墳時代後期のもので、大枝山古墳群と呼ばれ、福西古墳群、沓掛古墳群、塚原古墳群と共に群集墳です。このことは、この時代に、この丘陵や山あいが墓域として利用されてきたことを示すものでしょう。

大枝山古墳群は20基を超える大群集墳であり、1980（昭

和55）年以降、何度となく発掘調査が行われました。それらの古墳は円墳で、形状をよく残している10数基が現状のまま今も古墳公園に保存されています。

7世紀前半には、これらの古墳時代は終わりを告げますが、長岡京以降に桓武天皇の生母高野新笠の大枝陵などが築かれていくのも、この地が古代貴族の葬地であったことと無縁でないかもしれません。つまり古墳時代以来、この地は畏敬されるべき神聖な地であったということであり、それを示すのが「御陵」という地名なのです。



峰ヶ堂

桂坂のロータリー以東、いわゆる東地区は、「御陵峰ヶ堂町」と呼ばれます。この地名については、松尾山の山麓を流れる西芳寺川の谷にあった最福寺の存在に触れなければなりません。最福寺は、1176（安元2）年に延朗という僧により開山され、南北朝時代には多くの堂舎や五重塔などが建てられ、かなり立派な寺であったようです。また、当時この辺りが谷郷と呼ばれていたことから「谷堂」とも呼ばれていました。この最福寺と隣接して延朗の弟子の証月房慶政という学僧により建てられたのが法華山寺です。「谷堂」に対し、松尾の奥のこの寺は「峰堂」と呼ばれており、最福時に劣らぬ寺観を有していたといえます。

この両寺は、南北朝の幕明けである1331（元弘元）年の元弘の乱の直後、丘火により焼失します。その後、両寺は復興するのですが、再び応仁の乱（1466）で「谷堂」が、翌年には「峰堂」が焼失し、二度と再建することはありませんでした。

この2つの寺を廃絶に追いやったのは、両寺が、唐櫃越や老ノ坂越という歴史上の交通の要、特に戦時下の要道に位置していたためです。ともあれ、現在の「峰ヶ堂」という地名は、法華寺こと「峰堂」の名残りなのです。

終わりに

以上、桂坂の町名についての由来をたどりましたが、この他にも、地名ではないが、バス停の一部にもなっている「天蓋」や「唐櫃越」の「唐櫃」についての由来にも興味深いものがあります。

新しい街「桂坂」が先人のさまざまな歴史や思いの上に存在することを思うと、いま生きている私たちがこの地を守り育て、より良い街にしていかなければと改めて思います。

桂坂の開発

私たちの住むこの桂坂では、庭先に飛来した小鳥が枝を移りながら花の蜜を吸い、葉裏の虫を器用に捕る愛らしい姿や、さらには幹線道路沿いの、さして水量の多くない人工の川の上をセキレイが滑るように翔ぶさまえ目に見ることができます。

私たちが身近で鳥の姿やさえずりに接し、心を和ませようするのは、「人と自然との共生」を基本に据える街づくりがここに来て結実しつつあることの現れでしょう。

この地はもともと、洛西ニュータウンと同じように竹藪や柿畑の多い丘陵地帯でした。1960（昭和35）年の半ばより洛西ニュータウンの開発・造成が京都市の手で始まり、続いて民間、すなわち西武都市開発（現西洋環境開発）によって小畑川の北に続く丘陵地の山林などが切り拓かれていきました。山が削られ谷が埋められて、山容も一変、一大造成地が生まれたわけです。

この間の事情を、大枝地区在住の田原正夫元大枝自治会長にお聞きした折りの「聞き書き」（広報『桂坂』7号～8号）を基に再構成してみます。

桂坂の昔

かつてこの桂坂は、田と竹林と柿畑に囲まれた自然の恵み豊かな里でした。標高120～180米位の緩やかな傾斜面を

中心として丘陵部を削り、沓掛北部と塚原北部の下狩川の谷を埋めて造られた街です。

現在、「天蓋公園」と呼ばれているあの辺りは、「『てんがざき』と呼ばれ、東と西に同じ高さの小高い丘があって、男の子たちの兵隊ごっこには格好の場所でした。女の子たちは、わらび採りでもしていたのでしょうか。それとも昔、水晶が出たそうなので、宝探しをしていたのかも知れません」。

造成までの苦労話

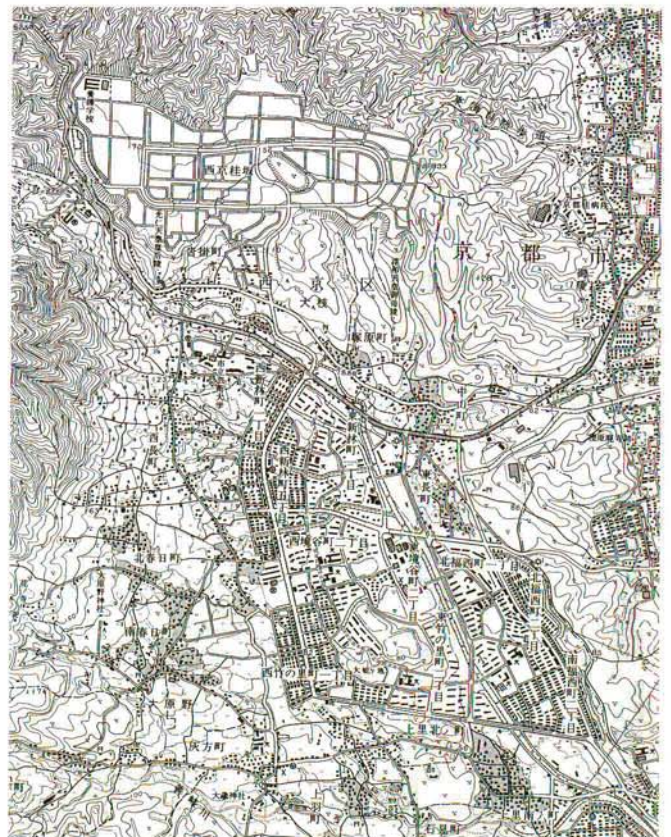
「この静かな里に大造成の話が持ち上がった時には、様々な意見がありました。しかし当時の役員たちは、将来的な地域の活性化という点からその必要性を説き、人びとの同意を得ました。ところが土地を売却したものの、造成までには長い年月を要しました。それは、昭和40年に国道9号線のバイパスが開通すると、洛西ニュータウンの建設の方が先に進められていったからです」。

この間に、「地元のものが一番苦労したのは、猪の被害です。人の入らなくなった山や田は、猪の格好の遊び場と化し、時には人家のすぐ裏にまで姿を現すのです。被害の続出にワナを考えたり、コールタールをまいたり、その対策に追われることになりました」。

このような予想だにできなかった事態の発生のため、一日も早い着工を願った大枝の人たちは、西武都市開発と共に許可を求めて奔走しました。その結果ようやく昭和58年、桂坂の造成が開始されるのです。



1979（昭和54）年の桂坂



1986（昭和61）年の桂坂

造成の開始とその工夫

「何しろ一つの街を造るという大造成です。地元としては当然、雨水による土砂崩れや田畑への被害を心配しました。西武都市開発とも十分話し合い、万が一、被害の出た時のために農協に積立てもしました。しかし、その心配も杞憂に終わりました。というのも、自然の地形や流れを活かした造成が行われたからです」。

桂坂は「緩やかな丘を削り、谷を埋めて造られた街。例えば、現在、西友桂坂店のある辺りも、当時は〈百日谷〉と呼ばれる谷でしたが、もともとの谷の部分に穴あきパイプを埋めて石を敷き、その上に土をかぶせ、排水に工夫が施されてあるそうです。大きな沈砂池が作られ、雨やドロがそこで止められたために、心配された大雨でも被害はありませんでした」。

ここを西洋環境開発の話で補えば、盛土を馴染みやすくし、滑りを防止するために、「あらかじめ表土を取り除いた斜面地には、現況の地盤面に段切工を施し、「その」最深部には暗渠工（土質によってはサンドマット工を採用）により、集水管などの透水施設を設け」ているので「雨水は地下に滞留することなく、宅地外部に速やかに導かれる」というわけです。（西洋環境開発発行・桂坂ニュース『るりびたき』1999.8.25）

「驚いたのは、その重機の大きさです。今まで見たこともないようなもので、その腹の中に土をすくい、それを薄く地面に敷き、その上を重機が何度も往復しました。それはもう地面が固くしまって、これなら地崩れなど心配ないと思いましたよ。大きな岩盤につきあたり、火薬を使ったこともありました。その時も安全対策はきちんとされていましたね」。

地元の理解と協力

このように地元の方が見守り、そして理解と協力の下で造成工事は着々と進み、「桂坂」の街は出来てきました。

「お互いに相手の立場に立って考えること。自分勝手ばかりでは地域は育ちません」——田原氏のこのことばからは、ご自身の住む地域を愛し、地域の発展に尽力され、人とふれあって来られた歴史が感じられます。



桂坂の街づくり

人と自然との共生

山林を大々的に切り拓き、自然の変容著しい「桂坂」の開発に際しては、マスタープラン策定の段階より、元の自然をできるかぎり復元すべく「まちづくり委員会」「自然形成委員会」など4つの委員会がつくられ、その中で京都にゆかりのある有識者や地元の人たちの意見を求め、様々な角度から検討が加えられていきました。

この丘陵地帯には6、7世紀に起源をもつ「大枝山古墳群」がありますが、当然、次代に引き継ぐべき文化遺産です。この点に配慮しつつ開発を進めるために「古墳公園委員会」が結成され、また、この土地が多くの野鳥の棲息地である点に留意して、京都野鳥の会を初めとする有識者や地元民による「バードサンクチュアリー委員会」まで設立されています。

桂坂野鳥園

この緑多く色彩豊かな自然環境は、実は、自然そのものではありません。自然を残しつつ大胆に人の手を加えて造られたところの、いわば「人工の自然」です。野鳥園がその好例でしょう。

開発造成に伴う樹木の伐採、重機や大型ダンプの騒音、舞い上がる砂塵などによって当然、棲息する動物はねぐらを追われ、植物は生育の環境を失います。そこで野鳥の場合は、事前に時間をかけて棲息していた種類を調査し、開発完了後にその鳥たちを呼び戻すことができないかが真剣に検討されました。

その後、開発のマスタープランの基幹ともなる「人と自然との共生」という考えのもとに、桂坂のちょうど中央に鳥の生態にかなった環境、つまり池や湿地、落葉の堆積する樹林など人工的で、鳥にとって好ましい環境が造られていくのですが、いま私たちの庭前を訪れる鳥の種類が多くなったのも、鳥にとっての自然が「復元」されつつあるからでしょう。

今後は私たちが「自然との共生」を念頭におきながら、この桂坂の「自然」のたたずまいを私たち「人の工み」と心遣いで大切に守り、次代に送る必要があります。



「騒音対策モデル事業」

自治連合会が設立されて間もない1990（平成2）年10月から翌3月にかけて、自治連合会・西京保健所・市衛生局環境保全室の3者による「騒音対策モデル事業」の一環として種々の調査が行われました。

これは、都市生活の複雑多様化にともない増加傾向にある「生活騒音」問題を解決するには、「地域社会のコミュニケーションの育成や日常生活におけるモラル・マナーに関する自主的なルール作りなどによる良好な近隣関係を築くこと、騒音防止意識を高めること、そして騒音防止に対する知識を広めることなどにより騒音問題の発生しにくい地域社会を作っていくことが必要である」との考えに拠るものです。

「住みよいまち『桂坂』の静かな街づくり宣言」

各自治会、桂坂小学校の児童の協力のもとに実施された調査結果は、「住みよいまち『桂坂』の静かな街づくり宣言」に集約されるとともに「報告書」（60頁の冊子）として全戸に配布されました。

この「宣言」には桂坂自治連合会の「街づくり」に対する考えの一端が披瀝されています。



私たちは、この「桂坂」を生涯の住みよい町として、今の良い環境を守り、愛し、この環境を後世に伝えていきたいと願い、この1年間静かな街づくりのためのいろいろな活動に取り組んできました。そこで、私たちの総意としてここに「住みよいまち『桂坂』の静かな街づくり宣言」をするものです。

■私たちは……

より住みよい町とするために、お互いに迷惑をかけない、思いやりと助け合いの近隣関係を築いていきましょう。

私たち自身の手で、町を守り育てるため、みんなでより良いコミュニケーションづくりに努めましょう。

■住みよい環境を守り、育てるために……

1. 自動車・オートバイに乗る時は、 unnecessary 空ぶかしやクラクションは控え、地区内では、安全速度を守り静かな運転を心がけましょう。

なお、子供達の安全と他の車の通行を確保するため長時間の路上駐車はやめましょう。

2. ピアノなど楽器の演奏は、夜間大きな音を出す曲や演奏などは控え、他の人に迷惑をかけないようにしま

しょう。

なお、長時間演奏する場合は、窓、扉、カーテンなどを閉めて音が外に漏れないようにしましょう。

3. ベットの飼育は、マナーを守って他の人に迷惑をかけないようにしましょう。

4. 花火は、迷惑のかからない広い場所で、時間と後始末に注意して遊びましょう。

5. その他、

(1) 個人個人の生活があります。他の人の生活も考えて、特に早朝深夜は近隣への思いやりと心配りを忘れないようにしましょう。

(2) 隣近所とのあいさつや自治会の行事に参加し、お互いのコミュニケーションを深め、友好的な関係を築くことに努めましょう。

(3) 身近なところから、心がけひとつで、だれでもできるこの環境を守り育てる活動に積極的に取り組みましょう。

以上のことに心がけて、暮らしていきたいと思います。

平成3年3月

桂坂学区自治連合会騒音対策モデル事業 検討委員会

桂坂の街と地域社会

この時のアンケート結果から、私たち住民が桂坂の街・地域社会をどのように把えていたかがえます。

問：あなたのお住い周辺の住環境・自然環境をどのように感じていますか。[回答数 969]

大変良い	311 (32.1%)	悪い	19 (1.2%)
良い	511 (53.7%)	大変悪い	6 (0.6%)
普通	120 (12.4%)	分らない	2 (0.2%)

問：あなた（家族）はご近所の方々のおつきあいについてはどうですか。[回答数 965]

よくつきあっている	199 (20.6%)
話し合うこともある	399 (41.3%)
あいさつをする程度	329 (34.1%)
あまりつきあいがいい	32 (3.3%)
顔も知らない	5 (0.5%)
分らない	1 (0.1%)

問：あなたは地域（自治会、少年補導委員会、体育振興会など）の行事に参加していますか。[回答数 961]

よく参加している	230 (23.9%)
あまり参加していないが、できれば参加したい	520 (54.6%)
あまり参加していないし、これからも参加する気はない	138 (14.4%)
分らない	68 (7.1%)

住みよい街づくりのためには

最後の項目で求められた「騒音防止や環境保全、より住みよい街づくりなどについてのテーマとなるような標語」

として挙げられたものの中に、例えば次のようなものがありました。

おはようと 笑顔ではじまる 桂坂
心がけ一つで住みよい桂坂
育てよう 美しい心の宿る街
ちょっとした気配りニッコリお隣さん
よい街は 心配りが 行き届き
住み良さは 一人ひとりの 気配りで
思いやる心と心で よい町を
街づくり 心づかいが 我が家から

総数 104のうち、50%以上の標語に「心がけ」や「気配り」「自覚」といったことばが用いられ、「挨拶」や「声かけ」も15%。その頃の皆さんが、新しい住環境の中で生活していくのに、いかに心の「ふれあい」を大切にされていたかがよく判ります。



この看板は、桂坂口よりロータリーに向かって右側の、カツラの木とおかめ笹の植込みの中に立っています。

この文言が出来あがるまでには一字一句の慎重な検討がなされていますが、ここには、「桂坂」の街づくりの基本姿勢と住環境維持の強い願いが表現されているようです。

私たち、十分肝に銘じておきたいことです。

環境の維持保全の努力

建築協定

桂坂では、街並みの景観を将来ともに崩すことなく維持していくために、宅地の分譲段階で「建築協定」が結ばれています。

この「建築協定」とは、「一定の地域の住民が全員の合意によって、建築基準法や条例よりも厳しい建築物に関する基準を定めて、互いに守り合っていくことを約束する制度」すなわち「合意協定」です。

一人協定

新しい住宅地である桂坂は、マンション地区を除いて建築協定が結ばれていますが、この桂坂地区は、宅地開発時ディベロッパーが一人の段階で（西洋環境開発株式会社、または住宅生協、住宅公団）、京都市長との間で建築協定を結び、建築協定付きで宅地を分譲するものであり、「合意協定」に対して、桂坂地区の建築協定は「一人協定」と呼ばれるものです。

この「一人協定」の特色は、「宅地開発のはじめから望ましいまちづくりを行うことができ、分譲後も良好な環境を維持することができる」ところにあります。

建築協定委員会

1995年の初めにはすでに桂坂の建築協定地区は全部で22ありました。各地区には、「それぞれ22の地区の特色を活かしてまちなみを育てていくうえで「非常にこまやかな内容についての規定」が設けられ、「壁の位置は言うに及ばず、敷地の最低規模、屋根の勾配、軒の寸法、生け垣、柵の材料から壁の仕上げの色や材料について『桂坂地区』全体での調和を図りながら、それぞれの地区での特色に応じた規定が決められています」。

各地区には建築協定委員会があり、住みよい街を維持するために建築協定に則って活動しています。桂坂地区は、京都市建築協定連絡協議会（同会副会長の一人は、桂坂第15・17地区——にれのき建築協定地区在住の別所貞俊氏）にも加盟し、その広報紙『建築協定だより』を配布するとともに、各地区で作成した広報紙で会員に新しい情報を提供しています。なお、平成9年（1997）頃より協定の認可後10年を経過した地区から逐次、自動更新されています。

私たちは、桂坂の景観・街並みを乱すことなく維持していくことを願う「建築協定」を、宅地・建物を購入すると同時に結んでいることになり、街づくりに参加している、実は重要な一人なのです。



桂坂学区自治連合会発足のころ

自治連合会顧問 湯浅 忍

1987（昭和62）年～1989（平成元）年頃の桂坂はまだ戸数が少なく、かえで自治会としらかば自治会ができ、小・中学校が開校し、さつき自治会が誕生したところでした。住民の全員が移住者で、知らないものばかりでしたから、かえで自治会の場合は予め開発業者（西洋環境開発）が役員候補者10名を選び、住民の承認を受けて準備活動を始めるといふ手続きをとりました。

1988年4月のかえで自治会設立までには約7ヶ月の準備期間を要しましたが、桂坂における最初の自治会づくりでしたから、かえで自治会のことのみでなく、桂坂全体のこと、街づくりのことなどを考えて、随分と協議を重ねました。組織や方針、名前、会則、班づくり、行事計画などの他に、小・中学校の開校準備、自治会館の建設、交通ルール、次に出来る新しい自治会の結成手伝いなど、役員が分担して仕事を進めておりました。

その頃に西京区洛西支所から、自治連合会を作っていただけないかと相談があり、かえで・しらかば・さつきの3自治会長が洛西の指定場所に集まり、大石洛西支所長様、田原大枝自治連合会長様の立会いのもとで連合会の結成を話し合い、合意をいたしました。

たまたま私が選ばれて会長をお引受しましたが、活動経験も浅く微力でしたので、副会長様、事務局長様、役員様の協力をいただきつつ運営に当たっておりました。

初面識の方が多く、会合は議論百出で、意見の調整に苦勞したこともありましたが、「狭い門よりはいる」（新約聖書）を金科玉条にして、無理をしない、できることから少しずつ実行に移すことに心がけ、役員の皆様にもそれをお願いしておりました。

連合自治会の役員は各自治会から均等に選ばれておりましたが、当時、私がかえで自治会の会長も兼務していた関係で、運営方法や行事など、かえで自治会のやり方を参考にすることが多く、かえで自治会のものと重複したこともあったと思います。

桂坂の開発業者の方針は、桂坂を〈自然と人とが共生できるお屋敷まち〉にしたいということでした。そしてまたこの桂坂の良好な住環境を求めて各地から移られた方々ばかりでしたから、その要求に合うような自治会活動をしなければなりません。

そのことを考えながら協議を重ねて、まずお隣さんへの声かけ運動を起すためのクリーン作戦、夏祭り、自治会掲示板、バス停待合所、バスの増便、郵便ポスト設置など少しずつ実行に移しました。

当時は好況時で、宅地開発も盛んで、販売も急増し、在任中に7自治会が誕生いたしました。

今年10周年を迎えて時の経つ速さを感じておりますが、桂坂の街も、桂坂自治連合会も充実発展をしており、嬉しいことです。この発展は、菊池会長様、田畑副会長様という名コンビのご奮闘ご活躍と役員様のご協力によるものと考えておりますが、なお一層の隆盛を祈念し、また、21世紀に誇ることのできる桂坂の街となるよう念願しながら、桂坂自治連合会草創期の報告といたします。

自治会と自治連合会

「人と自然との共生」を謳うこの「桂坂」への「移住」は、1986（昭和61）年4月から、桂坂口をロータリーに向かって左側の地域、すなわち、かえで自治会（北杵掛町6丁目・5丁目）より始まりました。

学区最初の自治会——かえで自治会

このかえで自治会は、約7ヶ月の設立準備期間に、「何年か先に出来あがる桂坂学区の姿を思い浮かべ、その時に『在るべき姿』を全員で考へ（湯浅忍現自治連合会顧問「新しい酒は新しい皮袋に」・広報『桂坂』50号）、様々な角度から協議を重ねた末に、1988（昭和63）年4月、学区最初の自治会を誕生させました。

「無理をしない、強制しない」・「知らないもの同士の集まりだからふれあいを大切にする」・「できることから始める」という3本柱を立てて組織づくりが始まりました。

自治会の命名に際しては、候補に上った「桂坂」の名は

いづれ出来る連合会組織の名称として残しておき、「人と自然との共生」の街づくりにふさわしい樹木の名をもって命名することに決まりました。自治会名「かえで」はこうして生まれました。

また、「ふれあい」を標榜する自治連合会主催の「統一クリーンデー」も発祥はこのかえで自治会でした。

当時の小林健一副会長から「『おはようございます』という町内での挨拶運動、お隣りとの声かけ運動を進めるために、クリーン作戦を行ってはどうかという提案」（湯浅氏前掲文）があり、月に1回、実施されることになりました。これが昨秋で19回を数える自治連合会の一大行事にまで発展し、さらに創始者の願いは、いくつかの自治会で月ごとのふれあいクリーンデーの形で受け継がれ、自治会行事として定着しています。

桂坂自治連合会の胎動

同年5月には2番目のしらかば自治会が北杵掛町3丁目に、翌年4月には北杵掛町4丁目にさつき自治会が生まれました。この3つの自治会は、連合会結成の準備段階から

意見を交換し、桂坂学区の将来像を思い描きながら活動を開始しました。

桂坂小学校の開設準備委員に名を列ね、また、行政からおりてくる各種団体結成の要請にも可能な限り応じていかねばなりません。その他に、国勢調査や選挙の投票学区としての仕事、バスの増発、通学路の安全など学区全域に関わる問題も出始めました。さらに9月には、小学校で児童対象に自転車の乗り方、横断歩道の渡り方など交通安全教室を実施するという桂警察署からの話もありました。

これら継起する問題には各自治会が横の連絡を密にしながらかつていく必要に迫られます。そこで7月初め、こうした問題は各自治会で一旦検討した上で持ち寄り、決定していくことにし、その頃、自治会結成の途上にあった自治会を含め、2名づつ選出された「連絡者」が集まって検討していききました。

桂坂自治連合会の誕生

こうした先駆者なるが故の苦勞の中で準備は慎重に進められ、1989（平成元）年7月9日、大石洛西支所長ら立会いの下、3自治会が連合の発足に合意、8月5日、「桂坂学区自治連合会」の「発足届」が市に提出されました。

初代の会長には湯浅忍かえて自治会長、副会長に米田和雄しらかば自治会長と後藤正幸さつき自治会長が選ばれています。

この時から桂坂自治会館が出来る1999（平成11）年までは、自治連合会の役員会など小規模の会合は、会場も各自治会の会館の持ち回り。もちろん各自治会にしても、設立準備の段階や自治会の会館が建つまでは、それぞれの団地開発業者の事業所やインフォメーションセンター、あるいは学校やふれあいの里など既設の施設を借用して会合を重ねざるをえませんでした。

その後発足したのは1989（平成元）年11月のあかしあ自治会（北沓掛町2丁目）と1990（平成2）年4月のひいらぎ自治会（御陵大枝山町6丁目）の2自治会。この2つを加えた5自治会が集まり、同年5月、第1回桂坂自治連合会総会が桂坂小学校ミーティングルームにおいて開催されました。因に、当時の各自治会を構成する世帯数は次の通りでした。

かえで自治会	267	あかしあ自治会	125
しらかば自治会	159	ひいらぎ自治会	150
さつき自治会	125	合計	826

1991（平成3）年4月には、ほぶら自治会（北沓掛町2丁目・サンシティマンション）つばき自治会（御陵大枝山町5丁目）が、1993（平成5）年4月に、はなみずき自治会（北沓掛町1丁目・サンシティロイヤルマンション）が発足し、自治連合会に加入しました。

自治連合会の行事

1990（平成2）年秋、学区で最初に行われたクリーンデー

の成功を伝える、広報『桂坂自治連合会だより』創刊号（1990.12.10）の記事です。

第1回ふれあいクリーンデー 成功裡に終わる

11月18日（日曜日）晴天に恵まれ、第1回「桂坂ふれあいクリーンデー」が無事終了しました。各自治会のクリーンデーを桂坂全体に普及し、お互いの自治会同士のふれあいの場になり、又、桂坂全体の美しい街作りに役立てればとの願いでしたが、事務局発表では約数百人の参加者とのこと、桂坂の意識の高さに改めて驚かされました。（略）

小、中学校、養護学校、ふれあいの里等も日を変えて実施して頂きました。又、西洋環境開発も背広を作業衣にかえて軍手を持っての参加でした。

来年は2回の実施を考えています。

翌1991年の5月には第2回クリーンデー、8月の17日、24日、25日には、各児童公園において、7つの自治会がそれぞれ分かれて夏祭りを実施し、9月には第1回行政懇談会が小学校のミーティングルームで開かれました。さらに10月には、第1回の学区民体育祭が実行委員会によって挙行され、小学校のグラウンドは終日、家族参加の和やかさの中で歓声に包まれました。

13の自治会による大きな連合に

その後、宅地分譲が進み、「桂坂」の街並みが整っていきくとともに加入する自治会の数も増えていきました。

1993（平成5）年4月、副会長の菊池潤治氏が会長に就任、「住環境の保全整備」「各種団体との緊密化」の事業計画を明確にし、

- (1) 自由な雰囲気漂う桂坂
- (2) 便利で暮らしやすい桂坂
- (3) 安全安心のまち桂坂

を運営指針として取り組みました。

1995（平成7）年3月にけやき自治会（御陵大枝山町1丁目・2丁目）、1996（平成8）年4月に、にれのき自治会（御陵峰ヶ堂町1丁目・3丁目）と、さくら自治会（御陵峰ヶ堂町2丁目）、1997（平成9）年6月に、もみのき自治会（御陵峰ヶ堂町2丁目）、1999（平成11）年3月にくすのき自治会（御陵峰ヶ堂町3丁目・御陵大枝山町4丁目）が結成され、それぞれ親睦・交流を深め、安全で快適な生活環境を守ることなどを目的に掲げながら自治会の活動を開始しました。

あかしあ自治会

あかしあ自治会は、1989（平成元）年11月の発足です。「自然環境に恵まれた〈桂坂くつけ〉を、心ゆたかな生活が過ごせる街」、いいかえれば「自然環境を守り、人と人とが支え合い、心のふれあい、うるおいのある街、そんな人にやさしい素晴らしい街をみんなの力で築きあげてい

きたい」(議案書「発足に際して」)とするあかしあ自治会は、設立の当初から、どの自治会の設立目的にも掲げられる「会員相互の親睦」を重視していろいろな行事を企画し実施しています。

はなみずき自治会と合同の夏祭りには、揃いのはっぴを着た男の子・女の子が神輿をかついで元気よく町を練り歩きます。11月に行われる「敬老会」はあかしあ会館に70歳以上のお年寄りを招き、団樂の場を設けて会食、長寿を祝います。12月は、初めは「子ども」対象だったものを今では大人も巻き込み、会館前では朝から賑々しく糯米をセイロで蒸し、白に杵、町内挙げての「餅つき大会」です。



また、秋祭りの「焼肉パーティ」はあかしあ公園で盛大に開かれます。ふれあいの里・療護園の人たちを招き、町

内すべての人が対象の親睦行事、年齢による有料無料はありますが、盛り上がりがないはずはありません。

設立当初からのこうしたいくつものイベントの中で、人と人とのふれあいは深まり、自治会内、班内の協力関係もスムーズにいつているようです。「住環境の素晴らしい、平和で明るく健全な私たちの街をいつまでも保つ」ためには「自治会活動も単に『親睦を深める自治会行事』のみならず、自治会活動を通じて盛り上がる会員同士の結集した力」で「諸問題を受け止め対応し、解決していく必要がある」とは、永富進現会長の就任挨拶に見えることばです。(広報『やまびこ』47号・1999.4.28)

「会員相互の親睦」「会員の福祉安全」に重きをおく自治活動の1つのあり方として紹介しておきます。

各自治会の世帯数(1999年9月1日現在)

かえで自治会	291	さつき自治会	220
しらかば自治会	191	はなみずき自治会	199
あかしあ自治会	133	ほぶら自治会	205
けやき自治会	135	ひいらぎ自治会	257
つばき自治会	241	くすのき自治会	132
にれのき自治会	182	もみのき自治会	212
さくら自治会	126		

桂坂の各種団体

「街づくり」は、地域に住む人たちの多彩な活動があってこそ活きたものとなり、その考えも地域にしっかり根を下ろしていきます。

桂坂には現在、20近い団体が「各種団体」として活動しています。最初のできる団体は、地域に自治連合会の組織がつくられる際に、行政の働きかけ・助言・指導があって生まれるのが常です。こうした団体は、京都市全域→西京区内→桂坂学区(支部)という順に、上部団体から下部組織へと縦に系列化された中で情報を交換し、協力し合って活動していきます。

桂坂でも、自治連合会の結成された直後に先ず、次のような委員会・協議会が生まれました。(括弧内は、初代会長、敬称略)

市政協力委員連絡協議会(湯浅忍自治連合会長兼務)
共同募金会・日赤奉仕団(菅谷公恵・しらかば)
保健委員協議会(松尾隆夫・かえで)
献血委員協議会(松尾隆夫・かえで)

体育振興会(永江望昭・かえで)
少年補導委員会(永井裕一・しらかば)

その後あい前後して、次の団体が出来ていきました。

民生児童委員協議会(湯浅忍・かえで)
文化普及委員会(田邊尚士・さつき)
交通安全推進協議会(森田啓三・あかしあ)
桂坂・山の手倶楽部(立野和之・ひいらぎ)
社会福祉協議会(湯浅忍・かえで)
防犯委員会(菊池潤治・しらかば)
→防犯推進委員協議会(鹿野準一・かえで)
暴力追放協議会(菊池潤治・しらかば)
桂坂学区女性会(安楽つねみ・さつき)
→桂坂地域女性会(山田まゆみ・かえで)

桂坂自主防災会(菊池潤治・しらかば)
桂坂消防分団(湯浅仁司・かえで)
桂坂小学校PTA
大枝中学校PTA

これを系統図で示せば次のようになりますが、行政からの連絡の窓口は、洛西支所の地域振興室です。



会員制をとる各種団体

ところで自治会は「会員相互の親睦をはかる」、「地域の発展に寄与する」、「住民の福祉」などを目的として結成されます。発足の段階で「会員相互の親睦をはかる」ことを第一に、子ども会や老人会を作ったり、ソフトボール大会など体育行事を企画したりして活動を開始し、この時に同好・親睦の会も産声をあげます。この同好・親睦の団体の中には、学区全体で1つにまとまり、その後、上部の団体に所属していくという径路をたどるものがあります。

山の手倶楽部や地域女性会がこの例で、両者は会員を募り、会費を出しあって会を運営します。

山の手倶楽部

「各種団体」の例として、元気に文化・健康維持の諸活動を展開している「山の手倶楽部」を挙げ、紹介します。

この倶楽部は、自治会の「福祉」事業の一つとして生まれた「老人会」や「シルバークラブ」などが「大同団結」し、1992年4月26日、「桂坂・山の手倶楽部」として新たに旗揚げしたものです。

倶楽部結成に先だつアンケート調査（1991年12月実施回答数 140名）で見ると、皆さんの「入会目的」は次の通りでした。

健康保持と親睦のため	79名
新しい住民なので仲間を作りたい	41名

教養娯楽のため	21名
以前住んでいた所で入会していたから	13名

この事前調査に拠り発足した山の手倶楽部の目的とその活動については、その5年目に『桂坂』（32号）に寄せられた立野和之初代会長の一文で見ることになります。

「高齢者の生きがい」

……各世帯は新しい方々の集まりで、道に出会っても言葉一つかけるような状態ではなく、まして高齢者にとっては淋しい日々であったと考えられます。

……発足した折、会員による「新しい出会い」を大切にしましょうと、強く要望しました。お蔭で今では道では勿論、バスの中でも楽しいふれ合いが見られ、所期の目的が実りつつあると関係者一同、心より喜んでおります。

私たち高齢者は「生きがい」を持ち続けることが大切ですから、次のようなサークル活動により楽しんでいます。

サークルには、

旅行、史跡巡り、園芸、囲碁・将棋、写真、書道、一筆画、女性コーラス、歩こう会、ゲートボール、グランド・ゴルフ、手編み、女性部

等があります。各部門によって1週間のうち4日間、3日間、2日間、1日、また、月2回、月1回と回数異なりますが、会員の中にはひとりで4～5つのサークルに加入して楽しんでいる方もおられます。その反面、指導される先生方は、ボランティア精神で大変ご苦労されています。この場を借りまして心から敬意を表する次第です。……

なお、「山の手倶楽部」の会則には「おおむね60歳以上の者で、本会の趣旨に賛同し、入会を申し出た者」とありますので、60歳以下でも加入できます。

山の手倶楽部の皆さんは「楽しみ、喜び、安らぎ、そして感動を覚える」ことによって「毎日を明るく前向きに暮らすことを最善と考え、会員自身の趣味趣向に合った分科会」（立野和之初代会長「新しい出会いと生きがい」『桂坂』6号 1993.10.1）に参加し活発に活動しています。

文化系の分科会のうち書道、一筆画、生花、手編み、工芸などは従来、山の手倶楽部として「趣味の作品展」を開催してきましたが、昨年、10周年記念事業の一環として初めて地域女性会と一緒に「合同作品展」や写真で綴る『桂坂物語』を企画し、日頃の研鑽の成果を発表しました。女性コーラスも記念式典の中の記念行事で『歓喜の歌』など数曲を披露しています。女性部は福祉支援の活動を行い、「いきいきサタデー」の中で昔の遊びを伝えるなど小学生との交流も深めています。

各種団体の多様な活動

体育振興会や少年補導委員会は、会員制とはらず、役員と自治会選出の委員とで運営し、桂坂に住む私たちの参加できる諸行事を主催します。体育祭、自治会対抗の球技大会や夏のキャンプなど、行事を実施するその都度、参加希

望者を募る方法をとっており、案内は自治会の広報紙や回覧板を通して行われます。

そのほか各種団体の中には、行政、あるいは外部の民間団体より委嘱されて、私たちとのパイプ役を務めたり、保健・医療事業や社会福祉に関する活動を推進・支援したりする団体があります。

市政協力委員連絡協議会

月に2回、『市民しんぶん』とその「西京区版」が配布されます。これは京都市の動きを、全市的なものと行政区個々の細かな情報に分けて定期的に伝える広報紙ですが、このような京都市からの情報が各家庭に配布されるのは、実は「市政への協力」を任務として委嘱された市政協力委員の手を通してです。

この委員は毎年、自治会ごとに選ばれます。この委員の集まりである連絡協議会の会長は自治連合会長が兼務しています。

保健協議会と献血会

毎年の「市民検診」と「献血」はいずれも桂坂小学校で行われます。これらの実施日や要領はじめ、私たちの健康に関する保健所からの伝達事項やニュースは保健協議会を通し回覧板などで伝えられます。

「市民検診」は、地元医師会の協力を得て実施されますが、年1回のこの健康チェックは、病気の早期発見に繋がるもので、在宅の人、自営業の人には好都合の検診です。

受診料は、健康な人でも300円、70歳以上の人は「医療受給証」を持参すれば、もちろん無料です。

献血会の仕事は「献血」の世話です。日赤では、安全で有効な輸血が安定して行えるようにするために200mlなり400mlなりの献血と成分献血を望んでいます。採血した血液でもってコレステロールなどの生化学的検査を行い、その結果は後日、郵送で献血者宛に報らされます。これも健康チェックになります。

赤十字社資募集と共同募金

日赤の「社資」募集は、「すべての人々に人間の尊厳を」をテーマに毎年5月に実施されます。寄せられた「社資」は、国際的救援活動、災害救護体制の整備、医療事業、救護看護婦の養成、血液事業など社会福祉の増進のために活用されています。

「共同募金」は、民間の共同募金会が各都道府県を単位に毎年、10月1日から12月31日まで実施するもので、寄せられた寄付金の配分も都道府県の共同募金会が行います。「地域歳末たすけあい募金」や「NHK歳末たすけあい義援金」もこの共同募金の一環です。

民間の募金ですから、地域の実情に沿って柔軟に民間の社会福祉の資金として使用されます。つまり、地域の社会福祉事業の推進と民間の社会福祉施設の整備・充実などの事

業に役立てられることが目的で、社会福祉協議会や様々な福祉活動団体にも配分されます。京都府以外、あるいは国外の社会福祉には使用できません。

平成10年度の府内の寄付総額は504,229,691円、そのうちの「一般募金」は360,963,078円でした。西京区の場合は14,605,454円。この「一般募金」は、知的障害者福祉事業、児童福祉事業、社会福祉施設などに配分され、「小地域福祉事業」を行う54団体のひとつに数えられる西京区社会福祉協議会にも、8,727,751円が配布されました。

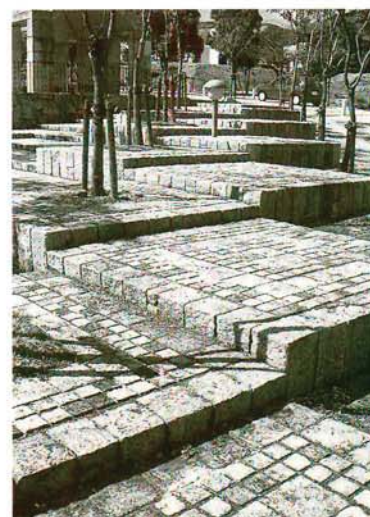
寄付した私たちの「地域で生きる」寄付金なのです。

平安講社

平安神宮は、1895（明治28）年10月22日に行われた「平安遷都1100年祭」に、市の総社として創建され、桓武・孝明の両帝を合祀します。

この時、大祭・建造物の維持保存を目的に、市民によって平安講社が組織され、記念行事として、葵祭・祇園祭とともに京都3大祭の1つである「時代祭」も始められました。西京区と右京区は平安講社・第9社に属しています。

西京区は毎年、都大路に明治から延暦時代へ逆上って各時代の風俗絵巻きを展開する「時代祭」の行列では、吉野時代の風俗で「楠公上洛列」を勤めることになっており、主将の楠正成、副将の正季、そのほか侍大将など各学区が回り持ちで奉仕します。1996年には菊池自治連合会長が楠正季役の騎馬武者として大役を勤めました。





1985年の桂坂

1999年4月の桂坂

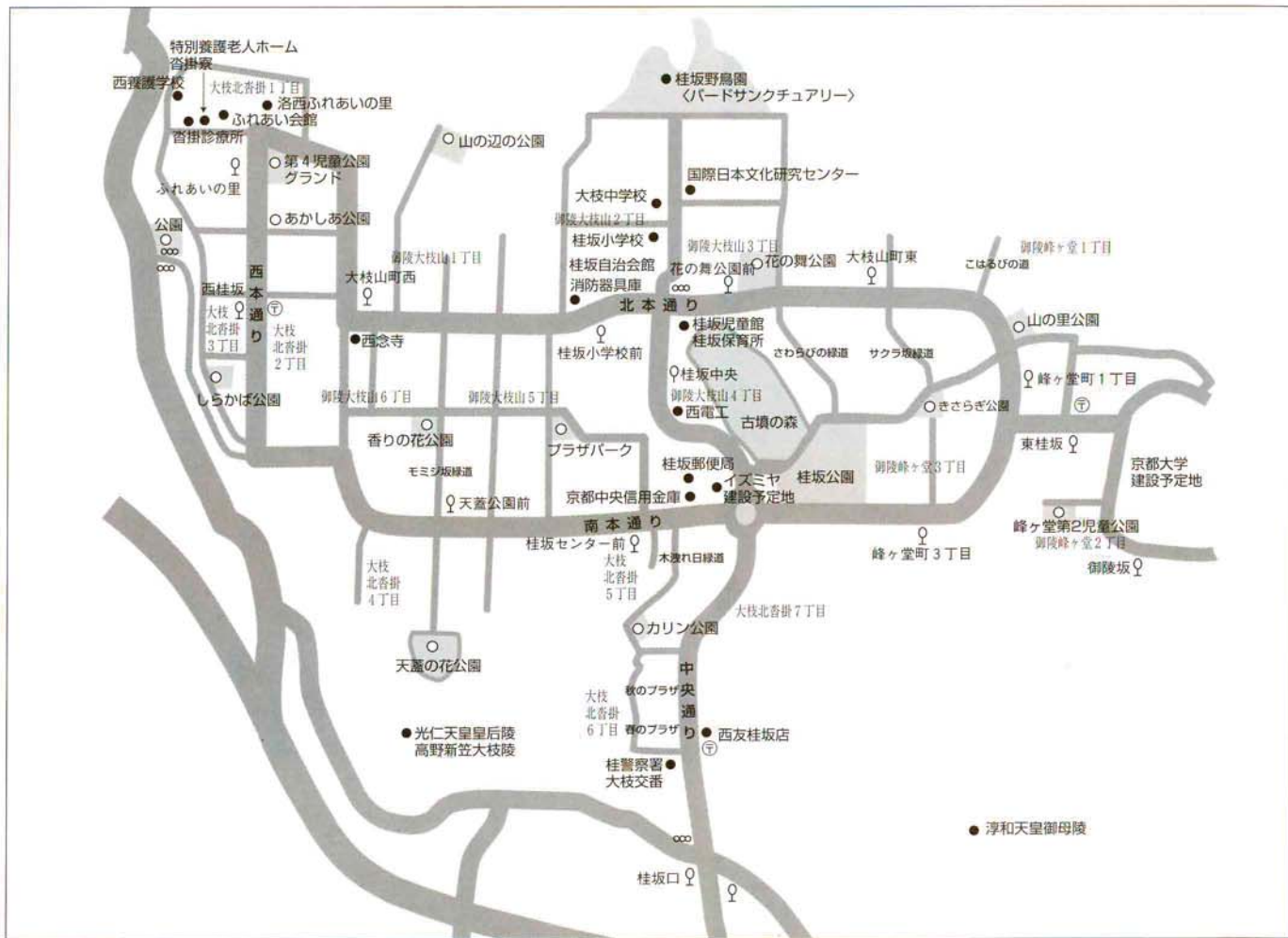


雪と紅葉の緑道 山の手倶楽部 山本 昭氏

桂坂点描

桂坂点描

安心で快適な空間



桂坂公園



大枝交番

西友ストア

安心で快適な空間

「人と自然との共生」とともに「安心で快適な空間」も桂坂の街づくりのテーマの1つです。

街の構造から見ても安心でき、また、視覚・聴覚などを通していても快適な空間であること——これは複雑多様化する高度文明社会にあっては不可欠のことであり、住むものに心の安らぎを与えます。

この桂坂の空間を形成している大きな「物」は「緑」と「石」でしょうか。この2つが巧みに配されていて、しかもそれぞれがその機能を十分に果たしているようです。

「緑」

「緑」——緑道の夏は木洩れ日のできる緩やかな模様がそよ風に揺られて心を和ませてくれます。近隣公園や各地に点在する児童公園の樹木も緑蔭をつくるもの、冬枯れの風景に趣をそえるものなど種々様々です。春は春で、家々の庭前に咲きほこる百花とその色彩の鮮やかさに堪能します。四季折々にその色合いと姿を変える桂坂の自然は見事というほかありません。

鳥は樹々が花をつけ実を結ぶ時を知って、その種類を的確に見分け行動しますが、これだけ樹種が豊富であれば、樹木に名札でも付かない限り、名をもって呼び親しむことは、私たちにはそう簡単ではありません。



桂坂の街路樹

秋は車窓を移る街路樹の紅葉に見とれますが、この晩秋を演出する桂坂の並木は6種類です。

沓掛口から桂坂口を経て大枝交番に至る街路樹は、「桂坂」にちなんででしょう、「カツラ」です。もっとも一部は、貝殻虫の蝕害で樹勢が弱って枯死したために「イチヨウ」に植替えられましたが、桂坂口の左右に叢生する「オカメ笹」の中に立つ「カツラ」の木はもう一人前です。

交番前から桂坂中央通を小学校に向かう並木は、「ケヤキ」。桂坂南本通は、ロータリーを挟んで東も西もマンサク科の「モミジバフウ」の並木でアメリカ渡来。西端の9号線に接続する道路だけは「トウカエデ」の植栽です。北本通は小学校横の交差点を境にして、西がコナラ科の「アカガシワ」、西念寺のところを左折し南本通にぶつかるところまで続いています。東は「トチノキ」です。

「石」

この「緑」とともにこの桂坂に特徴的なのは「石」——石の種類、住宅の装いに合わせた石垣の組み方、公園の石の造形やその配置の仕方など場所ごとに様々で、「桂坂」散策のテーマにたとい「石」を選んで巡り歩いたとしても決して落胆することはない、それほど「石」の表情豊かな街です。

「桂坂センター街」に集まる緑道

西念寺裏から東、桂坂センターに通じる石畳の街路には中国やパリのルーブル美術館前の広場からとり寄せたという舶来の石も敷き詰めてあり、ところどころに切り採ったままの大きな自然石がベンチとして幾つも、無造作に置かれています。今はまだこの通り、空き地が多く、街路樹も枯死したものが植え替えられて間なしで大きく育っておりませんから、街並みとしては未完成です。が、いずれ街路として完成すれば、石畳の落ち着いた通りとなるはずはです。

この路を東進した先に視界が開けます。広々とした「荒野」が「桂坂センター街」です。今はこの空き地のところで石畳の道は終わりますから往来する人も稀です。

車の行き交う桂坂南本通りと北本通りの中間を東西に走るこの通りは、「センター街」をつき抜け、古墳公園や桂坂公園を縫って東進する緑道につながっており、東と西を結ぶ緑道の「幹線道路」といえます。さらに、「木洩れ日緑道」「こはるびの道」「さわらびの緑道」「さくら坂緑道」「モミジ坂緑道」など、これと交差して南北に設けられている数本の緑道は、バードウォッチング、緑と石の探索や散策にも好都合の通りです。

しかし「センター街」に遮断される今は、単なる「裏通り」でしかありません。問題の「空き地」に「桂坂のセンター」にふさわしい「街」が姿を見せれば、おそらく徒歩や自転車で買物を楽しむ人などの往来も盛んになり、「人と自然の共生」に託した深慮までもがこの石畳の道に息を吹きこんで、生気に充ちた通りになることなのでしょう。もちろん私たちも、車などの喧噪を招ぶのではなく、ハイセンスな行動で、趣のある生活道路にしていきたいものです。



2つの公園

この石畳の道の右側に2つの公園があります。その1つ「プラザパーク」では、大小の御影石を敷き詰めた方形を

何面も重ねた石段がモダンな人工の美しさを醸し出しています。ここは、山の手倶楽部の皆さんがゲートボールに打ち興じられる公園です。

また、「香りの花公園」は円い遊びのエリアを囲むようにして、屋根に藤を這わせた石造りの回廊と石段などが設けてあって、小さな円形劇場を想わせます。

かつてこの公園では、西洋環境開発が「桂坂文化フォーラム」を開催しています。1991年の「アスペン音楽祭 イン 桂坂」では内外の一流音楽家による室内楽が、また、1992年には「みなみらんぼうコンサート イン 桂坂」が企画されました。野外ステージにおけるみなみらんぼう氏のギターの弾き語りは、「劇場」を埋めた人々の感動を呼びました。ちなみに、第1回のフォーラム会場は「天蓋の花公園」でした。(残念ながら、この「桂坂文化フォーラム」も、1994年、日文研の講堂で開催された第8回「講演とチェロをきく午後」が最後となりました)

「憩いの苑」

あちこちのこうした児童公園は、それぞれ特色をもたせながらも、やはり「緑」と「石」が基調です。公園は、夏は祭りの舞台となり、イベントやたち並ぶ模擬店などが浴衣姿の子どもさんをよんで、人の出入りで賑わいます。

公園は、立派に「物」として在っても、私たちの生活と意識の中で確かな「形」になっていなければいけません。「公衆のための憩いの苑」——子どもさんの遊びの場であるにとどまらず、散策の人が緑蔭でふっと一息ついて我を忘れ、また本や画板を携えた人がたち寄りしてしばしの時を過ごせる格好の場であってほしいところです。

昨年11月、桂坂小学校で「地域学習発表」が行われ、5年生で公園の好きな人が、「公園」に関するアンケートの結果を発表しています。

公園にいくと子どもが元気よく遊んでいて楽しそうでした。どこの公園に行っても子どもたちは元気よく遊んでいて、お母さん同士も子どもを見ながらお話をして楽しそうでした。

これは、5年生が「総合」の時間を利用して公園を廻ったときの見聞ですから、この時間帯に公園で遊ぶ子どもたちは保育園に行く前の年齢の子でしょうか。元気に遊び、



それを見学するお母さん同士が世間に流れる情報を交換している風景は「憩いの苑」そのものです。

この時アンケートに答えたお母さんの眼に桂坂の公園はどう映っていたのでしょうか。—「自然の多い」のは、桂坂公園ときさらぎ公園、秋に楽しい公園は、しらかば公園、グランド公園、冬に楽しいのは、グランド公園に花の香り公園、春に楽しい公園は、桂坂公園ときさらぎ公園ということです。また子どもさんのよく遊びに行く公園はグランド公園、桂坂公園、しらかば公園のようでした。

「緑」の解放感

「近隣公園」の桂坂公園は、1995（平成7）年9月15日に開園しましたが、この公園が子どもに人気があるのは、広くて何でもできそうであり、起伏に富んでいて芝生に転がって遊ぶこともできる、いろいろな虫がおり、池にはアメンボもいるなど、比較的広くて「自然」があるからのようです。(1997年7月の「子どもワークショップ」報告より) この緑の芝生と何ともいえない解放感が子どもにはたまらない魅力なのでしょう。

次は、2000年3月2日の朝日新聞「天声人語」です。

兵庫県に住む主婦が芝生に魅せられたのは偶然だった。30歳を過ぎてラクビーが好きになり、練習を見に神戸製鋼のグラウンドへ通うようになった。ある初夏、鮮やかな緑の上で躍動する選手を眺めているうち、ふと懐かしい草の香をかいた気がした。

青々とした芝生に選手たちが包み込まれている。そんな感覚にとらわれた。ラグーマンの動きは激しい。堅い地面なら怪我が絶えまい。芝生のやさしさを感じながら「今の子どもたち、思いっきり転んだことってあるのだろうか」と思った。小学校の校庭を芝生にしたいという夢が、以来、胸の中で形をなしていく。(略)

去年の5月、温め続けた思いをインターネットを使って伝えると、大きな反響を呼んだ。ユニークな発想だと神戸市も着目した。復興記念事業に組み込まれ、近くモデル校が選ばれるまでにことが進んだ。芝生に限らない。草っ原には、人の心を広くする何かがあるようだ。同僚が中国の天山山脈を旅したとき、遊牧民の間に日本の演歌がはやっていた。陰にこもった調子の歌を、土地の娘さんたちは実にさわやかに、おおらかに歌っていた。風に飛ばされていく歌声に聞きほれながら草原という風土を強く意識したと言う。

緑の上で無心に遊べば、心が豊かに育つのではないか。ひよとしたら学級崩壊も減るのではないか……。そんなに簡単ではあるまいが、子どもたちに良い変化をもたらす魔法の力を芝生が秘めているようにも思えてくる。(略)

夢は、ひと粒の麦となって地に落ちたようだ。

「古墳公園」と桂坂公園と

桂坂の児童公園はすでにほとんどが市に移管されていますが、「古墳公園」はまだのようです。1988（昭和63）年にはここで「桂坂フォーラム '88」の「宗次郎コンサート

イン桂坂」も開かれたことがありました。

ひいらぎ自治会の日沼頼夫さんが「ゆめ二つ」と題する文章を『桂坂』50号（1998.2.8）に寄せられました。

（夢の）もうひとつは「谷間の歌声・谷間の音楽会」です。古墳公園の谷間、あそこから歌声や楽の音が聞えてこないかなあ、と時々思います。

夏の夕暮れにあの公園境界に座っていると、女声男声、そして子供の合唱が……、あるいはまたモーツァルトのフルート協奏曲なんて流れてくる……、最高ですね。

昔々、千年以上も前にここ桂坂にはわれわれの御先祖様が住んでいなすった。相当の人数だったと思いますよ。何しろ、古墳が三つ（もっとかな？）もあるんですから。

棒切れか何かもってぶらぶらと歩いている人もいたし、兎なんか、ひょいと顔を出したり。また葉っぱや木で笛を作った。あるいは笛は、土を焼いて作ったかも。大きな声で歌いながら西山の方、東山の方を眺めていた若者たちもいたでしょう。

この古墳公園は未整備で、今は「古墳の森」、昔の面影はありません。しかし、広々として起伏に富む桂坂公園と一体のものに見做して京都市の手で公園に「復元」されるならば、「桂坂センター街」に隣接する大きな緑地帯として私たちには望ましい「憩いの苑」となることでしょう。

ひいらぎ自治会の公園愛護会

各公園には、公園の世話——清掃、除草、施設の破損などの通報、正しい利用法の指導など諸活動を行う「公園愛護会」があります。これは自発的に結成される団体で、ひいらぎ自治会の「花の香り公園」（正式名称は「大枝山第1児童公園」）の愛護会もその1つです。

自治会では、4つのブロックに分けてローテーションを組み、年に8回、公園の掃除を行っています。1回あたり40名から50名の参加者があり、統一クリーンデーを含めると年に12回、毎月1回の割合で掃除活動が行われます。

近隣同士、同じ作業をやりながら四方山話にふける格好の場です。公園で出会ったお母さんに対する小学生のアンケートでも「公園の役割」についての答えは、「集まってふれあい、楽しむところ」であり「非常時には避難場所にもなる場所」でした。

ひいらぎ自治会は、1997年3月、「多年にわたり公園の愛護活動に努められ、（京都市の）緑化行政に多大の貢献をされた」その貢献を讃えられ、榊本市長より感謝状を贈られています。



よりよい生活空間をもとめて

行政懇談会

生活環境の整備は交通問題から

新しく造られていく「桂坂」では、宅地・建物の分譲される地域が広くなるにつれて人口も増加していきます。

私たちここに生活するものにとって先ず一番の関心事は交通問題、通学・通勤の足の確保、つまり生活環境の整備問題でした。

1987（昭和62）年9月に桂坂に乗り入れ、ロータリーのところで折返し運転をしていた市バスも、開発の西伸につれて、次は西桂坂の住宅内の道路を経て「西桂坂」バス停を始発とするようになりました。

1989（平成元）年9月には、市バスに対し、自治連合会からは、朝昼晩のバス運行の回数や阪急桂駅への直行便、冬期の運行対策、バス料金の問題、バス停屋根の設置、また、西養護学校からは桂駅発8時前後のバスの増便など、交通問題改善の提案がなされています。この外にも自治連合会の役員会は、生活空間の不備な面の点検・改善、例えば郵便ポストや公衆電話の設置のため努力を重ねました。

懇談会に向けて要望のとりまとめ

こうした私たちの日頃直面する生活上の問題に関する、行政側との話し合いの場が「行政懇談会」で、その1回目が1991（平成3）年9月12日、桂坂小学校のミーティングルームで開催されて以来、昨年で9回を数えます。

総会が終わり新年度の活動もようやく軌道に乗る6月頃から、各自治会ごとに交通・環境・文化・教育・福祉など生活問題に関する点検が始まり、それぞれ自治会の要望として自治連合会の役員会に提示されます。9月頃それが整理され要望書にまとめられて、前もって行政側のしかるべき機関に提案されることとなります。

行政との懇談会

最近、ふれあい会館の第1研修室に、洛西支所長をはじめとする行政側と自治連合会、各自治会、各種団体の責任者が集まり、要望する事項に即して回答を聴き、質疑応答するという具合に懇談会は進められます。つまり「桂坂をよくしよう」の一念から「次善の策を考え」、「手を携えて努力していこう」（1995年「行政懇談会」菊池潤治自治連合会長の挨拶より 『桂坂』28号）というわけです。

この懇談会では、次のように問題がとりあげられ、回答されます。

交通問題——バスの運行

交通問題のうちでは「バスの運行」に関するものが多く、市バスの増便、「西5」便の洛西ニュータウンを經由せず

に阪急桂駅に直行する便を増やすこと、97（平成9）年には「西5」の東部地区への路線を延長すること、98年には東、西の桂坂を経由する路線の新設などがとりあげられ、99年には、ほとんど同時刻に同じ行先のバスのダイヤが組まれているので、市バスと京都交通の両方で運行時間の調整を図ってほしい旨の要望も出されています。

こうした要望に対しては、「地域の発展状況を的確に把握し、改善・充実に努力していく」という回答です。

交通問題——交通安全

「交通安全」に関するものとしては、横断歩道・標識・道路標示・信号機の設置などの要望です。

小学校・中学校児童の登下校時の安全確保を優先して、桂坂では初めての信号機が、1998（平成10）年11月24日、小学校の東側交差点に取付けられ、1年生とやまゆり学級の皆さんによって点灯式と渡り初めが行われました。

1999（平成11）年3月には、桂坂南通りから9号線に合流する沓掛町地籍の交差点にも感应式信号機が設置され、9号線に合流しやすくなりました。



交通問題——不法駐車問題など

ほかに、歩行者の安全や緊急車輛の通行確保のために、幹線道路ならびにマンション周辺その他の迷惑駐車・不法駐車の排除と取締りについて要望を提出しています。安全面では、幹線道路の危険個所にガードレールや反射鏡をとりつけるなど（もちろん「カーブにさしかかった時にはスピードを落とす」という私たちの運転マナーにも関わりますが）安全確保に配慮してほしい旨要望しています。2000（平成12）年2月には、幹線道路に法定速度40kmの標識とともに駐車禁止の標識が設置されました。ガードレールや反射鏡なども要望にそって一部とりつけられています。

保育所・児童館・交番

教育面では、1995（平成7）年より建設の要望が提出されていた保育所・児童館が1999年3月27日に竣工、「かざらっこ」の愛称を冠せられて4月開所・開園されました。

「安心・安全の街」を願う立場から設置を強く要望していた交番は1998年3月、「桂坂口」を入ったところに「大

枝交番」として業務を開始しました。すでに建設用地の確保されている桂坂消防出張所は、早期に設置されるよう、1998年より要望事項に加えられています。

環境問題など

環境に関する問題。西清掃工場に因るダイオキシン汚染のおそれはないかどうか、市に移管した道路の緑化・保全（樹木の剪定や害虫駆除）、御陵坂一带・学校周辺のゴミの不法投棄といった環境問題も大きな関心事で、折りに触れて要望事項に加えられています。

桂坂のバス停の屋根

私たちに身近な問題とはいえ、簡単に解決しないものがあります。「西桂坂バス停の上屋」問題がその1つです。

1991（平成3）年より設置を要望していた桂坂学区の各バス停の屋根は92年の8月、6個所のうち「桂坂センター前」「天蓋公園前」「大枝山町西」「桂坂小学校前」の4個所に桂坂の街に相応しい屋根がとりつけられました。ところが「ふれあいの里」と「西桂坂」はいづれも歩道の幅が2mしかなく、「2.5m以上」の設置基準に合わず（1991年の行政懇談会の回答）見送られてしまったのです。

「ふれあいの里」バス停

しかし、「ふれあいの里」バス停は福祉施設に通う皆さんが帰宅時に利用する停留所で、雨の日には傘の列も長くなり、車椅子利用者も乗車に難儀します。「『ふれあい』の名を持つ停留所ですから最優先で取りつけてほしい、また、その屋根も車椅子の利用者に支障のないように長屋根を考えてほしい」旨要望を重ねてきました。しかし、ことは順調に進みません。うしろの公園に屋根の支柱を立てる案は「公園内に設置する施設に関する法令」に抵触し「どうしても設置することができません」という回答（1992年の行政懇談会における交通局の回答）です。その後、行政内で調整に努力され、1994（平成6）年ようやく要望が実現、しかも他のバス停より横幅の2倍長い屋根がとりつけられて、雨の日の乗り降りに便利になりました。



屋根の基準は「W≦2m」ですが？

「西桂坂」や、フェンスのすぐ後ろに人工の川を控える「ふれあいの里」バス停の降車側の場合は、「バス停上屋の基準」に「W≦2m」と明記される「柔軟性」よりも「規格品で工事をするという原則」は「譲れない」（1992年8月の交通局談）という「信念」が行政側にある以上、また

いくつかの当該部署のそれぞれのきまり・思惑などもあって設置は無理かも知れません。東地区の終点「御陵坂」バス停のように歩道幅さえ基準を充たしておれば、今は乗客のない降車側にまで「上屋」は設置されるようですが。

業者懇談会

自治連合会の発足して数年は、行政懇談会とは別に「桂坂」の開発に関わる業者、すなわち西武都市開発（現西洋環境開発）、住宅生協、住宅整備公団（現都市整備公団）の3者との間で懇談会が開かれていました。

「桂坂センター街」のことなど

やはり住環境整備の問題が中心です。私たちの関心の高い、桂坂センターゾーンの開発計画に関する問いに対しては、1993（平成5）年頃は「来春、桂坂センター前に特定郵便局と京都中央信用金庫が営業を始め、他の店舗は決まり次第発表する。センターゾーンの東側には住民のために近隣公園（現「桂坂公園」）を造る。今後とも建築協定を守り統一ある街づくりを行っていく」といった西洋環境開発の回答が返っていました。

その頃からすでに苦情の多かったマンション周辺の駐車問題や車のスピードを制限する問題なども話題としてとりあげられました。例えば、目に余る車のスピードを抑えるために道路の各所に石畳の盛り上がった場所（ハンプ）を設けられないかという提案。しかし、この構造的に徐行せざるをえない「ハンプ」は生活道路において許可されるもので、準幹線道路では不可能という答えでした。



桂坂自治連合会の広報板

各バス停近くに「桂坂自治連合会広報板」が設置されています。これは、桂坂は特に風が強く、市の掲示板ではもたないところから、硝子の引き戸製のものが必要だとしてこの懇談会で要望し実現したもので、開発地区を担当する各業者の手でそれぞれ設置されました。

掲示物の管理はその設置場所に最寄りの自治会が担当しています。

桂坂みどり会

活動の「核」としての自治連合会

自治連合会は、「桂坂学区の各自治会相互の親睦をはかり、当学区、地域の発展に寄与する」という目的の達成のために、

- ①「会員相互の親睦に関する」こと、
- ②「会員の福祉安全に関する」こと、
- ③「市政の協力に関する」こと、
- ④「その他、目的達成に必要と認められる」

ことを行い、これら「事業の推進」にあたっては「各種団体と相互に協調して実施する」としています。

この自治連合会には、各自治会の外に学区の各種団体やオブザーバーとして「学校」および「本会で承認された福祉施設」も参加できます。

自治連合会は、「親睦」に関する行事を積極的に進める外に、私たちの住環境の改善や維持を図っていくことも大切なことだと考え、その努力を重ねています。

団体長の懇談会

桂坂学区には、各自治会、自治連合会、各種団体、そのほか小・中学校や福祉施設の団体の長が年度初めに一堂に会して懇談する会——「桂坂みどり会」があります。

1994（平成6）年5月、「各種団体との緊密化」を図ることを目的に開催された会は、「桂坂学区各種団体長・自治連合会懇談会」という長々しい名の下に招集されましたが、その席で、自然に恵まれた桂坂にふさわしい「桂坂みどり会」という短くて呼びやすい名が与えられました。

自治会であれ各種団体であれ、企画される諸行事はどれも、桂坂に住む私たちの親睦、交流、すなわち「ふれあい」を主眼とするものです。この懇談の場では、桂坂にふさわしい街づくりとその発展のために、年度ごとの主要行事をまず確認し、解決すべき日常の諸問題、桂坂の将来などに関する意見を率直に交換しながら意思の疎通を計りつつ交流を深めます。

ある年の「みどり会」

この会の模様を、当時の自治連合会の基太村博事務局長の報告で見てください。

「桂坂みどり会」の開催

去る5月19日、ふれあい会館の研修室において「みどり会」が54名の出席のもと開催されました。

「みどり会」は、菊池連合会長の発意で、桂坂学区内の各種団体の正・副会長、小・中・養護学校ふれあいゾーン等の方々に呼びかけ、連合会の役員とともに一堂に会し、桂坂を更に住みよい街にするために話し合う懇談の場とし

で設けられたもので、早くも今年で3回目となりました。

菊池連合会長の「自由な雰囲気の桂坂」・「快適・利便な桂坂」・「すきのない桂坂」のテーマで始まった会議は「ごみの不法投棄」、「夜間、外部からの車やオートバイの乗り入れ」、「横断歩道での交通ルール」等について種々協議がなされました。

また、「桂坂に児童館の早期設立を」とのことから、今年度も引き続き行政機関へ要望していくことになり、最後に、来年度の学区内の主要行事日程を確認し、2時間半の「みどり会」は、盛会のうちに閉会となりました。

広報「桂坂」32号・1996.7.6

今後とも、この「みどり会」の席では、連合体として各自治会・各種団体の「自主性」を尊重するとともに、その「連帯性」をも大切にしながら桂坂学区の街づくり、それに関わる諸問題の解決にとりくんでいかねばなりません。

行政懇談の場では行政の協力を得ながら、あるいは「協働」して諸問題に対処していく必要があります。

行政との「協働」——ワークショップ方式

桂坂に保育所・児童館をつくらしてほしいという私たち地元の要望に応じて京都市は、1997（平成9）年5月18日開催の桂坂みどり会の席上、その建設計画を明らかにすると



ともに、「住民と行政とのパートナーシップ（協働）で進める市民参加型の施設づくり」の考えを公にしました。そしてその手法としては、この保育所・児童館に桂坂の「住民の思いを盛り込む工夫」としてワークショップ方式を採用するのです。

早速5月29日、ふれあい会館において地元説明会（プレワークショップ）が開かれました。地元の窓口は自治連合会で、参加者の人選を担当し、地元住民としては自治連合会、民生児童委員、児童館・保育所・学童クラブのそれぞれ保護者、主任児童委員、小学校PTA、少年補導委員会と社会福祉協議会などの関係者25名が参加することになりました。ワークショップの開催は、最後の「園庭デザインワークショップ」を含めて計5回。その他に、「子どもワークショップ」も3回実施されています。

「子育て」は家庭や学校関係者のみならず、地域住民の力、協力を必要とする今日の大きな問題です。



こうした時に、このワークショップ方式を採用し、保育所・児童館の建設に関してその機能からデザインに至るまで両者「協働」、市民参加の形で逐一検討していくのですから、改めて「桂坂」という地域や、今の子どもに接しながら描く私たちの「子ども像」をもじっくり考えてみるようになります。時宜にかなったショップへの参加は大いに意義のあることでした。





いきいきサタデー 山の手倶楽部 永富 進氏

空をかついで ■「地域」と子ども

桂坂の教育

空をかついで

「地域」と子ども

肩は
首の付け根から
なだらかにのびて。
肩は
地平線のように
つながって。
人はみんな
空をかついで
きのうからきょうへと。
子どもよ
おまえのその肩に
おとなたちは
きょうからあしたを移しかえる。
この重たさを
この輝きと暗やみを
あまりにもちいさいその肩に。
少しずつ
少しずつ。

石垣りん「空をかついで」(『略歴』より)



福祉施設「ふれあいの里」内にある西養護学校(別掲)が桂坂の北西部に位置するのを除けば、桂坂保育所・児童館(愛称「かざらっこ」)・桂坂小学校(別掲)・大枝中学校は、いずれも桂坂の中央部北に在ります。

南前方に広がる京都市街地のパノラマを高台の利点を活かし借景として校地内に取り込んだような、この3つの教育施設は、まことに眺望絶佳。加えて近くには、自然を学習するには好都合の野鳥公園や古墳公園があり、また、学術研究施設「国際日本文化研究センター」(「日文研」)が隣接しているのですから、これほどよい教育条件に恵まれているところはありません。

大枝中学校

1989年(平成元)年4月に桂坂小学校と同時に開校式を迎えた大枝中学は、「正しく、逞しく、美しい心」の生徒を育成することを目標に掲げており、桂坂・大枝両学区の生徒が学んでいます。



大枝中学校

写真は、大枝中学校と校門を入った右側に建つ「大枝中学校校名復活記念」の石碑です。

1946(昭和21)年、教育制度が大きく転換して中学が義務教育化され、新制中学制度に切り替えられると、当時の乙訓郡大枝村でも新制中学を設立する気運が昂まり、保護者だけではなく、村民全体による「教育後援会」が結成されて、会費で中学を支えることになりました。この、村を挙げての熱い思いが、1947(昭和22)年5月5日に「大枝村立大枝中学校」として実を結んだのです。しかしわずかに3年間、存在しただけで大枝村の京都市編入とともに上桂中学校に併合され、廃校となってしまいます。

今の大枝中学校の校名を付けるに際しては、地域で公募され、その約8割が「大枝中学校」を望んだものでした。校名復活の記念碑は、大枝・大原野に在住の、旧大枝中学校同窓生によって建てられたものです。

開校当初から、「花を育て、心を育てる大枝中学校」、「共に学び、共に生きる」を合い言葉に、勤労体験学習や西養護学校との交流学習にとり組み、花や野菜の植えつけから手入れ、収穫に至るまでを、生徒と教職員が心を一つに汗を流して実践し、「正しく、遅しく、美しい心」の生徒を育成するという、高邁な建学の精神の実現に向かって学習と諸活動が行われています。

「かざらっこ」

1999（平成11）年4月に開設された保育所と児童館は、「地域の子育て」を支援する「ステーション」として桂坂での活動を開始しました。



桂坂保育所

保育所は「両親の就労や疾病等のため、保育に欠ける状態にある小学校就学前の児童を保育する施設」で、社会福祉法人の京都社会福祉協会が運営します。産休明けから小学校就学前の児童で、定員は90名。

「あるがままで受け止め、子どもたちが元気でいきいき過ごせる場にしたい」というのが保育所長井園長の方針。

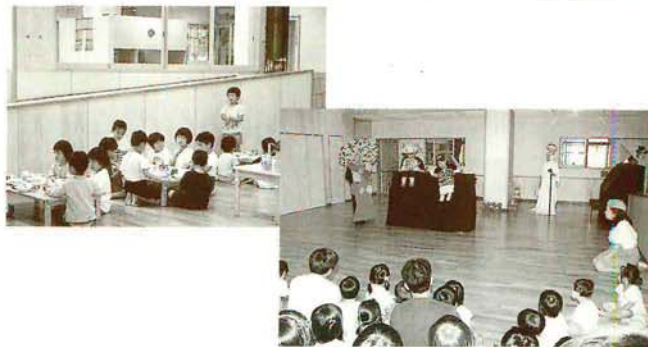
申込案内の問い合わせ先は、洛西支所福祉部（福祉事務所）支援1係（332-8111代）です。

桂坂児童館

児童館は、「学童クラブ」が小学校1年生から3年生までの児童が対象で、登録制。定員は65名。授業の終わり児童館にやって来た時には「お帰りなさい」で迎えられ「ただいま」で応える、家庭的で心の和む雰囲気があります。

「幼児クラブ」は2才児からが対象で、火曜と金曜クラスの、それぞれ定員30名。この幼児クラブは、幼児と母親が親子で参加し、一緒に遊びながら親子の絆を深めていくことをねらいとしています。また、木曜日に開かれる「幼児のひろば」は、0歳から18歳までの児童であれば自由に参加することができます。

児童館の開館時間は10時から17時まで。入口で名前・住所・電話番号・学年を書いて入り、図書室・児童館遊戯室を利用できます。



子育てと「地域」

いづれも「地域の子育て」を支援する「ステーション」つまり「地域」に開かれた施設を目指しており、「子育て相談」や「子育て講座」が開かれたり、屋上のプールが乳幼児に開放されたり、色々な催しが企画されています。

逆に「地域」から幼子たちに直接語りかける楽しい試みも、例えば桂坂消防分団によって1999年7月28日に行われています。「予防活動」の1つとして女性団員が手づくりの人形劇を作り、保育所の子どもたちに「花火遊び」をする時の注意をやさしく呼びかけています。

地域の中で

育成のこころみ

この（2000年の）3月に卒業する小学校6年生が、10年先の「20周年記念」を迎える年には「成年式」という1つの通過儀礼を過ぎて22歳。立派な社会人として活躍を期待される年齢です。この児童たちが将来、豊かで清新な心、深い思慮、そして広い視野をもち、社会で存分に活躍できる力を培っていけるように、学校と「地域」とは手を携えて、大所高所からとりくんでいくことが大切でしょう。

大人の子ども像

1999年5月29日、保育所・児童館の建設にあたって開催された「プレ・ワークショップ」の中で、今の子どもに望む大人の願いや望ましい教育環境として、次のような点が挙げられていました。

- 自分で考えて行動できる子ども
- 相手の気持ちを思いやれる子ども
- 地域で異なる年齢の子どもの交流
- 子ども同士の集団の中で互いに成長しうる環境

ところが「今の子どもについて、どのようにとらえているか」との質問になると、子どもにかなりきびしい眼が注がれているようです。

- 小学生も元気がなく心も身体もひ弱になっている
- 遊びや面白いことにとびつかない
- 遊び方、遊ぶ場所を知らない

- 多人数で遊べない
- 子ども同士の関係をつくるのが下手のようだ
- 異年齢集団では遊ばない
- 勉強や習いごとが忙しくて時間がなく、友達と遊ぶのにアポイントをとるのが大変のようだ

これがワークショップに参加した人たちの眼に映った現実の子ども像です。

ところでこの桂坂では今、この地域、つまり学術研究施設や福祉施設のある「地域性」を活かして、「自分で考えて行動できる」、そして「相手の気持ちを思いやれる」子どもを育てていこうという、学校や「地域」の多様なこころみが見られます。

小学校・中学校と福祉施設の交流

桂坂小学校と大枝中学校では、学校創立以来、隣接する福祉施設との交流が盛んです。

地域学習発表会

1999年11月12日、桂坂小学校では創立10周年を記念して「地域学習発表会」が行われました。「子どもたちが見つけた桂坂の自然・歴史・街の様子」が、創意工夫を凝らした、さまざまな形式で発表されたのですが、3年生の「この街大好き、桂坂自慢」の中では当然のように西養護学校が対象の一つになり、また、4年生は桂坂の福祉について調べ、「手と心で読む」のテーマで「人にやさしい桂坂」をとらえていました。例年行われている学芸会は今回はこの「地域学習発表会」に変更されましたが、いつもは西養護学校の人を招き、交流を深めています。



地域学習発表会

大枝中学校と福祉施設

大枝中学校においても、いま武道場の建つ敷地はかつては学校菜園として活用され、西養護学校の生徒とともにさつまいもの苗を植え、収穫し、その味に舌鼓を打つ、そんな和やかな心の交換風景が見られました。

現在はまた新たな形で交流が進められています。

伊藤香織さんが西養護学校との2回目の「交流活動」について次のように感想を記しています。

私は小学校からずっと、障害をもっている人も、もっていない人も同じ人間だと学習してきた。

小学校に〈やまゆり学級〉という障害をもった子がいくクラスができた。別にその子たちと遊んでも何も思わなかった。楽しかった。もっと遊びたいと思ったこともあった。

1回目の交流の時も少し不安感もっていたけれどけっこう楽しかった。でも今回の交流は少しこわかった。じっとしてられない子がいるから。私がずわっている時に、前でウロウロしたり、踊ったりする子が、はっきりいってこわかった。

一重の円になって踊るとき、私は養護学校の子に扶まれた。すごくドキドキした。でも、踊っているうちに〈こわい〉というものがなくなって、スッキリした。その時にあらためて〈同じ人間〉ということがわかった気がした。

私はこう思いました。頭ばかりで理解するんじゃなくてその人たちとふれあう方が本当に、学習してきたことの意味がわかるし、大切なことだと思った。

他にも生徒会が開校以来つづいている西養護学校の餅つき大会に参加して一緒に杵を振りおろしたり、ボランティアグループが特別養護老人ホームを訪問して入所の老人を慰めたりしています。

日文研の「授業」

桂坂では、国の学術研究機関が隣接するという「地」の利を活かしたこころみが、自分たちのとは「異なる」世界のあることを「学び」の途上にある生徒たちに教えます。

桂坂小学校と大枝中学校では、近寄りがたい学術研究の籬を越えて生徒たちに新鮮な「感動」を与える工夫を年間行事の中に採り入れています。国際日本文化研究センター（「日文研」）の協力を得て行われるのですから、他地域の学校からすれば羨ましいかぎりでしょう。

大枝中学校は4月に新入生を迎えると、この「日文研」の施設見学を実施し、生徒は自分たちの中学と隣り合わせに国際的な学術研究機関があり、意外に開放的な施設内で比較文化の様々な研究が進められていることを知り、また「日文研」の先生を中学校に招聘して学術講演会が催され、学問の世界の香りを聞くことになります。

また、桂坂小学校では1996年より「日文研」の先生を直接迎えて「平素とはまったく異なる〈授業〉」が行われています。（詳細は「小学校」篇「日文研」でも「小学生の授業ができないようでは、日文研の教授は務まらない」など「ジョークが所内で聞かれる」ようになり、「研究者と小学生の切磋琢磨」の中でこの「おたがいの交流」はその後も継続されています。（河合隼雄・梅原猛編著『小学生に授業』の「はじめに——日本の教育に、新しい風を」より）

「地域」の中で

キャンプ・スポーツを通して

子どもたちが健全に育つことを願い、非行防止の活動を進めたり、あるいはスポーツで汗を流す場を設けたりして「地域」の子どもたちを異なる年齢集団の中で生活・活動させ、交際範囲を広める手助けをしようという団体——少年補導委員会や体育振興会などもあります。

桂坂少年補導委員会

桂坂少年補導委員会は、1991（平成3）年2月に「桂坂支部」として発足しました。

活動の目的はもちろん少年の非行防止と地域に根ざした少年の健全な育成活動を推進することにあります。

桂坂は新興の住宅地。子どもの数は増え、近所の子ですら顔は分かりづらくなっていますから、できるだけ多く子どもたちと接する機会を作らなければなりません。

恒例となった夏の教育キャンプをはじめ、小学校のプール開放、桂坂クエストⅢ、子どもイロイロスポーツ大会、親と子のふれあいデーなどイベントが計画され、「多くの子どもたちと関わりがもて」て、しかも「なるべく親子で参加できる」ように配慮されています。（『桂坂』54号1998.7.7・前田富造桂坂支部長「10年度行事予定」）



キャンプファイアー

夏の教育キャンプは、小学4年から中学3年までの子どもが参加できる催しで、「いつもの学年中心の生活では得がたい経験もでき、この催しに参加した諸君には楽しい思い出となって残るようです」。（『桂坂』64号・「サマーキャンプ・少補ニュース」）また、親委員とともにボランティアで参加する高校生や大学生の学生班が若さにものをいわせて子どもの世界に飛びこみます。異なった年齢間、いわばタテ社会の中での共同生活は、一面の厳しさはあるものの、得がたい体験でしょう。

親と子のふれあい

少年の「健全育成」のためには「親と子のふれあい」も重視されます。かつて親子で「グライダー作り」の催しがありました。

年々参加者も増え、今年は約250名の方が長さ約40センチのグライダー作りに挑戦。自分の子どもの頃を懐かしみながら、グライダーを作るお父さんを熱心に子どもさんが見ているというシーンもあり、会場は終始和やかな雰囲気にもまれていました。豚汁で一息ついた後、体育館の中で学年別に飛行大会が行われました。

自分たちが作ったグライダーが体育館の中に元気よく飛ぶと、盛んな歓声がわきおこっていました。

『桂坂』8号・1994.2.14.「第4回・親と子のふれあい教室」



キャンプ風景

「子どもは親の後姿を見て育つ」といい、「子どもは父母の行為を映す鏡である」ともいいます。家庭・地域における私たち大人・親の一言半句、一挙一動は子どもたちの視聴の中にあり、青少年の「健全育成」を左右しかねません。ほれほれするような「後姿」を見せたいものです。

少年補導委員会は夏休み期間中、防犯推進委員、各自治会役員、小・中学校PTAの地域委員の協力を得て各自治会ブロック単位で「夜間パトロール」を実施し、また、桂川では桂地区単位で、小学校PTAとともに「水禍防止パトロール」を行っています。

「地域」の中で

昔の遊び

山の手倶楽部女性部

山の手倶楽部の女性部の人たちは毎年、秋の「いきいきサタデー」の1日、小学校を訪れ、子どもたちと「昔の遊び」で互いに楽しい交流の時を過ごします。また、3学期には「1年生と遊ぼう」や「3年生と遊ぼう」の日を授業のある普通の日に設けて、やはり「昔の遊び」を子どもたちに伝えます。

かつて子どもたちには、身近にいる大人や上級生たちから、街中に伝承されている様々なしきたりや作法に伝統行

事、そして楽しい遊びのあれこれも一緒に教えられる機会と場所がふんだんにありました。「他人」の存在を否定なしに意識せざるをえないし、また、異質な価値観とも出会う中で鍛えられていた当時は、地域の、いわば「教育力」が好ましい形で機能していたといえます。

京の地藏盆

京の街の風物詩、それも昔の「地藏盆」を喜多みどりさんのことばでしのでみましょう。

私の育った西陣では格子の家が建ち並び、道幅は狭く、町内5、60軒の中は家族的そのもの、お地藏様はどこ町内にも1つあってお花・お水・線香が欠かさず供えられ、よだれ掛けもいつも新しいのに掛け替えられている。うなぎの寝床といわれるように、先ずお店の部分があり、内玄関に中の間と続くが、店の広間に祭壇を作り、お地藏様をお迎えし、子どもの遊び場所として2日間、解放して頂くのである。

朝は早くからお地藏さんの飾り付け道具が出され、お当番のお家の格子が外されていくのを子どもたちが総出で見守る。そのお家の前にテントを張り、ぐるりに親が子どもの安全、幸せを願って奉納した名前入りの提燈をはりめぐらせる。飾り付けの時、自分の名前入りの提燈を見つけては大歓声をあげる。

22、23両日の日程が張り出されるので、おやつの時間、余興の時間、お数珠廻しの時間等しっかり見届ける。そのうち町内中の子どもが、赤ちゃんから女学生、中学生まで全員集まってくる。余程の用事がないかぎり家に帰る子はいない。ゲームをしたり、綾とりをしたり、何かしらで退屈することはない。お姉ちゃんが本を読んでもくれる、お兄ちゃんがいたずらをしてくれる、それだけで楽しい。お茶はあるし、おやつは貰える、甘茶もいつも沸いているという具合である。ただ、今のように豪華なお菓子でなく、お団子だったり、さつま芋であったりしたこともあったけれども、問題でない。

夜は早々に食事を済ませ、湯上がりに浴衣を着せてもらい、お兄ちゃんからさく怪談に「キャーキャーワー」と怖がったり、笑いころげたり。2日間は、そんな子どもに付合っているのか、自分たちも楽しんでいるのか、大人たちがゆったりと一日中いてくれる。写真を撮ってくれたり、お茶をくれたり、ラムネをくれたり。

2日目の昼には尼さんがお経を上げに来られて、皆で大数珠廻しをする。

今も西陣ではこのスタイルで地藏盆を迎えている町内が多い。ただ、昔は子どもたちが溢れ、のんびりと坐っている大人も多かったけれど、——ということが違ってきているようである。楽しいことを求める子どもたちの心は昔も今も変わらないだろうに。

(「地藏盆の思い出」・『桂坂』13号・1994.8.8より)



いきいきサタデー

ここにある「遊び」は、今の、テレビゲームが中心で、ディスプレイを眺め暮らす日常から見れば、まことに幼稚で、たわいのないものに映るかも知れません。しかしこのような場合は、『京都市基本構想』(1999.12)の所謂「心豊かで優れた社会性を身につけた子どもたちを育てるため」の大切な「教育環境」でした。

よりよい教育環境を求めて

昔と今とでは、住む人の「地域共同体」についてのとらえ方に少々差異が生じているかも知れません。しかし、たくましく、心も創造力も豊かな子どもに育ててほしいという願いは今も昔も変わらないでしょう。子どもの健全な育成には、例えばこうした街中に生きる好ましい伝統が、やはり次第送りのに大人から子どもへ、また、子ども社会の中であれば年長から年少へとしっかり受け継がれていくような「教育環境」を、学校、家庭、「地域」が協力して整えていくことが大切でしょう。

2000年1月に「桂坂教育後援会」が発足し、会員を募って、地域で「児童の教育環境及び施設の充実並びに健全育成と健康増進に関する援助を行う」ことになりました。

これは、京都市が設置する「人づくり21世紀委員会」の提唱する「市民の手による人づくりの輪」、つまり「21世紀の京都を担うたくましく思いやりのある子どもたちの育成」・「子どもたち1人ひとりの多様な可能性が最大限開花できる教育の風土づくり」の提言に呼応するものです。





京都市立桂坂小学校



校 旗



校 章



作 細谷 僚一

校章の意味

桂坂のイニシャルKをデザインし、その中にたくましく坂を登っていく子どもたちの姿と、大空を自由に飛翔する鳥を表しています。

たくましさと自由な精神を象徴しています。

京都市立桂坂小学校 校歌

松尾 隆夫 詞
月溪 宏 校閲
福澤 昌彦 曲

♩ はずんで

1. か つ ら の な み き と り の う た
2. み ど り の か ぜ を か て と し て
3. わ か た け の ま ち ら く き い に



一、かつらの並木
鳥のうた
夢はふくらむ
まなび舎よ
友と肩くみ
輪になつて
桂坂
すすくく伸びよう

二、みどりの風を
糧として
かよう心の
通学路
真理の道は
とおいけど
桂坂
たゆまず上ろう

と も と か た く み わ に な つ て
ま こ た し と み ち は と お の 二 り そ う

三、わか竹のまち
洛西に
歴史をかたる
大枝山
わたしとほくの
この理想
桂坂
世界を翔けよう

す く す く の び よ う か つ ら ざ - か
た せ か ま い ず の ほ ろ う か つ ら ざ - か
か け よ う か つ ら ざ - か



校地面積 25,490㎡
 建物敷地面積 15,330㎡
 運動場面積 10,160㎡

区分	構造	室数	面積	区分	構造	室数	面積
校舎	管理棟	鉄筋コンクリート(2階)	7	屋内体操場	鉄筋鉄骨造(1階)	5	960㎡
	特別教室棟	鉄筋コンクリート(2階)	17	給食棟	鉄筋コンクリート(1階)	1	219㎡
	普通教室棟(東西)	鉄筋コンクリート(2階)	22	倉庫棟	鉄筋コンクリート(1階)	1	26㎡
	普通教室棟(東西)	鉄筋コンクリート(2階)	3	ブール	鉄筋コンクリート		25m×12m

桂坂小学校沿革

昭和63年1月14日 桂坂自治会設立準備委員会から校名要望書提出
 昭和63年3月25日 京都市会にて京都市立桂坂小学校設置条令可決
 昭和63年4月1日 京都市立桂坂小学校開設準備室の設置
 昭和63年5月19日 造成工事、建築工事着工
 昭和63年7月5日 開校準備委員会発足
 平成元年4月1日 京都市立桂坂小学校として開設

*児童数354名 12学級

平成元年4月5日 開校式 記念式典挙行
 平成元年8月31日 観察池、禽舎完成
 平成元年10月31日 屋外ランチルーム完成
 平成元年10月31日 アスレチック場完成
 平成2年2月21日 フレアスポーツ報告会開催
 平成2年5月 京都市教育委員会協力指導教育研究推進校に指定(平成2・3年度)

平成3年5月11日 栽培活動の花壇完成
 平成3年8月31日 運動場屋外手洗場完成
 平成4年2月5日 協力指導研究発表会
 平成4年12月1日 ミニ図書室完成(オレンジルーム)
 平成6年1月10日 野外炊飯活動用具整備
 平成6年12月7日 T T授業実践研究発表会
 平成7年6月16日 福祉協力校指定(平成7~9年度)
 平成8年6~12月 日教研教授による授業(5~6年生)開始 *以後現在まで継続
 平成10年4月1日 育成学級(やまゆり学級)設置
 平成10年9月29日 地域教育推進協力校指定(10~11年度)
 平成11年2月5日 自主研究発表会開催
 平成11年8月26日 「地域教育フォーラム・イン・京都」で提案
 平成11年9月19日 桂坂ふれあいルーム開設
 平成11年10月29日 自主研究発表会開催

*10月現在 児童数860名 25学級



桂坂小学校 校長
角垣 健美

子どもたちのふるさと桂坂

ふるさとの自然や人は人生にとってかけがえのない大切なものです。大人になって何か挫折しうくなったときに、ふと甦って生き抜く力を与えてくれるのはふるさとのよき思い出です。

ふるさとの山・夕やけ空・星のきらめき等々一人ひとりの思い出がいっばいつまった自然や人。子ども心に感動を与えてくれたふるさとが、どんなにか人の心をいやすことでしょう。

さて、国家百年の計は教育と言われますが、桂坂小学校の百年の計は「ふるさとづくり」であると確信しています。鮎が育った川に戻ってくるように、小学校を巣だっただ子どもたちが、いつかきつと桂坂に戻ってくれるように、ふるさとづくりをするのが桂坂小学校教育の使命と考えています。

そのためには、学校と地域が連携し、協力し合って、「桂坂の子」として育てていくことが大切ではないでしょうか。

これからは、小学校だけが学校ではなく、地域の自然や人も学校だと考え、地域の中で学び育てていくことができれば、桂坂の子どもにとってどんなにかすばらしいことではないでしょうか。

幾とせか この草原を 拓き住み

実る葡萄に ああ夕あかね



ステンドグラス

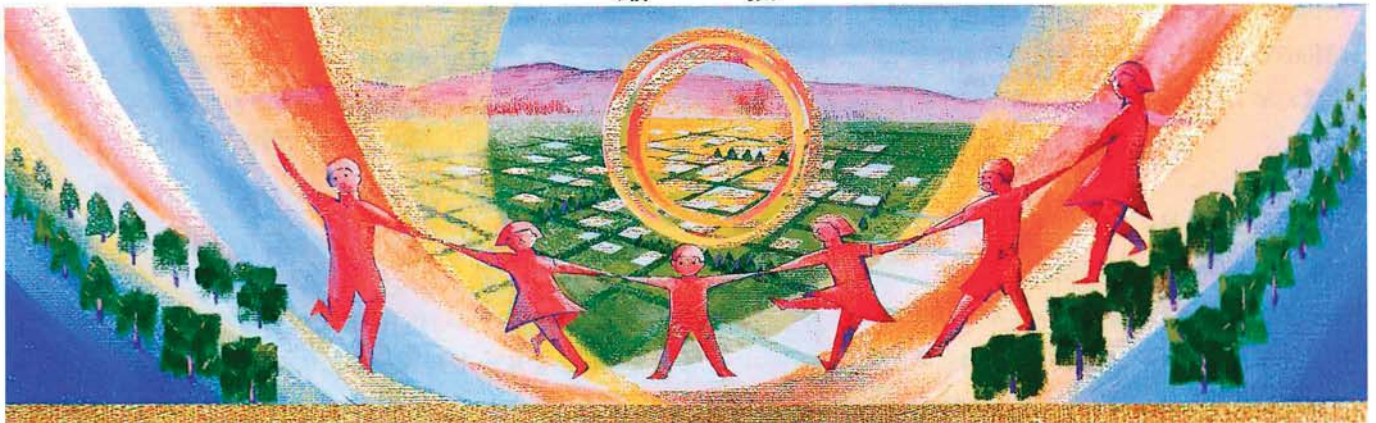
デザイン 相田 武彦

直径7m半円(1)、直径1.5mの円(2)

ここには、自然の中での躍動が表現されています。太陽、風、草花、虫。自然のあたたかさや厳しさの中で健やかに育てとの願いがこめられています。



鍛 張



自然豊かな中で発展する桂坂ニュータウン。ここで、助け合い、励まし合いながら成長し活動するこどもたち。未来に向かって伸びゆく桂坂を1年～6年の子どもたちの姿で表しています。

歴代校長挨拶

開校当時を振り返って

初代校長 中西 一孝



創立十周年を迎え、お祝い申し上げます。
開校八か月前に準備室長に命ぜられ「新年度より授業が開始できるように」との指示を受けて着任しました。

初めて目にした広大な敷地、そこには基礎工事のうえに鉄骨が林立している状態でした。児童の転入予定者調べから始め、各教科の教具購入計画、図書、掃除用具等、学校生活に支障のないよう準備を進めました。

開校準備委員会には、校歌、校章など多岐にわたるご協力を受け開校できました。

開校当時は、異った地域で育ち、生活習慣・伝統の異った児童のよいところを取り入れよき桂坂校の伝統を創造するため、児童・教職員が力を合わせて努力しました。

地域の方々、PTAの皆様には一体となって桂坂校の発展にご尽力いただいたことにお礼申し上げます。十年の半分を務めさせていただいた事に感謝しております。

次なる二十周年、三十周年に向かい、益々の発展を願っています。

すばらしい出会い、桂坂

第二代校長 寺内 敦子



桂坂小学校創立十周年、おめでとうございます。心よりお慶び申し上げます。

私自身は校長としての第一歩、桂坂小学校校長として、平成六・七年度在職いたしました。自然と人と街が一体となり、前進する桂坂の印象が、今も鮮明に蘇ります。

一年目は、市内児童の交通事故や阪神大震災の教訓から、七八六名の児童の命を守ることに心をくだき、毎日出勤しました。そして個性も学力も伸ばすティームティーチングの授業、豊かな心を育む作文教育、カザラッカコンサート等の行事等、全市の先駆けとして取り組みました。平成七年度は学校週五日が月二回実施、「いじめ根絶」が叫ばれる中で、「豊かな心・学ぶ意欲・共にたくましく生きる子」を目標に、人権学習、あいさつ運動、縦割りウォークラリー等、児童中心の取組が印象に残ります。校長室前のポストに「座席を譲ったよ」「しばふの手入れをしているよ」等の手紙を入れる子をうれしく思いました。

桂坂でのすばらしい子供、教職員、保護者、地域の方々との出会いが今の私の力の源です。ありがとうございました。

在任中を思い出すと

第三代校長 村田 喬子



桂坂小学校創立十周年の節目に、その歩みを共に慶び合えますこと、至福の限りです。開校からの十年は、教育にとって激動の年月であったといえます。子どもが抱え持つ問題が複雑化する中で、桂坂小学校は当初より一貫して「次世代の人材を育てる」という役割を地域と担い合って来られました。

在任中のエピソードをご紹介します。

朝、登校する子ども達を迎えていますと、花びらや木の実、色とりどりの葉を手渡してくれました。喜んで受け取っているうちに、だんだんエスカレーターとしてきて、つばみや小枝になってきました。心配になって、「大切に育てている人に……」という話をしたら、とんでもないことが起こりました。

「おはようございます。この花盗ってもいいですか。」と毎朝押しかけてきたそうです。しばらくして、わたしのもとには「小さな花束」が届くようになりました。通学路の家の方々には、「花作りの楽しみがもうひとつ増えました。」と話してくださいました。有り難い出来事でした。地域に育まれ、世界にはばたく子ども達に幸あれ。



桂坂小学校 PTA会長
片山 健次

創立10周年に寄せて

この度、大きな節目でもある西暦二千年という時期に、京都市立桂坂小学校が創立10周年を迎え、次代の新スタートが出来ましたことを、心よりお喜び申し上げます。

本校は雄大な山麓を背景に緑豊かな大自然と、日当たりのいい丘陵地に建設され、子どもたちはその恵まれた自然環境の中で、健やかにたくましく学校生活を送っています。開校以来多くの皆様に支えられ地域の小学校としての役目を果たして参りました。

そして今日学校教育は、「ゆとりある教育と地域に根ざした教育」をテーマに取り組み、子どもたちが地域での人的関係の深まりを通し、地域に愛着を感じ、地域を守り大切にしていこうとする態度を、育んでいこうとしています。

本校はその様な中で、国際日本文化研究センターの教授をお招きし新しい視野にたった授業が取り組まれています。今後も地域住民の方々の活力を学校教育の場にと、その努力がなされるものと思われまます。

私達保護者といたしましても、次代を担う子どもたちの健全育成のため、二十一世紀を生きる子どもたちが、自分の住む街に誇りを持てるように、環境づくりを推進していかなければならないと思います。この度10周年記念として、自治連合会の御尽力により、有名画家の貴重な絵画並びに教材用コンピューターの御寄贈を賜りました。

今後は、教材として又学校の貴重な財産として、子どもたちの教育に多大の貢献をするものと思えます。これも教育に対する地域の皆様の深いご理解、ご支援の賜と深く感謝を申し上げます。今後とも、関係各位の皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成9年度 PTA本部役員



■会長 片山 健次 ■副会長 琴浦 良子・千頭 宗子
■会計 岸波 直美 ■庶務 稲垣 恵子・高矢 順子

平成10年度 PTA本部役員



■会長 片山 健次 ■副会長 千頭 宗子・西 升美
■会計 岸波 直美 ■庶務 高矢 順子・門西 聡子

平成11年度 PTA本部役員



■会長 片山 健次 ■副会長 西 升美・浜松 千秋
■会計 市場けい子 ■庶務 門西 聡子・岡村 玲子

平成11年度 PTAの主な活動

PTA

学級委員会

- 親子の集い〈学年別〉
- カザラッカコンサート (11月)
- ベルマーク収集

本部

- 総会 (5月・3月)
- 10周年記念式典
カザラッカコンサート (11月)
- 校門前声かけ運動 (9月・1月)
- 昔あそびと
おせんざいの会 (3月)

地域委員会

- 旗当番
- 安全パトロール
- 地域懇談会 (6月・2月)
- 町別児童会 (4月・7月・3月)
- 社会見学 (10月)
「盲導犬センターと
丹波ワインハウス」
- 古紙回収 (1年間)

広報委員会

- 広報紙発行
・第35号 (7月)
・第36号 (12月)
・第37号 (3月)

教養委員会

- 手芸講習会
・第1回
「サシェで作るリース」(6月)
- ・第2回
「ドライフラワー
アレンジメント」(11月)

〈地域の各種 団体と協力〉

- 自転車教室 (7月)
- 防災総合訓練 (11月)

保健体育委員会

- 給食試食会 (6月)
- 「エアロビクス」
講習会 (12月)
- 給食エブロン点検

◎コーラス部

- ・コーラス交歓会 (10月)
- ・ミニコンサート (3月)

◎本とお話のクラブ

- ・小学生のためのお話の会 (7月・12月・3月)
- ・昼休み時間の読みかせ

◎バレーボール部

- ・バレーボール
交歓会 (9月)

◎卓球部

- ・卓球交歓会 (10月)

◎バトミントンサークル

歴代PTA

桂坂小学校創立10周年に寄せて

「山本さん、PTA会長ご苦労さん。」と言われ、おこがましくも創立時から二年間PTA会長を務めさせて頂いたのも、ついこの前のように思い出されます。新しいまちづくりの中での新設小学校であり、初年度は少人数で転校生が少しずつ増えていく状況で、私たちPTAは校長先生や教職員とともに新しい桂坂小学校の歴史を刻もうと意気込んで頑張ってきました。

京都西山の丘陵地に素晴らしい環境にある桂坂小学校ですが、環境としての物だけでなく、こころを大切に子どもたちが育ってくれるよう色々活動してきました。その考えは現PTAに於いても同じ思いで活動されていると思います。

最近の事件、ニュースを聞くたびに、子どもたちに対する教育の原点を見つめ直し、PTAの重要性や地域とのつながりを大切にしなければならないと感じます。

桂坂小学校と地域の益々の発展のため今後も昔と変わらぬ気持ちで子どもたちを見守っていきたくと考えています。

初代PTA会長 山本 哲夫

創立10周年を迎えて

桂坂小学校創立10周年を迎え、心からお祝い申し上げます。

私は平成3年度～5年度の三年間を2代目会長として、本部役員・各委員の多くの方々と一体となり、意義あるPTA活動が出来たと自負しております。というのも初代の山本会長・中西校長で開校時に基盤を作っていた事で、私共の活動が円滑に行えたと思います。そして、多くの方々と知り会えて、多くを得る事ができ、感謝しております。

その後、3代目会長を平手氏に心よく引継いでいただき、ほっとした事が思い出されます。そして、今後も子どもたちが有意義な学校生活を送れるPTA活動ができる事と、桂坂小学校の真の発展を心からお祈り致します。

第2代PTA会長 北川 薫



歴代PTA

10周年によせて

桂坂小学校創立10周年、おめでとうございます。私がPTA会長を務めさせて頂いたのは平成6年から8年の三年間でしたが、会員の皆様や役員、委員の方々のご協力で大変楽しくやれた事を思い出し、改めて感謝しております。

まだ街並も揃わない12年前に開校されたわけですが、初代の校長、PTA会長は大変なご苦勞をされたことと思います。新しい街に新しい学校、この桂坂小学校には伝統は有りませんが自然に恵まれた素晴らしい環境が有ります。街中の学校と比べ交通環境も良く、他校のPTAの方から大変羨ましがられた事を思い出します。

西暦二千年を迎え、世の中もどんどん変わっていきます。生徒数も開校当初からみると倍以上になりましたが、子ども達が自然を愛し、友達を愛し、先生を慕える、そんな素晴らしい環境がこれからも変わらず続くことを願っております。

地域が子どもを育てると申します。桂坂小学校がこれからも地域の皆様に見守られて、次の20周年を迎えられる事を期待し、お祝いの言葉とさせていただきます。

第3代PTA会長 平手 謹一

平成6年度 PTA本部役員



■会長 平手 謹一 ■副会長 朝山 輝子・大野 賀代
■会計 岡西 真代 ■庶務 西野 文子・山口多津栄

平成7年度 PTA本部役員



■会長 平手 謹一 ■副会長 大野 賀代・将野 律子
■会計 市村 優子 ■庶務 山口多津栄・入江 雅子

平成8年度 PTA本部役員



■会長 平手 謹一 ■副会長 将野 律子・琴浦 良子
■会計 市村 優子 ■庶務 入江 雅子・稲垣 恵子

数字でみる桂坂小の10年

※各年度の数字は、各年5月1日調べ

年 度	育成	児童数 (下段は学年学級数)							学級数	
		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合 計	合 計	
平成元年		71 2	50 2	53 2	56 2	60 2	64 2	354	12	
平成2年		84 3	94 3	74 2	80 2	82 3	81 2	495	15	
平成3年		87 3	90 3	102 3	82 3	90 3	90 3	541	18	
平成4年		119 3	90 3	102 3	108 3	87 3	96 3	602	18	
平成5年		125 4	134 4	100 3	111 3	121 4	96 3	687	21	
平成6年		110 3	135 4	147 4	116 3	117 3	129 4	754	21	
平成7年		136 4	128 4	142 4	158 4	127 4	127 4	819	24	
平成8年		124 4	142 4	132 4	152 4	165 5	135 4	850	25	
平成9年		121 4	129 4	152 4	141 4	158 4	171 5	872	25	
平成10年	2 1	116 3	125 4	135 4	161 5	149 4	165 5	853	26	
平成11年	3 1	105 3	130 4	141 4	141 4	170 5	158 4	848	25	

10周年を迎えた桂坂小

4月



1年生106名の入学式を行い、全校児童数848名
教職員42名のスタート

9月



トルコ大震災義援金運動

5月



修学旅行 広島・厳島神社

10月



秋の運動会

6月



4年 花背山の家宿泊学習

11月



子ども国際クラブ「民族の文化にふれる集い」に参加

6月



5年 みさきの家宿泊学習

11月



開校当時の様子
湯浅 忍氏

校歌について
松尾隆夫氏

「松らい」の説明
中路融人画伯

7月



朝のおよう隊 児童会本部

12月



日文研「授業」5・6年

教職員 10年のあゆみ

平成元年度



- 三列目
富山 東
藤阪登美子
塩見 裕子
西岡 松枝
丸山 文子
齋藤かえで
巽 由美子
- 二列目
寺尾 公
西村 清子
上坊由美子
沢岡 満子
杉原 貞次
比良岡美智代
内藤 慶子
和田 英明
- 一列目
石田 智子
西川 聖子
岩湖 信明
中西 一孝
高橋 宏光
小林 孝二
三宅 貞志
(敬称略)

平成2年度



- 三列目
小林 孝二
三宅 貞志
寺尾 公
西岡 松枝
佐伯 玲子
岡本登視子
水山 嘉子
西村 清子
- 二列目
富山 東
藤阪登美子
沢岡 満子
杉原 貞次
斉藤みゆき
吉田 由紀
北村眞智子
- 一列目
巽 由美子
石田 智子
和田 英明
西川 聖子
中西 一孝
高橋 宏光
岩湖 信明
上坊由美子
塩見 裕子
(敬称略)

平成3年度



- * * *
- 上坊由美子
- 三列目
福田昌史
北村眞智子
岡本登視子
富山 東
斉藤みゆき
栗川清恵
長田雅子
前田かつ枝
杉原貞次
- 二列目
佐々木昭子
清水 君子
西岡 松枝
水山 嘉子
西川 聖子
上村 輝子
荻野 みや
佐伯 玲子
吉田 由紀
三宅 貞志
- 一列目
小林 孝二
西村 清子
寺尾 公
塩見 裕子
中西 一孝
早川 雅雄
石田 智子
正木由美子
和田 英明
(敬称略)

平成4年度



■三列目
前田かつ枝 北村眞智子 小林 孝二
谷口 麻里 水山 嘉子 正木由美子
横田枝里花 寺尾 公 和田 英明
福田 昌史 上坊由美子 石田 智子
杉原 貞次 上村 輝子 中西 一孝
清水 君子 荻野 みや 早川 雅雄
富山 東 塩見 裕子 村山 悦子
西岡 松枝 西川 聖子 三宅 貞志
岡本登視子 齊藤みゆき 西村 清子
堀尾 重文 吉田 由紀 (敬称略)

平成5年度



■三列目
福田 昌史 谷口 麻里 和田 英明
堀尾 重文 桂 直子 齊藤みゆき
富田 英治 塩見 裕子 水山 嘉子
寺尾 公 西村 聖子 市場 良祐
杉原 貞次 上村 輝子 早川 雅雄
永田 静枝 上坊由美子 中西 一孝
西岡 松枝 石田 智子 三宅 貞志
岡本登視子 富山 東 村山 悦子
清水 君子 前田かつ枝 小林 孝二
古里 章子 北村眞智子 (敬称略)

平成6年度



■三列目
富山 東 河崎 仁美 吉見 忠郎
堀尾 重文 西川 聖子 上坊由美子
西岡 松枝 安達 京子 福田 昌史
永田 静枝 寺尾 公 市場 良祐
岡本登視子 吉田 由紀 早川 雅雄
清水 君子 塩見 裕子 和田 英明
大林 久栄 谷口 麻里 寺内 敦子
八木 育子 石田 智子 齊藤みゆき
前田かつ枝 村山 悦子 富田 英治
北村 美香 三宅 貞志 北村眞智子
杉原 貞次 上村 輝子 吉田 直子 (敬称略)

平成7年度



* * *
 春田 知子
 桂 直子
 石田 智子
 小垂 喜子
 堀尾 重文
 谷本百合子
 谷口 麻里
 永田 静枝
 岡本登視子
 大林 久栄
 塩見 裕子
 満田美津子
 村上 智子
 小堀 葉子
 今崎 文弥
 富田 英治
 安達 京子
 杉原 貞次
 綾詰 研二
 村山 悦子
 八木 育子
 佐伯 玲子
 北村 美香
 西川 聖子
 齊藤みゆき
 前田かつ枝
 河崎 仁美
 入江 陽子
 北村真智子
 清水 君子
 市場 良祐
 木村 純一
 寺内 敦子
 吉見 忠郎
 上坊由美子
 福田 昌史
 吉田 由紀
 上村 輝子
 (敬称略)

平成8年度



■三列目
 福田 昌史
 谷本百合子
 堀尾 重文
 菊川 清美
 永田 静枝
 岡本登視子
 清水 君子
 八木 育子
 桂 直子
 満田美津子
 村木美也子
 河崎 仁美
 山本 直樹
 ■二列目
 綾詰 研二
 奥村 公子
 塩見 裕子
 吉見 忠郎
 伊藤美智子
 中村 金子
 上田みすず
 北村 美香
 寺田 恵子
 坂根 博子
 小堀 葉子
 前田かつ枝
 安達 京子
 石田 智子
 ■一列目
 村山 悦子
 草場真知子
 池地 若菜
 市場 良祐
 木村 純一
 村田 喬子
 福田 英治
 大林 久栄
 谷口 麻里
 上村 輝子
 今崎 文弥
 (敬称略)

平成9年度



* * *
 安宅 仁美
 八木 育子
 岡本登視子
 今崎 文弥
 堀尾 重文
 中村 金子
 坂根 博子
 寺田 恵子
 中井裕美枝
 池地 若菜
 桂 直子
 扇畑 富恵
 毛利 豊和
 菊川 清美
 横井川美紀
 伊藤美智子
 奥村 公子
 塩見加寿枝
 大林 久栄
 東 順
 ■三列目
 今崎 文弥
 堀尾 重文
 上田 洋子
 塩見 裕子
 十川 修一
 市場 良祐
 木村 純一
 角垣 健美
 吉見 忠郎
 村山 悦子
 福田 英治
 富田 昌史
 綾詰 研二
 草場真知子
 (敬称略)

平成10年度



- 四列目
中川 好美
横井川美紀
綾詰 研二
小宮 大輔
藤井 由紀
上田 洋子
加藤 信子
谷本百合子
- * * *
扇畑 富恵
北村 美香
堀尾 重文
- 三列目
小林 信子
菊川 清美
清水 君子
岩井 早苗
寺田 恵子
大林 久栄
西川 裕子
- 二列目
伊藤美智子
久保理也子
満田美津子
安宅 仁美
草場真知子
毛利 豊和
池地 若菜
水澤 博子
春田 知子
坂根 博子
中村 令子
- 一列目
奥村 公子
山本 直樹
今崎 文弥
市場 良祐
赤羽 清
角垣 健美
塩見加寿枝
十川 修一
小垂 喜子
桂 直子
安達 京子
(敬称略)

平成11年度



- * * *
坂元 良夫
藤田 勝也
三木 隆史
堀尾 重文
横井川美紀
小垂 喜子
- 四列目
安宅 仁美
奥村 公子
久保理也子
上田みすず
池地 若菜
廣瀬摩由子
安達 京子
近藤かほる
伊藤美智子
- 三列目
土井 大輔
加藤 信子
岩井 早苗
糸井 裕子
草場真知子
菊川 清美
中川 好美
島田 恵子
谷本百合子
- 二列目
綾詰 研二
足立 明子
西川 裕子
坂根 博子
中村 令子
吉村かすみ
北村 美香
西村 克美
塩見加寿枝
吉見 忠郎
坂下 静枝
- 一列目
大林 久栄
寺田 恵子
今崎 文弥
山本 直樹
市場 良祐
赤羽 清
角垣 健美
満田美津子
十川 修一
水澤 博子
毛利 豊和
(敬称略)



桂坂小学校誕生まで

- 昭和 61 年 4 月 桂坂学区入居開始
洛西中学校、新林小学校へ通学（平成元年3月まで）
- 昭和 63 年 4 月 「大枝中学校・桂坂小学校開設準備室」の設置
準備室長 佐野幸夫
- 昭和 63 年 7 月 「大枝中学校・桂坂小学校開設準備委員会」の発足
- 昭和 63 年 9 月 準備室長 佐野幸夫・中西一孝
- 平成 元 年 4 月 大枝中学校・桂坂小学校開校



桂坂学区が全く新しく開発された地域であったため、中学校、小学校ともに独立新設校として開校することになりました。そのため、地元地域の方々、新林小学校の先生、PTAの方々をメンバーとした、京都市教育委員会では前例のない「大枝中学校・桂坂小学校開設準備室」ならびに「同準備委員会」が設置され、開校準備にあたりました。

開校までの3年間、小学生は、新林小学校にバスまたは徒歩で通学しており、特に朝の通学時には、準備室長、保護者

が協力して安全の確保に努めました。そういった中で、小学校校舎の建設が進み、開校準備委員会では校歌、校章が決められていきました。また、緞帳、グランドピアノ、鳥小屋、観察池、図書の一部などが、地域の方々のご尽力による開発業者からの寄付金で整えられました。このようにして、21世紀に羽ばたく子どもたちをはぐくむ教育の場としてふさわしい小学校が、ここ桂坂に建設されました。



児童数 354 名 教職員数 20 名 学級数 12 (5月1日現在)

第1回卒業生 77 名



待ちに待った開校式 4月5日



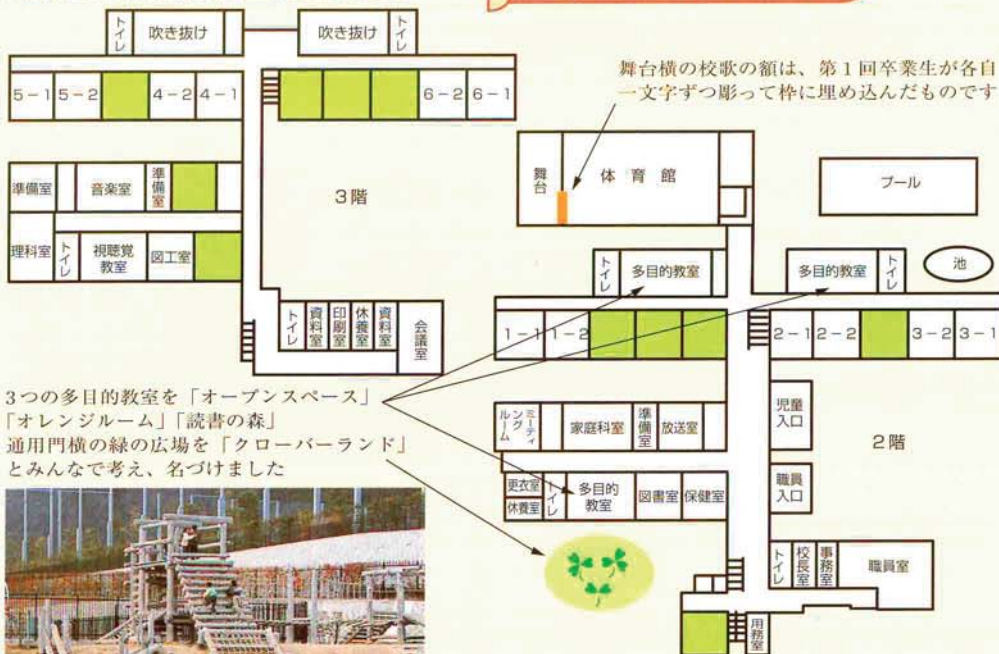
開校式に向けての初めての職員会議は、まだ校舎に入らず、クローバーランドに設置された工事現場のプレハブの一室で行われました。

新林小学校に通っていた子どもたちと開校にあわせて転入してきた子どもたち、そして、いろいろな地域から来られた先生方。新生桂坂小学校のスタートです。

一日でも早く学校に慣れるようにと、新学期早々に、児童会が発足しました。子どもたちがひとりぼっちにならないように、学年を超えた「縦割り教育」にも力を入れました。集団登校には、安全という目的だけでなく、地域での友だちづくりという大切な役割がありました。

学校探検図

児童数も少なく空き教室(■)もありました



第1回卒業生植樹



3つの多目的教室を「オープンスペース」「オレンジルーム」「読書の森」
通用門横の緑の広場を「クローバーランド」とみんなで考え、名づけました



思い切り遊ぶことは、学習と同様に大切であるという観点から、遊具の設置にも力がいられました。運動場北西には木製のアスレチックがおかれ、子どもたちにたいへん人気がありました。

運動場北側のシュート板も開校1年目に作られました。子どもたちの夢が気球に乗って大きく広がってほしいという願いがこめられています。夏休みに、当時の担任の先生が、汗を流してペンキを塗った心のこもった手作りのシュート板です。

ぴかぴかの小学校* 1年目のおもいで

- * 3階廊下の南北にあるステンドグラスはまぶしいくらいきれいでした。
- * 空き教室がたくさんあり、校内探検や鬼ごっこをしたよ。
- * 修学旅行では前年に開通したばかりの瀬戸大橋が特に素晴らしかったです。
- * 体育館に掲げられた校歌レリーフは卒業記念に第1回卒業生が一文字ずつ彫って作り上げました。
- * クラブは、ソフトサッカー、陸上、卓球、バトン、将棋、科学、手芸、料理、工作しかなかったよ。
- * 3学期始業式には開校1周年を記念して、全校児童で風船をとばしました。晴れわたった青空にみんなの手紙をつけた風船が高く高く上がっていきました。

運動会 9月28日

大成功「フットルースイン桂坂」(5・6年生団体競技)



楽しかった修学旅行

10月17日：岡山・18日：倉敷



風船飛ばし 1月8日





修学旅行 6年生 5月17日・18日 1泊2日

岡山・倉敷方面への旅



岡山・倉敷などについて旅行前に自分たちで資料を集め、しおりや歌集も作成しました。家族旅行ではできない数多くの貴重な体験をし、楽しい思い出がいっぱいの修学旅行となりました。



野外学習 5年生 10月9日~11日 2泊3日

奥志摩みさきの家



太平洋を望む京都市野外教育センター「奥志摩みさきの家」へ出かけました。野外炊事では「すき焼き風煮」をつくり、キャンプファイアー、肝だめし、磯観察など楽しい体験がいっぱい。自然を知り、自然に親しみ、仲間と力をあわせて行動することなどたくさんを学びました。



クローバーランドで給食を



放映されたビデオ画像の一場面より

毎日放送「あまからアベニュー」の給食紹介コーナーで、2年生のクローバーランドでの給食風景が紹介されました。また、10月9日には1年生の保護者を対象とした給食試食会もクローバーランドで開催されました。まだまだクラス数も少なく、順番にクローバーランドを利用して、青空のもとでの給食を楽しみました。

大球3個購入・映画鑑賞会

●廃品回収の収益金で●



廃品回収（古紙回収）の収益金の一部で大球3個を購入しました。秋の運動会の中で大活躍です。

また、地域の方々にも参加していただける行事として映画鑑賞会も開催されました。

- * 「陽のあたる家族」
- * 「みじかくなったエンピツ君」
- * 「くすの葉ぎつね」



風船飛ばしの返事届く

開校1周年を記念して、それぞれが思い思いの手紙をつけて飛ばした風船が風に乗って、たくさんの町や山を越えて行きました。遠く奈良県にまで飛んでいったものもあり、風船を見つけたときの様子やその町のことを書いた丁寧な返事が学校に届きました。

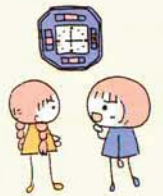
先生と親子のつどい

11月に、担任の先生方をまじえて「親子のつどい」が開かれました。ゲームなどで楽しいひとときを過ごし、親睦を深めました。

- | | |
|----|----------------------|
| 1年 | しっぽとり・ジェンカ・アンパンマンリレー |
| 2年 | さいころに願いをこめて・玉入れ |
| 3年 | ハンカチ落とし・輪ゴムおくり・こおりおに |
| 4年 | 王さんとり |
| 5年 | フォークダンス |
| 6年 | ばくだん・魚島木・フォークダンス |



卒業記念品の大時計



正面玄関ホールで毎日時を刻んでいる大時計は、第2回卒業生からの贈り物です。時を告げるたびにオルゴールが楽しい音楽を奏でるとともに、文字板が回転してかわいらしいピエロが登場します。この年の卒業生は自分でデザインした掛け時計を彫りました。

第1回「桂坂クリーン作戦」

学校や地域を愛する心を育てたいという思いから「桂坂クリーン作戦」が実施されました。よく晴れた3月13日の3・4校時、町別児童会に分かれていつも歩く通学路や緑道で紙くず、落ち葉、空き缶などたくさんのごみを拾いました。1年生から6年生まで、みんなの力でたいへんきれいになりました。





「協力指導」のモデル校に

平成2年度から京都市教育委員会の研究推進校に指定され、「協力指導」の実践を積み重ねてきました。従来の学級担任による全教科の指導のよさを残しながら、教師の専門性や特性などを生かした交換授業や、複数の教師が協力して、学年全体を課題別のグループに分けて指導する授業が、1年生から6年生まで、種々の科目で行われました。平成4年2月5日、京都市をはじめ全国から先生方を招いて下表のような研究発表を行いました。

学年	教科	課題
1年	生活科	冬を楽しく過ごそう
2年	生活科	おもちゃ大会をしよう
3年	理科	磁石の極
4年	図画工作科	こま回し(絵画)
5年	家庭科	わたしたちのおやつ
6年	音楽科	合奏の楽しみ

3年生の授業風景



「かつらざかタイム」の取り組み

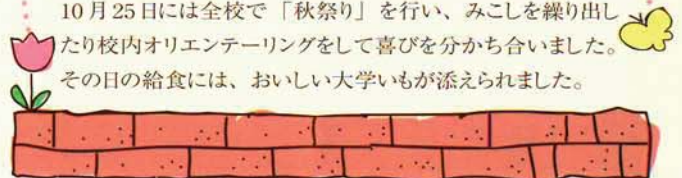
月曜日の朝は、全校児童が集まる朝会で始まります。そのうちに1回程度、「かつらざかタイム」が設けられています。これは、子どもたちが学校での集会活動や体験活動を通して、深く考えたり強く心を動かされたりしたことを発表する時間です。

この取り組みは、子どもたち自身が毎日の学校生活を見つめなおし、思いやりの気持ちをもって、より良い学校生活を築いていけるようにと始められたもので、現在も続いています。

栽培活動の充実

5月に栽培活動の花壇が完成し、学年ごとに、朝顔、ひまわりなどの花々や、トマト、とうもろこしなどの野菜が栽培できるようになりました。

プール北側の学校園では、1・2年生がさつまいもの栽培に取り組みました。これは次年度から新設される生活科への移行期間の指導のひとつで、苗を植え、水やり、草取りなどの世話を続けました。秋には驚くほどの収穫があり、10月25日には全校で「秋祭り」を行い、みこしを繰り出したり校内オリエンテーリングをして喜びを分かち合いました。その日の給食には、おいしい大学いもが添えられました。



給食調理室から 当時の調理員さんに伺いました

Q：当時の給食調理室の様子は？

開校当時から、千人規模の学校になることを想定して建築されていたので、調理室も広く、大釜は6個ありました。

Q：調理員さんの人数は？

3名で、約600名分を手際よく調理していました。

Q：子どもたちの人気メニューは？

やはりカレー、シチューでした。ひじき、豆、魚の煮付けは残ることがありました。

栄養面、味付け、できあがり時間、アレルギーのある子への対応等、きめ細かい配慮が今もずっと引き継がれています。



6年生修学旅行 5月22日・23日



新幹線に乗って岡山・倉敷方面へ。ホテルに泊ったことや、後樂園や倉敷での買い物のことなど、思い出がいっぱいできました。

秋の運動会 9月26日



各学年とも3クラスになり、3色対抗の賑やかな応援合戦から始まりました。団体演技は、1・2年生—ダンス、3・4年生—「ソーラン節」、5・6年生—組体操「動そして静」。

こんなこともしたよ

- 春の運動会 5/2
- 社会見学 (5・6年生) 9/7 青少年科学センターへ
- 桂坂クリーン作戦 9/10・2/22
- かつらざかウォークラリー 12/5
- スキー教室 (5・6年生) 1/22 マキノスキー場へ
- スケート教室 (3・4年生) 2/19 エミナースへ

5年生みさきの家 10月12日～14日



台風の雨の中、リュックがぬれないようにビニールでくるんで出発しました。みさきの家では、好天でしたが、キャンプファイヤーは強風のため屋内でした。

学芸会 11月7日・8日



名演技をもちたてる衣装や、背景、小道具、そして工夫された照明に音響と、どの子も主役の学芸会でした。

楽しく活発な活動

開校して3年目を迎え、クラブ、委員会など課外活動の種類も増え充実してきました。

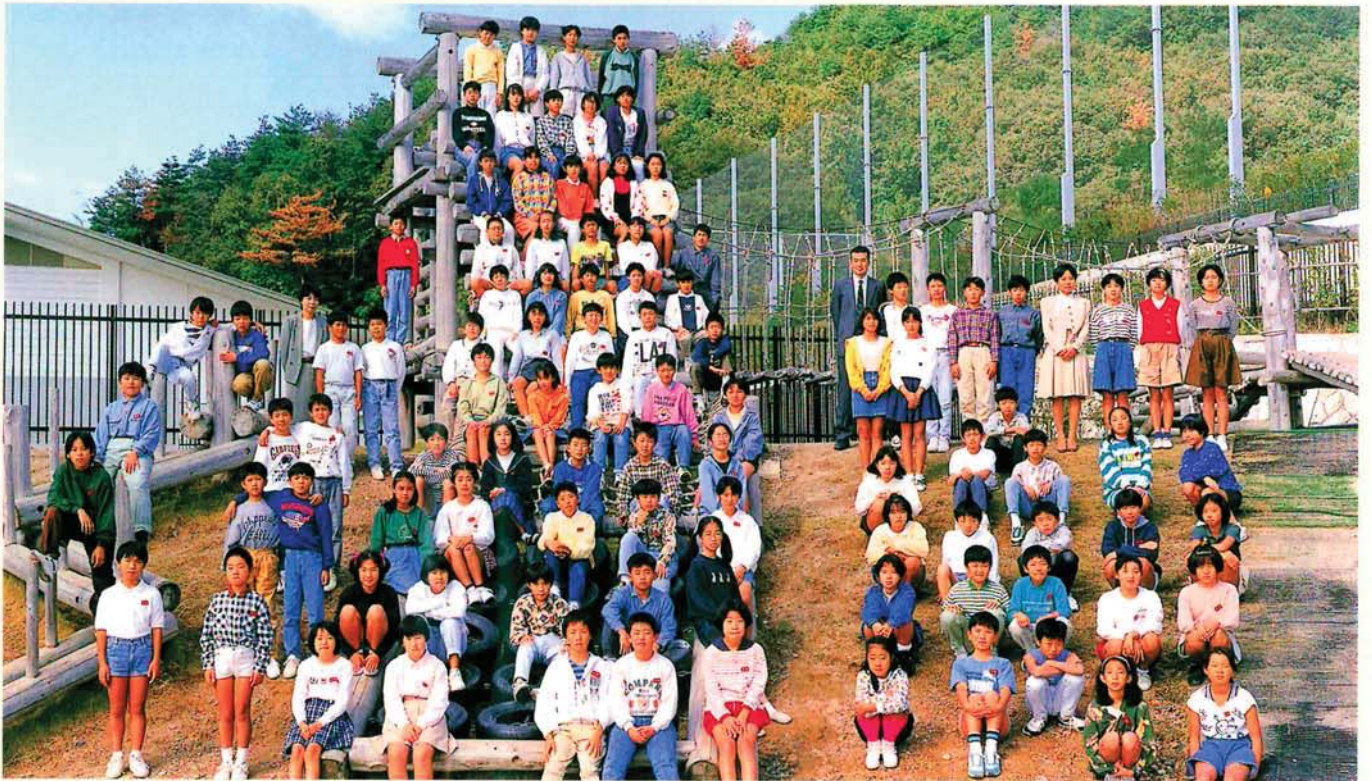
クラブ	バトン・一輪車・バドミントン・陸上・ソフトサッカー・卓球・バスケットボール・ゲーム・科学・創作漫画・料理・手芸・工作・リコーダー
スポーツ教室	バレーボール・テニス・サッカー
委員会	科学・運動・栽培・計画・集会・図書・放送・生活・保健・飼育・新聞・給食・掲示

映画会 1月8日

地域の方々にご協力いただいている古紙回収の収益の一部で、PTAが主催しました。「11ぴきのネコ」が上映され、体育館は子どもたちや保護者、地域の方々でいっぱいになりました。

打楽器による音楽会 2月29日

家庭教育学級として、京都市立芸術大学の先生による講演の後、学生さんたちによるコンサートが開かれました。子どもたちも参加し、「ゆかいな音楽会」を演奏しました。「どんなときも」の大合唱は感動的でした。



「学校賞」受賞

●お話を絵にするコンクール●



「お話を絵」とは、子どもたちが読書で得た感動を自由に画用紙に表現するものです。「お話を絵にするコンクール」にこの年、京都府・滋賀県内の小学校あわせて387校が応募し、学校賞20校の中に桂坂小学校が入りました。

一人ひとりの作品の中から感じられる明るく豊かな感受性、想像力、そして最後まで粘り強く仕上げる姿勢が、学校全体として優秀であることが認められての受賞でした。

ミニ図書館オープン



3学期から多目的教室（オレンジルーム）が「ミニ図書館」になりました。低学年の子どもたちに、楽しい雰囲気の中で本に親しんでほしいという目的です。保護者や地域の方々から寄贈された本300冊がカラフルな本棚に並びました。

卒業記念品 児童活動用掲示板



児童会の各委員会が全校児童に連絡を伝える掲示用黒板は、みんなの目にふれやすい玄関ホール左にあります。

桂坂ウォークラリー



11月21日、小雨の降る中、子どもたちは登校班をもとにした6、7人ごとのグループを組んで学校を出発。校区をめぐる7つのチェックポイントでは、クイズや作品づくり、大なわや輪投げなどのゲームに力をあわせました。

道路の危険な箇所には、PTAが中心となって立ち、黄色い旗で誘導しました=写真。

学校週五日制 始まる



いきいきサタデー

● 9月から月1回、第2土曜日が休業日 ●

- ◎家族や地域の人たちとふれあう。
- ◎ゆとりのあるゆったりとした時間を過ごす。
- ◎自分のしたいことを存分にする。

これらをめざして学校週五日制がスタートしました。

桂坂小学校では、子どもたちが休業土曜日をどのように過ごしているのか知るために「ふれあいカード」を作りました。また休業土曜日の授業時間数をほかの日に上乘せしないため、学校行事の精選や運動会・学芸会の練習時間の削減などが行われました。

実施に先がけて6月13日(土)を「ノーかばんデー」とし、子どもたちは手ぶらで登校。音楽鑑賞会が開かれました。

生活科 (1・2年) 始まる

この年から1・2年の理科・社会科が「生活科」となりました。活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然との関わりに関心を持ち、生活に必要な知識や方法を身につけることがねらいです。子どもたちの興味関心に根ざした柔軟な学習活動がスタートしました。

子ども郵便局 (2年生)

それまでの社会科の「働く人々」は、実際の郵便局をもとにして仕事ぶりを学習していました。生活科では子どもたちを中心に考え、「子ども郵便局をつくろう」「それじゃ、はがきや切手、それに配達するには?」と子どもたちの発想を大切にしながら、郵便の仕組みを学んでいきました。



オレンジルームで、はがきにスタンプを押す子ども郵便局員



玄関ホールに手作り郵便ポスト

★地球環境サミット (6月)

ブラジルで開かれた環境と開発の国連会議。地球温暖化防止条約などが調印されました。

★バルセロナ夏季オリンピック (7~8月)

172カ国参加。水泳の岩崎選手、マラソンの有森選手らが活躍しました。

★毛利衛さん宇宙へ (9月)

スペースシャトル「エンデバー」から、毛利さんが子どもたちに向けて「宇宙授業」をしました。

学校週五日制を受けて休業となった土曜日は「いきいきサタデー」と名づけられました。

桂坂の子どもたちの過ごし方については地域全体で考えようと、PTAを中心に自治連合会・地域各種団体で「いきいきサタデー推進委員会」が発足、下のようなささまざまな取り組みが始まりました。

9月12日 校庭・プール開放

学校週五日制の実施で初めての休業土曜日。プールでは家族で泳ぐ姿、校庭では親子でキャッチボールやアスレチックなど、約200人でにぎわいました。

11月14日 映画鑑賞会

古紙回収の収益の一部で、PTA主催の映画「わんぱく冒険旅行」他2本が上映されました。映画の後は体育館や校庭でバレーボール・テニス・ドッジボールと、学年を越えて「親子ふれあいスポーツ」が行われました。

12月12日 一輪車・ドッジボール・ターザンロープ開放

1月9日 おぜんざいの会

寒い日にもかかわらず多数の参加がありました。体育館では百人一首やすごろく、校庭では凧あげと、思い切り遊んだ後はPTAが準備した「おぜんざい」を食べてあたたまりました。



クローバーランドで用意された「おぜんざい」には長い列が

2月13日 耐寒ハイキング

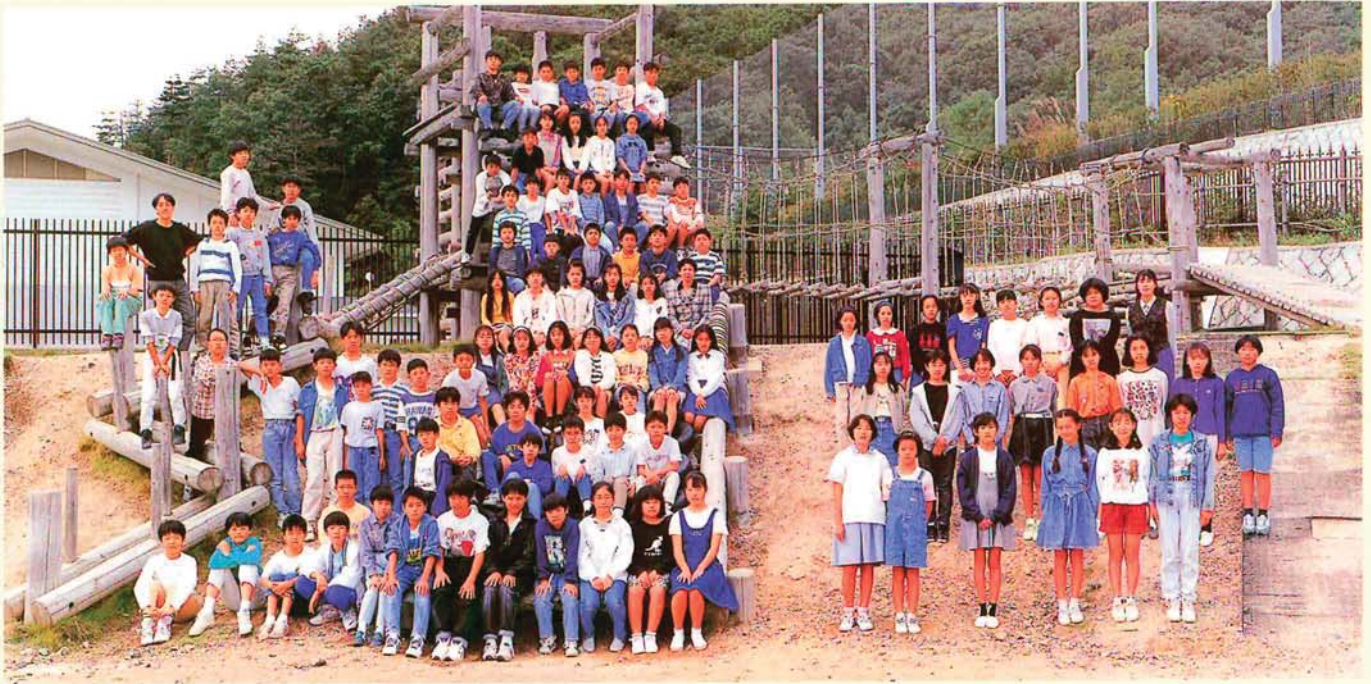
少年補導桂坂支部主催のハイキングは、桂坂周辺約6km、2時間余りの道のりでした。学校に戻ってからの「豚汁」にはおかわりの列ができました。



桂坂野鳥園の裏山を元気に登る子どもたち

3月13日 昔の遊び (山の手倶楽部主催)

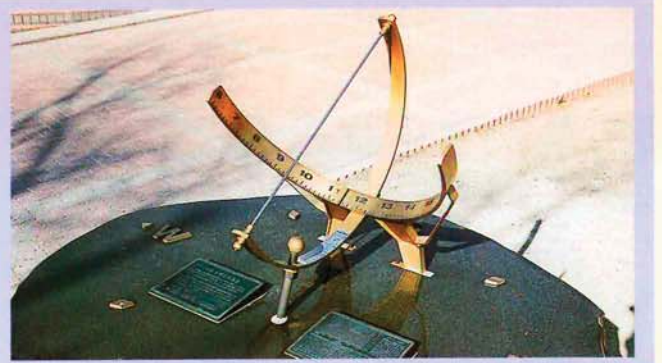
こんなことがあったね



創立5周年記念事業 <日時計>

創立5周年の記念として古紙回収の収益金から日時計が贈られました。3月8日に除幕式が行われ、つどいの広場東側の運動場を見下ろす場所に置かれました。

すばらしい石の台に設置されたこの日時計は、天気の良い日には、はっきりと時刻を示します。



ティームティーチング (T.T.) はじまる

平成5年9月より学級・学年で担任の他に1名を加えたティームティーチングが始まりました。

1年生と3年生は、本校にて西京西支部の研究発表を行い、子どもたちのいきいきとした学習活動を他校の先生方に見ていただきました。また2年生と6年生は、校内発表として取り組みました。

やきいもパーティの
かんばんをつくらう!



●平成5年T.T.による授業●

- 1年 生活科 おおきくなったね
—さつまいもを育てよう—
- 2年 生活科 いちごができたよ。うれしいなあ
- 3年 社会科 京都市で作り出されるもの
農家の人々のしごと・大枝の柿づくり
- 6年 算数科 比例と反比例



いもパズルを
つくらう!





花背山の家

京都市野外教育センター「花背山の家」が平成5年4月1日にオープンしました。自然を愛する心を養い、いのちの大切さを学びとることを目標としています。又、寝食を共にする集団宿泊活動を通して、友情を深めあい、社会性を身につけることによって、人間尊重の心を高めることも大きなねらいとして取り組みました。

4年生は木の香りもすがすがしいオープンしてまもない山の家へ5月28日・29日に行きました。また6年生は卒業遠足として12月8日・9日に行き、4年生、6年生共に豊かな自然の中で、オリエンテーリング・星の観察・ちまき作りなどの楽しい野外活動を行いました。

平成6年も4年生、6年生がそれぞれ参加し、平成7年度からは4年生の恒例の宿泊学習になりました。



いきいきサタデーの催し

6月12日(土) 山の手倶楽部によるイベント

平成4年9月に発足した山の手倶楽部のみなさんと色々な遊びを楽しみました。

将棋・ビーンボール・クロリティ(わなげ)・竹馬・まりつき・竹返し・広告で作る蝶・ゲートボール・おじゃみ・大縄跳び・折り紙・いも版

10月9日(土) オーケストラとあそびましょう

市立堀川高等学校音楽科オーケストラによる演奏会。「大ホール」と変身した体育館は超満員の音楽ファンで埋まりました。

11月13日(土) 映画会「北極のムーシカ・ミーシカ」

地域の方々とのふれあいの場として古紙回収の収益金の一部でアニメ映画が上映されました。



©日活・虫プロ

1月15日(土) 昔の遊びとおぜんざいの会

たこあげや竹馬などを親子で楽しみました。

こんなところへ行ったよ

修学旅行(6年生) 5月20日・21日

1日目 岡山城・後楽園・瀬戸大橋・鷺羽山

2日目 三菱自動車工場見学・倉敷美観地区



わあ おいしそうだなあ!

みさきの家(5年生) 10月25日~27日



みんなで力を合わせて作った「すき焼き風煮」、浦山ラリー、磯観察…。

様々な野外活動を通じて自然の大切さや友だちと助けあうすばらしさを学びました。

社会見学(5年生) 11月24日

大阪ガス科学館 新日鉄堺工場

スキー教室(5・6年生) 1月28日

マキノスキー場



スケート教室(3・4年生) 2月16日

高野アリーナ

卒業記念品 マチスの絵(複製画)

3階の廊下西側の壁にあります。



「ジャズ」より「イカルス」「馬・女曲馬師・道化師」

児童数 754 名、教職員数 33 名、学級数 21 (5月1日現在)

第6回卒業生 135名



充実した小学校生活

- 開校当初354名でスタートした児童数も、5年を経て754名に増え、北側校舎に加えて、図工室と空き教室が普通教室として使われました。
- 専任の先生が来られ、ティームティーチングも積極的に行われました。子どもたちにはわかりやすい授業だと好評でした。
- 通知表に相対評価が取り入れられ、到達度評価とあわせて見ると、子どもたちの学力がよりわかりやすくなりました。
- スポーツ教室では、バスケット部が新たに加わり、さらに充実しました。
- 6月には、韓国から約30名の教育関係者が視察に訪れました。つどいの広場で3年生が中心となって歓迎のセレモニーを開き、ハンゲルで挨拶しました。
- 「うるおい教育」の一環としてトランペットとトロンボーンを購入しました。市立堀川高等学校音楽科の先生に楽器の持ち方や呼吸法、吹き方などを指導していただきました。
- 3月には開校時に入学した子どもたちが桂坂小学校を卒業しました。

楽器指導 1月17日

音が出るかな



いい名前だね！カザラッカコンサート

カザラッカコンサート



平成6年度ポスター

平成5年度に「オーケストラとあそびましょう」と題してPTAの主催で開催された音楽会は、たいへん好評だったため、平成6年11月12日には、桂坂を反対から読んで、「カザラッカコンサート」と名前を変えて開かれました。子どもたちや保護者だけでなく、地域の方々もあわせて約700人が秋の半日、フルオーケストラの奏る音楽に酔いしれました。

市立堀川高等学校音楽科のご好意で平成6年度以降、PTAの恒例の行事として、毎年11月の第2土曜日に開かれています。



校長先生からのメッセージ



日頃じかに接することの少ない校長先生からは、「きりん」のタイトルで、子どもたちにメッセージが送られました。「きりん」には、書くことを重視されていた先生の願いや思いだけでなく、子どもたちの作文、投書も載せられました。このお便りは学校の正面玄関に置かれ、子どもたちは、自由に取って読むことができました。

校長室の入口の前には、投書箱が置かれ、子どもたちはクラスの様子や社会見学、遠足などの様子を書いて校長先生に送り、交流を深めました。

また、PTAの広報誌にも、美しい絵と先生の言葉が載せられ、好評を博しました。



空き缶リサイクルの始まり

—エコ・リーダーの先駆者たち—



5年生が家庭科の授業の一環として、「生活の自立」、「自然の素晴らしさ」から環境問題を考えようと学年全体で空き缶の回収に取り組みました。

夏休みの登校日に、回収した空き缶を使って、子どもたちが金閣寺、宇宙ステーション、恐竜の3つのテーマでオブジェを作りました。オブジェ作りでは、押しつぶした空き缶を接着剤でくっつけたり、針金でつなぎ合わせたりと思ったより大変でした。その後回収した空き缶を廃品回収業者に引き取ってもらい、資源をリサイクルすることを学びました。

平成6年度は5年生だけでしたが、翌年この取り組みは児童会で検討され、学校全体の活動へと発展しました。平成9年度からは環境委員会が設定され、空き缶だけでなく牛乳パック、乾電池も回収しています。またリサイクル資源の回収による収益はユニセフへの募金となっています。

夏休みのオブジェ作り



おもいでのスナップ



楽しかった修学旅行

5月19日：岡山 20日：倉敷
鷺羽山から見た瀬戸大橋の夜景は
とてもきれいでした



秋の運動会

9月28日
力を一つにして
めざせチーム優勝!!



学芸会

11月10日・11日
脚本作り、監督、出演
6年生は大活躍



阪神淡路大震災

平成7年1月17日 午前5時46分 神戸を中心として、西宮、芦屋、宝塚、淡路島北部でM7.2の大きな地震が起こりました。死者6,432人、負傷者43,792人、倒壊家屋512,880棟(自治省消防庁)、幹線道路の寸断など被害総額は9兆9,600億円(国土庁防災局)を超える大惨事となり、被災状況が終日、全国に放映されました。

桂坂小学校は幸いなことに、全く被害がなく、当日も平常授業が行われました。

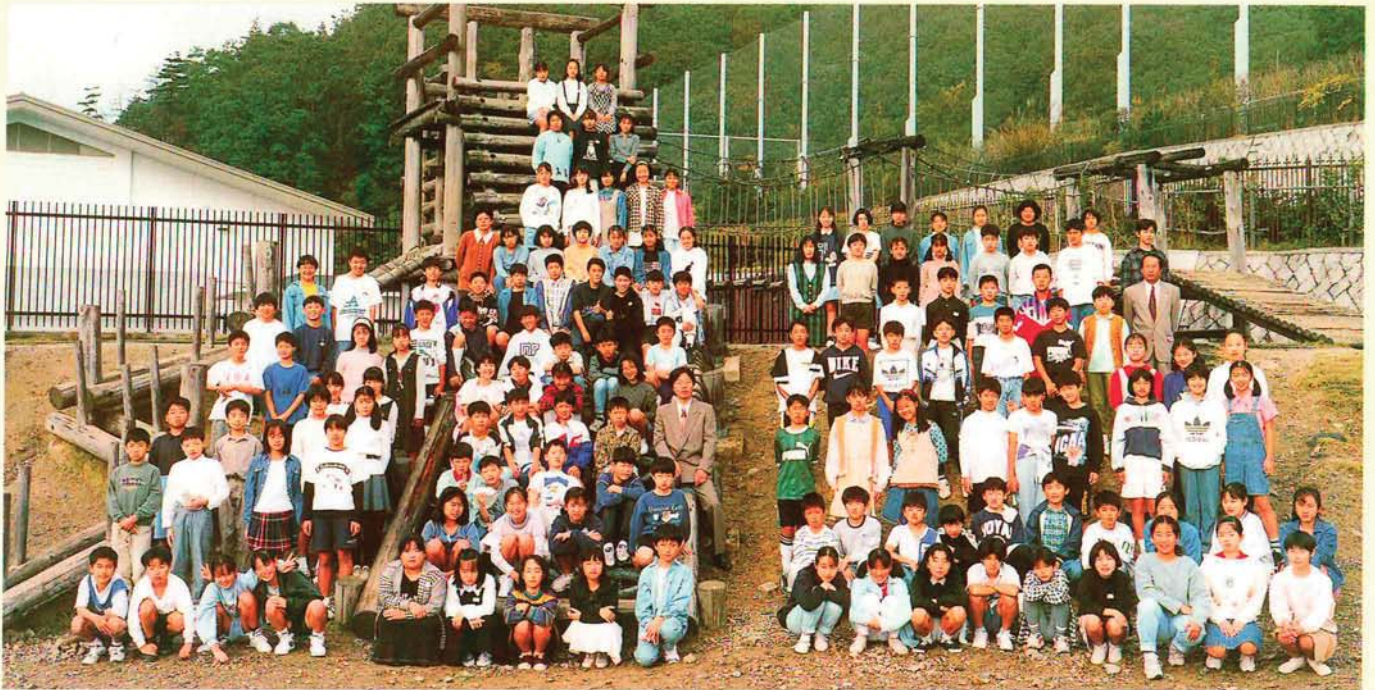
僕たち、私たちにも何かできることはないかと、児童会が中心になって義援金を集めました。1月の寒い時期でしたが、登校時に、校門のところに立って募金活動をしました。みんなの協力のおかげで277,664円が集まり、京都新聞社を通じて被災地へ送りました。その後2年間にわたって児童会が中心となって義援金を集めました。

桂坂小学校にも被災のために一時通学しているお友達も8人いましたが、みんなと仲良く勉強できました。

3学期に地震と火災を想定した避難訓練が行われました。大きな被害のあった震災の後だけに、子どもたちも真剣に取り組みました。天災の恐ろしさを目の当たりにすると同時に、急な災害に対して、いかに無防備であったかを実感した痛ましい震災でした。

児童数 819 名、教職員数 36 名、学級数 24 (5月1日現在)

第7回卒業生 131名



修学旅行 6年生 5月18日・19日

岡山・倉敷方面

学校から貸切りバスに乗って、ガイドさんと一緒に歌をうたったり、ゲームを楽しみながら岡山に向かいました。長時間のバスの旅にもかかわらず、元気に到着。瀬戸大橋、自動車工場などを見学しました。2500円のこづかいを如何にうまく使うかという楽しみも味わいました。



いい湯だな

おみやげは
何にしようかな?



みさきの家 5年生 11月6日~8日



本番に備えてクローバーランドで炊飯の練習をしました。(10月27日)



いよいよ本番。練習どおりうまくできるかな。

学校週五日制が月2回に

平成4年9月から始まった学校週五日制が、この年の4月より、これまでの第2土曜日に加え、新たに第4土曜日も休業日となり、月2回に増えました。

ぼくたち・わたしたちのコンピューター

情報化時代を迎え、学校教育の中でもコンピューターを使った学習の必要性が高まる中、他校に先がけて11月にコンピューター7台が導入されました。まず、卒業をひかえた6年生を中心に、名称を覚えたり、マウスの操作に慣れるために、ゲームを楽しんだりして少しずつ活用が始まりました。

平安騎馬隊来る 9月23日

「西京区民交通安全の集い」が桂坂小学校で開催されました。各学区から約600人の参加者を迎え、桂坂小学校のメロディークラブの演奏で始まり、交通安全教室の後、京都府警音楽隊の演奏、カラーガード隊、平安騎馬隊の演技が行われ、華やかな各隊を先頭に学区内でパレードが行われました。また、子供たち約100人が騎馬体験をして楽しい思い出を作りました。



大雪の桂坂

12月25日、大雪が降りました。門が開かないほどの積雪で、お湯とスコップでの雪かきの末ようやく門が開きました。雪がよく降ったこの年の冬、先生方や事務員さんはいつも長靴を用意し、子供たちの登校前に雪かきをしました。子どもたちは、学校でも雪だるまやかまくらを作り、雪合戦などをして雪遊びを楽しみました。



学校賞受賞

●お話を絵にするコンクール●

担任の先生の読み聞かせから、物語のイメージをふくらませ、子どもたちが自由にのびのびと描いた「お話の絵」。個人での入賞が6点、佳作には16点が選ばれ、学校全体としても想像力、感受性の豊かさが評価されて「学校賞」にかがやきました。



校内作品展

●2月20日～22日●

お話の絵をはじめとして、子どもたちの楽しくいきいきとした絵画や、ていねいに仕上げられた作品が出品されました。西養護学校の子供たちの作品も出品されて、多くの方に見ていただきました。



最後のスキー教室 2月7日

前夜、桂坂は雪が降り実施が危ぶまれたのですが、当日の朝は快晴となり、バスの中は、子供たちの笑い声でいっぱいとなりました。ところが、マキノスキー場は利用する学校も多く、大変混雑していて、子供たちからは「リフトに乗せて」「しんどい」と不満の声続出。スキーより雪合戦のほうに人気がありました。





国際日本文化研究センターの教授陣による授業が実現

教授陣と授業内容 (敬称略)



河合先生の授業風景 体育館にて

講師名	専門	授業のテーマ	クラス
河合隼雄	臨床心理学	道徳	6-1
尾本恵市	自然人類学	自然に学ぶ	6-2
山折哲雄	宗教史・思想史	宮沢賢治	6-3
梅原猛	哲学	学問の楽しさ	6-4
木村汎	ロシア政治学	交渉	5-1
芳賀徹	比較文化史	俳句	5-2
安田喜憲	環境考古学・地理学	地中の花粉	5-3
井波律子	中国文学	三国志	5-4
山田慶兒	科学技術史	時を計る	5-5

桂坂小学校では、従来から、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域に働きかけるという「体験学習」が進められ、西養護学校との交流、伝統産業や史跡・文化の学習が取り入れられていました。このような体験学習の一環として、隣接する日文研の先生方による特別授業を、1学期には6年生、2学期には5年生が受けることになりました。これは当時の校長先生の発案で、河合隼雄所長をはじめ高名な教授陣が快諾されて実現したものです。講演ではなく、一クラスの小学生に「出前授業」をするという画期的な取り組みは、先生方にとっても、新鮮で緊張感のあるものでした。

教育界に新しい風を吹き込むこの取り組みは、次年度以降も継続して行われています。子どもたちは、先生方の知識や学問への情熱に直接触れ、しっかりと“大切な何か”を感じとったことでしょう。

授業内容は「小学生に授業」という文庫本になり、平成10年6月に小学館から出版されました。



O-157 猛威を振るう

5月から8月にかけて、病原性大腸菌O-157による食中毒が全国各地で発生し、特に大阪府堺市では、多数の感染者が出ました。学校では、感染防止のために夏休み中のプールの使用が中止になったり、いろいろな行事に影響が出ました。

学校給食が集団感染の原因となる可能性もあるため、施設や調理方法の改善が図られました。京都市ではいち早く完全加熱調理が実施されていましたが、新たに物資を保管する冷凍冷蔵庫、野菜を三度洗うための洗い槽、調理器具を入れる大型の殺菌庫が入りました。調理室内全体の消毒が徹底して行われるようになりました。

子どもたちにも、ひじから先を石鹸で洗う「正しい手洗い」が、繰り返し指導されました。

6年生修学旅行 5月22日・23日



瀬戸大橋・与島・琴平・鳴門大橋・淡路島牧場へ行き、牧場では、熱心にチーズ作りや乳しぼりの体験学習をしました。

運動会 10月6日



7月に米国アトランタで第26回オリンピックが開催されたのになんで、4年生は「アトランタの夢'96」と題した団体演技を行いました。

学芸会 11月19日・20日



初めての学芸会で、日々の練習の成果を披露する1年生。心をつ一つにして、小さな体でのびのびと叩く太鼓の音は、聴く者に大きな感動を与えてくれました。

大文字駅伝 初出場で見事3位入賞!



平成8年12月に行われた、大文字駅伝大会西京西支部予選会では、強豪チームをおさえ1位に輝きました。9月から練習を積み重ね、確実に実力をつけてきた子どもたちは、冬休みも返上し、全力で練習に取り組んでいました。学校の先生方、保護者、地域の方々の熱い声援を受けて、平成9年1月26日の本大会では、りっぱな力走を見せてくれました。

乾電池の回収が始まる

1月から「環境を思いやる暮らしづくり」を目的に、自治連合会と学校が協力して乾電池の回収をはじめました。2週間回収箱の重さは100kgにもなりました。

また、児童会のアルミ缶の回収は平成6年度から続いています。この年の7月、アルミ缶をつぶす機械が入り、「カバちゃん」と名づけられました。一人ひとりが持ってきた缶を自分でつぶせるようになりました。

校内持久走・駅伝大会 2月18日～20日

「最近の子どもたちは基礎体力が落ちていて、持久走が苦手」、そう感じていた体育主任の先生が、体育の時間に取り組んでいた持久走に、何か目当てを持たせようと提案しました。低学年は持久走大会、高学年は駅伝大会を開くことになり、大会の3週間前から練習をはじめました。毎日中間休みに運動場や校舎の周りを走り、学年ごとの「がんばりカード」に走った距離を記録しました。本番では寒風の中、それぞれが自分の力を出し切って走りぬきました。

次年度以降もこの取り組みは続けられ、「がんばりカード」は、桂坂を出発して京都市内を一周するという楽しいものになりました。



「何でもやったんで隊」できる

2月、卒業を前にした6年生全員で結成しました。毎日、その日の当番24人が「何でもやったんで隊」のたすきをかけ、中間休みとお昼の休み時間に、下級生の相談にのったり、一緒に遊んだり活躍しました。

平成9年度

1997.4 ~ 1998.3

児童数 872 名、教職員数 39 名、学級数 25 (5月1日現在)

第9回卒業生 170名



エコ・グランプリ受賞

ジュニア地球環境会議 こどもエコリーダー



この年度にできた環境委員会を中心に、アルミ缶・乾電池・牛乳パックの回収、グリーンマーク集めなどの活動が盛んに行われました。環境への関心を高めた子どもたちの、主体的で積極的な取り組みが認められて「エコ・グランプリ」を受賞、11月1日に京都国際会館で表彰されました。

「何でもやっただん隊」結成

3月4日~3月13日



卒業を前にした6年生の子どもたちが、縦割活動であるフレンドリーグループのリーダーとして身につけた力を生かし、校内ボランティアに取り組みました。

「何でもやっただん隊」は休み時間や放課後をフル活用。下級生の希望に応じ一緒にサッカーをしたり、大なわ回しや本の読み聞かせをしたり、トランペットの吹き方や逆上がりを教えたりと幅広く活躍しました。

修学旅行 5月15日・16日

瀬戸大橋を渡って、琴平で一泊。淡路島牧場では、乳しほりを体験しました。



大文字駅伝 3位入賞



この時期大流行したインフルエンザに悩まされながらも、厳しい練習に耐えて迎えた2月8日。みぞれまじりの冷たい風が吹く悪天候の中、一人ひとりの力強い走りですすきをつなぎ、みごと3位でゴールしました。

児童数 853 名、教職員数 40 名、学級数 26 (5月1日現在)

第10回卒業生 166名



桂坂に初めての信号機

—小学校南東交差点に—



11月24日、信号機の点灯式と渡り初めが行われました。1年生の子どもたちが参加し、桂警察署の交通課の課長さんと交通巡視員さんに花束が贈られました。巡視員さんから信号の正しい渡り方を教えてもらい、そのあと1クラスずつ元気に信号を渡りました。

桂坂小学校ホームページ



<http://www.edu.city.kyoto.jp/hip/katsurazaka-s>

——ホームページ担当の先生に聞きました——

桂坂小学校のホームページは平成10年10月1日に開設し、それから毎月約1000件のアクセスがあります。(平成10年12月現在で総アクセス数は約13000件)このホームページを見て保護者や親戚の方、他の都道府県の学校の児童や学校関係者から電子メールが次々と寄せられています。またアメリカでも見ているとの電子メールがとどいたこともありました。

ホームページの内容は大きく分けて4つあります。「学校紹介」「桂坂ニュース」「子どもの作品」「学習のコーナー」です。これらの内容を毎月5回から10回程度更新することにより学校での子どもたちの様子がわかるようにしています。また平成11年度からは児童自身がホームページを作成して発信する実践も始めました。特に6年生は自分が興味のある事項について調べ学習をしてホームページを作り、発信する取り組みをしています。このような取り組みを通して児童に情報活用の実践力を養いたいと考えています。

やまゆり学級開設 (育成学級)



桂坂小学校区内の育成児童は境谷小学校の育成学級に通うことになっていました。そんな中、桂坂小学校内にも育成学級開設の計画が進みました。

桂坂小学校は年々児童数が増え続け、空き教室のない中、どこに育成学級を設置するか難しい課題でした。育成学級を開設するには、様々な活動がのびのびできる、落ち着いて学習が出来る、全校児童と身近に接することができるなど、いろいろな条件を満たさなければなりません。そこで考えられたのが、多目的教室(読書の森)と図書室でした。その2教室を改修して、育成学級の教室とプレイルームをつくることとなりました。

平成10年度、育成学級は男女1名ずつの1年生を迎え、「やまゆり学級」として開設されました。入学式、始業式の中で、校長先生より紹介・説明があり、全校児童は障害のある子どもたちを理解しつつ、ともに仲良く元気に学校生活を送ることとなりました。

これから21世紀を生き抜いていく子どもたちが障害のある人についての理解を深め、互いに学びあい、共に豊かに生きていく社会を築いていってほしいものです。

修学旅行 5月27日・28日

今年は広島へ



1日は広島市内で原爆ドーム・原爆資料館を見学し、被爆体験談を聞きました。2日は宮島を観光して水族館へも行きました。



いこいの間



3階の渡り廊下の一角に先生方の手作りによる読書コーナーができました。床には読書の森で使っていたカーペットが敷かれ、手作りの本棚には本が並んで、休み時間には子どもたちで賑わっています。冬にはこたつも入ります。



平成12年11月撮影

おめでとう準優勝

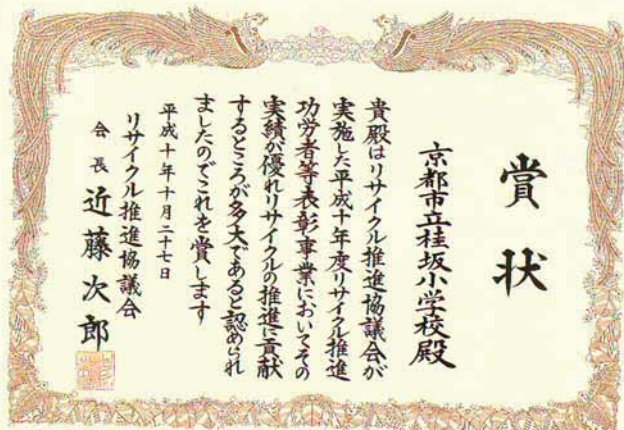
第13回大文字駅伝 2月7日

2月の都大路を走り抜いたみんなの顔は力を出し切った満足感にあふれ、喜びに輝いていました。



リサイクル推進協会会長賞受賞

1クラスの提案から始まった活動が大きく根を張り昨年は子どもたち、今年は学校が賞を受けました。



記念式典



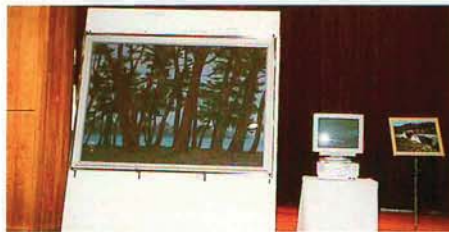
祝辞 京都市長 京都市教育委員会 総務部担当部長
大山輝美様より代読



児童会代表委員会より
「桂坂小学校10年の歩み」を発表



「地域学習発表会」子どもたちが桂坂の地域を調べ発表。地域の方々にも公開



記念品贈呈 絵画「松らい」中路融人氏
「コンピュータ」桂坂自治連合会
「アスレチック」10周年記念事業実行委員会



全校児童863名が体育館に入り、お祝い



「地域学習発表会」
洛西ケーブルビジョン (RCV) も取材

カザラッカコンサート 記念式典・同窓会



桂坂小学校創立10周年記念
第7回カザラッカコンサート
京都市立音楽高等学校オーケストラ 指揮 蔵野雅彦氏



ピアノ演奏 ピアニスト 岡原慎也氏 (桂坂在住)



歴代校長、歴代PTA会長を招いて記念式典開催



同窓会 第1回卒業生挨拶



同窓会に来てくれた卒業生たち



露店も大にぎわい



うぐいすの「哺育」 山の手倶楽部 大西忠男氏

協和のひびき ■ ふれあい

ふれあい

ここへ来てすぐの頃、車椅子用のリフトつきバスに乗りましたら、ふれあいの里から車椅子の人が乗って来ました。乗る為に変な時間がかかります。はじめて乗り合わせたら、優しい男の人が車椅子に近づいて手を貸そうとしました。すると横に居た人が「他の人が手伝うと中々自分で出来るようにならんし、手伝わないほうがいいんですよ」と云い、「ああ、成程そういうもんか」と皆静かに待っていました。その時、車内の乗客は皆穏やかな表情で、至福の時間を味わって居る様でした。「ああ、桂坂に来てよかった。本当に一人一人の心と心が通いあって、法律による強制ではなく、生活の中で自然に人権を尊重し優しく暮らすことのできる町」そういう感動が僕の胸を満たして居ました。

雨田光示氏「桂坂に住んで」(『桂坂』30号)

人とのふれあい——それは地域でも、学校でも、グループなどでも見られます。私たちは常に何かと何らかの関わりを持ちつつ日々生活しています。

この桂坂学区では、この「ふれあい」を大切に一年の行事が行われています。自治連合会主催であったり、各町内独自、あるいは各種団体、たとえば体育振興会、社会福祉協議会、子供会の主催行事であったりします。他の地域からこの桂坂学区に移り住んで、知らない者同士が何かを縁に知り合いになり、地域に自然に馴染んでいく、この過程で「ふれあい」の手助けをしてくれるのが、こうしたいろいろな行事ではないでしょうか。さらに、そこに参加することでお互い知り合いになり、住民としての地域への愛着も自然に生まれてくるのではないのでしょうか。

コミュニケーション豊かなまちを自分たちの手でつくっていききたいものです。将来に向けていま何が望まれているのか、創立10周年の節目を期に考えてみたいと思います。

私たちの街を美しく

統一ふれあいクリーンデー

学区創立10周年のクリーンデー

はじめの頃
桂坂の「クリーンデー」は、1988(昭和63)年4月、桂坂で一番先にできたかえで自治会を皮切に、この清掃活動は徐々に広まって行きました。1989(平成元)年の桂坂学区自治連合会の発足とともに全域で実施しようという気運が高まり、「私たちの町を美しく」という願いを実現するために、1990年11月、秋の「桂坂統一ふれあいクリーンデー」と銘うって第1回が実施されました。

これは学区全体で取り組むころみで、隣の自治会との「ふれあい」もでき、和やかな雰囲気の中でその成果を上げることができました。その後は毎年、春秋2回、5月と11月の第2日曜日に実施することになり、今や桂坂の伝統行事の一つとして定着し、学区創立10周年の秋で19回となりました。

当初は、「隣近所の名前も顔もわからぬので、街のゴミ拾い、草抜きをやりもって街を綺麗にしながら顔馴染みになる」(広報『桂坂』7号、松尾隆夫氏)という、「ふれあい」をかねてクリーン作戦は始められました。

その後、著しい人口の増加に伴い、空き地には粗大ゴミが放置され、公園にはペンキの落書き、犬の糞の放置、また、外部からは夜景を楽しむ若者が車で乗り入れて食べカスやビニール袋、ビン、缶などを捨て置くといった由々しい事態が生じ、自然豊かで、きれいな私たちの街の印象が甚だしく損なわれようとしています。10回目からは今まで手の回らなかった放置大型ゴミの収集も始まりました。

学区創立10周年記念のクリーンデーには、学区在住の洛西高校の生徒さんが応援に来て、桂坂小学校、大枝中学校の東側と西側を各自治会から参加の人たちとともに清掃しました。「地域の教育力を借り」、また、地域と「連携・協働」して「21世紀を逞しく生きていける生徒を育てて」いきたいという教育方針(洛西高校・高田校長談)に即してなされた地域行事への参加でした。



参加する洛西高校生

この行事は学区全体の統一を謳いますから、参加団体には次の各団体が含まれています。各団体においては、趣旨をくんでそれぞれの日に清掃を行っています。

大枝中学校・桂坂小学校・桂坂保育所・児童館・西養護学校・ふれあいの里療護園・更正園・授産園・特別養護老人ホーム杏掛寮・日文研・西洋環境開発・住宅生協

統一ふれあい クリーンデー

年二回の、今年最後の統一クリーンデー―西京区誕生二〇周年記念行事の一環として、多くの方々の参加をいただきました。

先月の「桂坂」三五号で「統一ふれあいクリーンデー」の歴史について、かえで自治会が環境美化活動として始められ、桂坂全域で実施しようという機運が生まれ、「統一ふれあいクリーンデー」の誕生となったことが書かれていました。

今日、参加しておられる方々の生の声をインタビューさせて頂き、大変感動いたしました。桂坂を美しい街にしようという、愛を感じたからです。今回は、その声を是非お知らせしたいと思えました。

●新しく越してきて、ふれ

あいクリーンデーでいろいろなお知らせがわかり、喜んでいました。

●自分たちのところだけでなく、きれいな街並みを見るのは気分がよい。

●子どもたちの参加が少ない。

●子どもたちが楽しく参加できる方法を考えたらどうか。その中で落葉のシーズン、落葉でさつまいもを焼き、子どもたちの親睦を計画するのも楽しいのではないかと。

●パークプラザ公園は若い学生さんが集まり、空き缶を散らかし、ペンキで落書きするなど、公園はきれいにならない。

●お掃除しながらご近所の方たちとおしゃべりできるのがとても楽しい。

●二回よりも、三回に。

●春夏秋冬の四回がよい。

●まだまだ沢山のご意見をいただき、多くの方が桂坂を愛しておられることを知りました。

●お金で得ることのできない人と人のふれあい、子どもたちとのふれあいを大切にして、街を美しくすることには、心の触れ合いを、たとえば心で伝える場があればと思います。

●これがフィールドワークの勉強、桂坂に住む大人の人たちの責任ではないかと思えました。

●参加されている方々から生の声を聞かせて頂き、桂坂が健全な街であることを知りました。とてもよい勉強になりました。取材させていただいた私の心もクリーンになって、久々にすがすがしい思いがいたしました。

●編集委員
柴田富佐子

昨今、人と人とのふれあいが希薄になりつつあるといわれます。私たち住民が協力して、明るく健全で、生活しよいまちを目指すならば、年2回、街の美化のために総出で、自ら汗を流し、草をひきながら語り合う機会を持つことも必要です。

街をきれいにすることは、生活環境の向上や維持をはかり、美化意識を高めるのに役立つばかりでなく、この桂坂で育つ子どもたちによりよい環境を残すことにもなって誠に意義深いものがあると思います。

近所の方との「ふれあい」を深め、大切にしつつ桂坂の街を美しく快適な生活空間として維持して行きましょう。



つばき自治会のクリーンデー

つばき自治会の街並みは、桂坂小学校の南々西の方向に在り、センター街の北と西に面しています。ちょうどまちの中を石畳の道が通って南北を分けていますが、プラザパークや南北に走る緑道もあって、緑の多いところですよ。

つばき自治会では、統一クリーンデーの日以外に7月、8月、9月、3月に独自のクリーンデーを設けています。

夏は雑草を抜いたり、緑道などの伸びすぎた枝を切り、秋は落ち葉を集め生活空間の美化と維持に精を出します。また、夏祭り前には特に班長さんを中心に、祭りの舞台となるプラザパークを重点的に清掃しています。

会員相互の親睦と、美しい街並みを住民の手で守るために実施されるこの数回のクリーンデーでは、ひと汗かいた後「お疲れさま！」と声を掛け合いながら缶ジュースやお茶で喉を潤し、お決まりの世間話。しかも、さわやかな気持ちになり、頑張ったという満足感が味わえます。

この年に数回、清掃に共同で参加する場合は、お互いに顔を見知る格好の機会であり、コミュニティの活性化にもつながるはずのものです。

広報『桂坂』36号 1996.11.25

さくら自治会のクリーンデー

最も東の端にあるさくら自治会は、市道 100号線沿いにその区域が南北に分断される変則的な自治会です。

京都タワーを中心にして市内を一望することができ、特に夜間ともなれば百万ドルの夜景が楽しめる、いわば景勝の地なのですが、いかんせん、自治活動や文化活動には不可欠の自治会館がなく、発足後に購入した備品（テント、防災道具等）の保管場所がありません。また児童公園もありません。しかし、これら多くの課題をかかえながら、自治会活動は年を重ねるごとに活発になっています。これには会員の皆さんの協力も見逃せません。1996（平成8）年4月に桂坂学区で11番目の自治会として発足した当初から、年6回実施しているクリーンデーには、参加者も多く、小さい子たちを連れて家族ぐるみで参加される微笑ましい光景や、クリーンデーは「皆勤賞」という方も見うけます。これは、会員の皆さんの環境美化に対する意識の高さのしからしめるところでしょう。

自治会員同士のコミュニケーションは着々と進み、人の輪も広がり、交流も深まっています。

「環境美化」に関する表彰

1992年5月 かえで自治会

「美しいまちづくり・清潔な環境づくり」の功績を称えられ「市民憲章推進者」として表彰される。

1997年6月28日 かえで自治会・あかしあ自治会

「京都府環境保全功労者」として表彰される。

1999年5月31日 けやき自治会

「環境美化」への貢献で「西京区市民憲章推進者」として表彰される。

桂坂の夏まつり

桂坂の「夏まつり」は年間の自治会活動の中でも最も大きなイベントです。

桂坂最初の夏祭りは1987（昭和62）年、西洋環境開発が主催して西友ストア前の広場で行われました。

自治会主催の祭りとしては、かえで自治会としらかば自治会が、発足した1988（昭和63）年にそれぞれ独自に夏祭りを実施したのが最初です。その後、新たに発足した自治会を含め各自治会は、自治連合会の誕生とともに情報を交換したり、合同開催を模索したりしていきますから、夏祭りも年々盛大になります。しかし、7自治会の連合となった1991（平成3）年8月にはまだ個々別々に、3日に分かれて最寄りの児童公園で開催しています。



統一夏まつり

開催日を統一した夏祭りが実現したのは1994（平成6）年の夏で、8自治会が参加しました。学区の創立10周年を迎えた1999（平成11）年の夏は、その春発足したくすのき自治会を含む13自治会が統一夏祭りを挙行了しました。

各自治会では、祭りの8月まで数カ月に及ぶ準備期間に役員会を何回も開き、前年度を参考にしつつ論議を重ね、構想を練ります。このようにして、趣向を凝らした、創意あふれるその年の夏まつりは行われ、子どもも大人も夏の夜の賑わいの中で時を忘れます。祭りを楽しむ人も運営に当たる人も一体となるこの祭りの中で、人と人とのつながりが自然に生まれ、そのつながりがまた自治会を支える力ともなっています。



楽しみにする子どもたち

子どもたちにとっても、夏祭りはとても待ち遠しい催しとなっているようで、中にはゆかた姿に身をつつみ、顔より大きな綿菓子を片手にはしゃぎ回る子どももいて、どれほど祭りを楽しみにしているかがうかがえます。

新しい土地に移り住み、顔も知らない頃から、回を重ねる度に工夫を凝らして定着させた夏まつりを、自分たちでつくった祭りとして楽しんでいる自治会もあります。

テレビやインターネットなど居ながらにして簡単に情報が得られ、楽しめる昨今は、近所づき合いも疎遠になりがちです。しかし、年に一度とはいえ夏祭りは、日ごろ交わることの稀な人とも、年齢を超えて語り合うことができます。子どもたちは工作、ゲーム、クイズ大会、紙芝居、子ども神輿、盆踊り、サッカー。大人たちには焼きそばにカレー、おでんにビールと、舌づつみを打ちながら談笑できる、格好のふれあいの場です。



何年前、O-157の流行で食べ物を自粛した年もありました。一昨年は和歌山カレー事件で気を遣いました。しかし、どの自治会も中止することなく祭りは行われました。大人も子どもも祭りを楽しむ心がそうさせたのでしょうか。



京の夏まつり

京都には夏祭りというと祇園祭があります。この伝統行事は、今から千百年ほどまえ大流行した疫病を払うべく祈願をした祇園会に始まるといわれていますが、この山鉦巡行をハイライトとする約1ヶ月に及ぶ祭りを支えてきた町衆の力は相当なものです。

また、8月16日に「大文字五山送り火」で精霊をふたたび冥界に送った後、京都の町中では昔から地蔵盆という、やはり夏を彩る風物詩として子どもの生活に密着した祭りの日を迎えます。

お地蔵さんの周りには親が子の幸せを祈って名前を記した提灯が吊され、大人も子どもも2日間、お地蔵さんのところでにぎやかに集い、昔の遊びや話を時を忘れます。



親睦と活性化

年々、自治会ごとに創意工夫の見られる、特色ある夏祭りが行われます。これも役員の方だけでなく、町内の方々の協力なしにできるものではありません。桂坂の「町衆」の力発揮といえるのではないのでしょうか。終わったときのすがすがしさは格別です。親睦の情が生まれ、連帯感もでき、ひいては桂坂学区の活性化にもつながっているのは確かです。町内の祭りの雰囲気など微妙に違ったりしておもしろく、いろんな自治会の夏まつりをハシゴするのも楽しいものです。これも「統一夏まつり」だからでしょう。

参加している人たちも夏の1日を「ふれあいの場」として大いに盛り上げ、その雰囲気を満喫しています。誰もが楽しむことのできる夏まつり、大人と子ども、地域のつながり、この「ふれあい」を大切にこれからもずっと続いて行ってほしいものです。



くすのき自治会——設立早々の夏

1999（平成11）年3月21日、桂坂学区で13番目に誕生したくすのき自治会は、ロータリーから見て北東の方角、古墳公園の上方、桂坂公園の先にある、現在建築中の住宅があちこちに見うけられます。日ごとに自治会員が増加し、将来的には225世帯になるといわれるところで、活気に満ち溢れた雰囲気が漂っています。

この設立間もない自治会が、夏には桂坂公園で夏祭りを実施したのです。隣近所、顔も分からない状態で、初めて自治会員が全員一致協力して行った記念すべき行事です。

当日は数多くの催し物があり、模擬店のたち並ぶ広い公園内には笑顔が溢れ、子どもも大人も挙って楽しい1日を過ごすことができたのですから、世話をなされた役員の方々の産みのご苦労もさぞかし吹っ飛んだことでしょう。

この「一致協力」の実績を財産に、須磨純司会長の話にあるように「住民一人ひとりが意識をもって協力し合い、桂坂の自然環境と調和のとれた美しい町づくりのために、また明るい、安全で快適な居住環境を守るために自治会を発展させて行」かれることでしょう。（「ご挨拶・自己紹介をかねて」『桂坂』62号1999.5.1）

若さみなぎる

区民体育祭

1991（平成3）年10月6日、第1回の「区民体育祭」が学区民の親睦とコミュニケーションの輪を広げることを目的に、実行委員会主催で開催されました。

当時は7自治会、約1200世帯。

競技内容は、小学生の徒競走、大人の徒競走、借り物競走、風船割り競争、むかで競争など15種目と盛り沢山でした。

その後は毎年開催され、年とともに自治会数、世帯数も増え、主催も体育振興会に移りました。

昨年の創立10周年記念体育祭は、「第9回桂坂学区民体育祭」。参加自治会も13、約2800世帯と学区も大きく成長しました。

体育祭が盛大になるにつれて競技内容にも変化が出て来ているようです。

桂坂マラソン 加わる

第5回より桂坂4kmマラソンが加わり、自治会対抗の競技には一層力が入ります。50歳以上のざる引き競争にはお孫さんのかわいい声援がとび、2人3脚では大笑い。応援も評価されるとあって、自治会ごとに応援団を中心に趣向

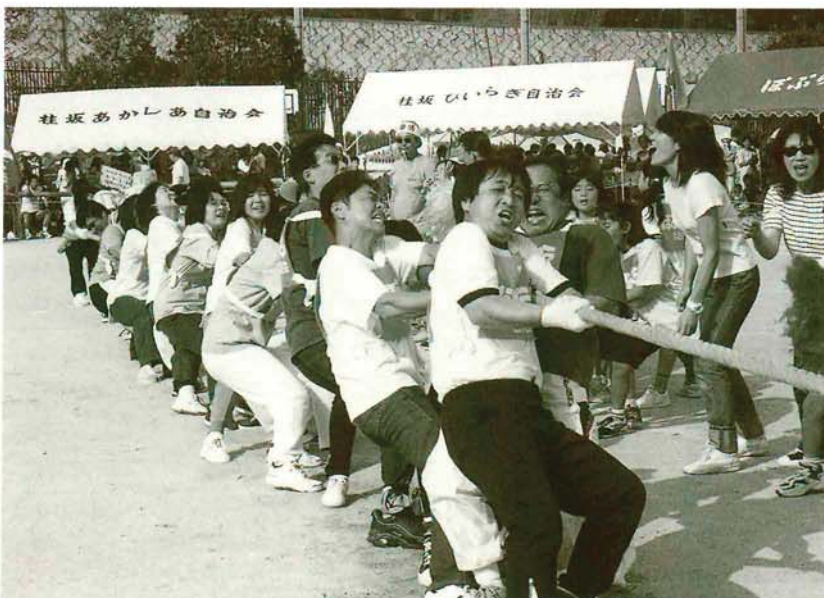


をこらし、トラックで抜きつ抜かれつする選手たちの走りやフィールドでの団体競技に一喜一憂、大きな歓声があがります。多彩なプログラムで爽やかな汗を流し、景品や賞品、最後のラッキーナンバーの抽選も大きな楽しみです。

老若男女を問わず、学区民が一堂に集い、秋の一日を存分に楽しめる体育祭は、明日への活力の素です。

地域のふれあいの場

童心にかえって、走ったり、跳んだり、投げたり、グラウンドではいくつもの感動が生まれます。そして毎年、各自自治会のテントの下では町内同じ弁当をほおぼりながら話に花が咲き、地域にすっかり根差した、地域のためのふれあいの場にふさわしい光景が見られます。



	優勝	2位	3位
1993年 第3回体育祭	しらかば	あかしあ	かえで
1994年 第4回体育祭	つばき	しらかば	はなみずき
1995年 第5回体育祭	しらかば	ほぶら	はなみずき
1996年 第6回体育祭	しらかば	あかしあ	かえで
1997年 第7回体育祭	しらかば	あかしあ	つばき
1998年 第8回体育祭	しらかば	さつき	はなみずき
1999年 第9回体育祭	しらかば	はなみずき	ほぶら

生涯スポーツ

体育振興会

体育振興会の発足

桂坂体育振興会は1991（平成3）年4月に発足し、2000（平成12）年でちょうど10年になります。体育振興会（略称「体振」）の活動は、役員のほか、各自治会から2名ずつ選出された体育委員の協力・支援を得て行われています。初代会長は今なき永江望昭氏。現在は布本和久会長のもとで、楽しく和気あいあいとした雰囲気をもっとに活発な活動をしています。

「極小は無にあらす」――

大海に向かって小石を投げると、その小石ぶんだけ大きくなります。また、その投じた小石によって、波紋も生じます。朱を投じても然かり。大海はその分だけ朱色に染まっています。

「スポーツ」という媒体を通じて地域住民の交流を深めるのが趣旨で、体育振興会の活動によって、自治会相互の交流の輪も桂坂全体に広がっています。

永江望昭氏「体育振興会の活動」
（『桂坂』11号1994.6.5）



「体振」の年間行事

年間行事としては、一般ソフトボール、男女混合バレーボール、卓球、ボーリング、女子ソフトボール、ソフトテニス、バトミントンの各大会、学区民体育祭など、親睦と連帯の輪を広げることを目的に開催されます。ちなみにソフトボール大会は、学区草創の1989年10月に「もっと親しく、もっと楽しい街づくりをしていきたい」との願いをこめて「親睦ソフトボール大会」と銘打って開催されています。

そして最近、ソフトバレー、ファミリーバトミントンの2つのニュースポーツも加わりました。苦しい練習に耐え技術の向上を目指すのもスポーツですが、より多くの皆さんが参加される、笑顔で楽しめるスポーツこそ生涯スポーツにふさわしく、今後ますます盛んになることでしょう。

活動の幅は、桂坂からさらに西京区へと広がります。

第9回西京区民女子ソフトボール大会では見事に準優勝を果たしました。京都市スポーツフェスティバルにも参加し、1999（平成11）年11月3日には、小学生の男女各1名を含む一般男女混合800mリレーで見事3位に入賞しています。



桂坂学区の同好会

桂坂学区には、学童野球、女子バレー、女子ソフトボール、卓球、バトミントン、グランドゴルフ等の同好会があります。それぞれ練習日を設け、小学校の体育施設を利用して練習に余念がありません。

1999年4月には、桂坂小学校の校庭に夜間照明設備もでき、点灯式が盛大に行われたあと、パープルサンガの選手によるサッカー教室も行われました。

体育館や新たに夜間に開放されるグラウンドは、スポーツを通して地域住民の親睦と健康増進に活用され、桂坂学区の体育の振興に大いに役立っています。



福祉

出会い

京都市では、昭和58（1983）年に策定された「国際障害者年行動計画」に基づき、この緑あふれる桂坂の地に、他には例を見ない総合的福祉ゾーンがつくられました。

この福祉ゾーンには、西養護学校、特別養護老人ホーム（沓掛寮）、障害を持つ人の施設として療護園、更生園、授産園、そして洛西ふれあいの里保養研修センター（ふれあい会館）があります。

子どもやお年寄り、障害のある人にやさしい街は、すべての人にやさしい街です。この地域に住む私たちが、お互い「こんにちは」の挨拶を交わし、バスの席を譲り合う、また、交通手段、段差のある歩道や医療機関などにおいて年老いたときに必要な設備・施設は何だろうと考えてみると、この桂坂という生活空間がより良い、人にやさしい街になるかも知れません。

すべての人々がしがあわせに暮らす、ノーマライゼーションを目指して、同じ地域の住民として互いに理解し合いたいと願っています。

※ ノーマライゼーション

高齢者や障害者が社会的ハンディを負うのではなく、同等の権利、同等の文化を享受できるようにするという考え方。



「ふれあい広場」に、この「カリオン」があるのをご存知でしょうか。時を知らせる鐘です。朝9時に7つの鐘。12時には「憩い」、午後3時には「幸福の鐘」、そして夕方6時には「家路」のメロディで、時を知らせます。

カリオンとは一定数以上のベルが組み合わせられ、しかもメロディが鳴るものをいいます。

この桂坂の土地に棲息し、風を羽一杯に受けて跳ぶキジを造形してあり、「ふれあい」の意がこめられています。風や鐘の音はいつも人々の暮らしのそばにあって、心安らかなひとときを演出してくれます。殺伐とした現代空間や暮らしの中で、人間性豊かな生活を取り戻すそういった願いのもとに製作されたもののようです。

社会福祉協議会

桂坂の社会福祉協議会が発足したのは1991（平成3）年です。社会福祉協議会（「社協」）は法律で定められた民間の福祉団体です。

その活動は、住みなれた街で、弱い立場にある人たちがよりよい暮らしを続けることのできる地域づくりを目指して、さまざまなふれあい活動や在宅福祉サービス、ボランティアの育成などを行ないます。

桂坂の「社協」

桂坂の社協も、高齢者や障害のある方、あるいは子どもたちが、住みなれたこの地域で、より住みやすくなるよう活発な活動を展開しています。

桂坂に在住の障害のある子どもたちとの交流、保護者の情報交換を目的とした「障害のある子どもたちとの集い」や70歳以上の方を対象に「高齢者会食会」を催し、寝たき



りの人および独り暮らし・高齢者世帯の人たちへの「ふとんクリーニングサービス」などを行っています。また、ボランティア活動に役立てようと、「車椅子介助の講習」・「手話教室」・「介護教室」なども実施しています。

桂坂の「社協」は、福祉の充実を図り、桂坂に住む人たちが少しでも生きがいをもち、明るい日常生活が送れるよ

う地道な努力を重ねています。

また、西京区「社協」が法人認可を受けたのを機会に、西京区では、福祉の諸活動をより強力に推進するため「みんなでつくりみんなの福祉」を合言葉に「賛助会員」を募っています。私たちも、一人でも多くの方の理解が得られるよう望みますし、福祉ゆたかな西京、福祉ゆたかな桂坂づくりに協力したいと思います。

在宅介護・社会福祉の相談

桂坂には「社会福祉」の仕事を担当している方がおられ、民生児童委員、主任児童委員、老人福祉員 在宅介護・施設福祉に関してご相談ください。相談内容は、守秘義務があり、絶対口外することはありません。

民生児童委員

木村 順子 ☎332-6060 大枝北杵掛町1・3丁目
サンシティマンションを除く2丁目
南部喜八郎 ☎331-7818 大枝北杵掛町2丁目
[サンシティマンション] 4丁目

酒井 厚 ☎331-8535 大枝北杵掛町5・6・7
丁目御陵大枝山町3・4丁目

山口 和枝 ☎331-7053 御陵大枝山町1・2・6丁目
御陵峰ヶ堂町2丁目

丸橋 晴代 ☎332-2030 御陵大枝山町5丁目・御陵
峰ヶ堂町1・3丁目

民生児童委員（主任児童委員）

奥崎 裕子 ☎331-6808 桂坂学区全域

老人福祉員

涌田早夜子 ☎331-4897 大枝北杵掛町全域

林 休子 ☎394-7567 御陵大枝山町・峰ヶ堂町全域



女性会

1994（平成6）年に誕生した「桂坂学区女性会」は、桂坂の皆様の温かいご協力のもとで地域内での基礎固めを終え、1996（平成8）年4月7日、「桂坂学区地域女性会」として発足以来、4年になります。

京都市内には学区ごとに地域女性会があり、いずれも京都市地域女性連合会に加入しています。この地域女性会は京都市教育委員会社会教育課に属する社会教育団体です。

温もりのある地域づくりをめざし、地域に根ざした活動を第一に、会員同士の和を大切に、共に学び、共に楽しみ、女性としての能力を発揮しつつ社会の中で生活していく、そのための学習の場です。

地域に根ざした活動

活動としては、毎年恒例となっている会員による「作品展と手作りバザー」、そして講習会、見学会など桂坂で行う行事の他に、名月観賞の夕べ、京都まつり、ゆめフェスティバル、洛西ふれあいまつり等に参加するとともに、学区防災訓練の時には避難所における「給食給水」を担当しています。

お茶、手話、歩こう会、歴史探訪、民踊などサークルもあり、女性同士が輪になって共に学び、実践しています。



お茶と手作りバザー

画期的な年に

1999（平成11）年は地域女性会にとって画期的な年となりました。6月より毎月第3土曜日に始めた廃食用油の回収、これは私たちが環境にやさしい生活をしていく上での大切な取組でした。

さらに10周年記念事業として初めて、山の手俱樂部と合同の作品展を開催しました。一つの会場に多彩な作品の陳列は好評のうちに終わり、今後につなぐ有意義な交流の場となりました。

地域女性会は、会員同士のコミュニケーションはもちろんのこと、地域の方々とのふれあいを大切にしています。



授産園

施設の開設と目的

知的障害者福祉法に基づき、雇用されることが困難な知的障害を持つ人たちが通い、いろいろな作業を通して社会的に自立することを目的としています。

1989（平成元）年6月に事業が開始されました。京都市が設置し、社会福祉法人・京都障害児福祉協会が運営している、いわゆる公立民営の施設です。建物の中はすべてバリアフリーになっています。

18歳以上で、定員は50名ですが、現在54名。設立当時からいる人がほとんどで、平均年齢は28歳です。箱作り、草木染めの糸で織る布、陶芸、クリーニングなどの作業があり、クリーニングの作業場では大きな機械で更生園や療護園のシーツの他に、ホテルやJRからの仕事も引き受けています。地域の人のシーツなどクリーニングも引き受けてもらえるそうです。

ハートプラザ

ここで作られる製品は、ラクセヌのセンターコートで年数回販売されます。JR京都駅ビル9階のハートプラザは常設で、展示販売も行っています。一度のぞいてみてください。

地域社会の一員として

ここでは、地域社会の一員として平等に生活できるよう支援しています。作業も働くことに喜びと生きがいを持つような内容で、一人ひとりの可能性を高め、人間性の豊かさや健康で明るい生活ができるよう配慮されています。

社会のあらゆる分野で活動でき、また、社会的自立と社



会参加を目指す一方で、授産園のもつ機能や設備を活用して地域との結びつきを深めることを基本方針としながら、企業への就職を願い、地道な努力を続けていますが、就職にはまだまだ力不足ということのようです。地域では中のことが十分わかっていないので、形式だけではない交流を持つようとしてもやはり難しさはあります。

知的障害者に対する心のバリアフリーは難しく思われますが、施設では、「人権を守り、平等に扱い、生活年齢で付き合っほしいし、ボランティア体験、実習もいつでも受け入れる」ということでした。

また、「地域で暮らして行けるよう2年前からマンションを借り、職員と共に4名づつ宿泊し、将来的に社会の一員として生活できるよう実生活の体験もしています。その体験を通して地域に対して何か協力していきたい」ということで、私たちも応援することができれば、と思います。

療護園

デイサービスセンター

日常生活に介護を必要とする重度の身体障害者が、自分の暮らしを築き、充実させていく生活施設です。入所して機能を維持し、機能低下を防ぐためのリハビリ訓練をしながら日常生活を送っています。

1989（平成元）年4月に事業が開始され、入所者50名、ショートステイ4名。1人ひとりの人格を尊重し、地域社会との関わりにおいてもできるだけ自由に暮らせるように援助しています。機能訓練が行われる中で、園の生活を楽

しく豊かにするためにワープロ、七宝焼、スポーツなどいろいろなサークル活動も自主的に行われ、七宝焼の作品などには入所者の頑張りや職員の皆さんの熱意が直に伝わってきます。健康管理は内部の診療所が行っています。

デイサービスセンターは、在宅の重度身体障害者や重症心身障害者が創作活動、軽作業、日常生活訓練などを通して社会参加を促進していくための通所施設です。

日々の活動

日々の活動としては、外出、調理実習、話し合いなどが全体のプログラムと個々のニーズに基づいたプログラムによって実施され、また、園の行事にはクリスマス会や旅行が企画され、地域との交流には、夏まつりや地域行事への参加があります。

障害を持つ人が地域の中で孤立しないで、自立して生活していけることが大切で、散歩や買い物などの外出時に出会うことがあれば気軽に声をかけ、挨拶をする「ふれあいの心」をもった人に優しい桂坂の街でありたいものです。



更生園

日常生活に援助を必要とする重度の知的障害者が生活する施設です。1992（平成4）年に開設され、定員は60名。職員は30名。

フローリングの床に白い壁、その壁にマッチしたセンスのよい飾り、食堂のテーブルにはシクラメンが美しく、落ち着いた雰囲気の中で生活は行われています。現在入所している人は、設立当時からの人がほとんどで、高年齢化が進んでいます。

生活の場

まずこの施設の中で気持ちよく住めるか、同年齢の人と生活リズムを合わせられるか——一人ひとりの障害の程度に応じたプログラムづくりと特性を活かした仕事・作業内容を考慮し、誰もが満足できる「普通の生活」を目標に設備や園内の生活が工夫されています。つまり施設は「収容の場」ではなく「生活の場」と考えられているのです。

「職」と「住」の分離——具体的には、2階の「職」の作業場から外階段で一旦外に出て、1階の玄関から「住」に帰って来るといった工夫を施すことで、生活にけじめをつけています。大枝に農地を借り、作業所もありますが、作業可能な人はこの園外でも野菜作りなどを行っています。

交流

また、施設だけの生活に終わるのではなく、園に在籍のまま「普通の生活」を行うために「グループホーム」、即ち洛西で寮生活を営み、一緒に食事の用意もします。外出すれば、地域の人たちとのつながりも広がります。桂坂地域では、桂坂小学校の生徒たちとの交流——園の皆さんが紙すきを教え、逆に小学校の運動会に招待されるなどの交流が見られます。

ボランティア

園にはボランティアも訪れます。歌のグループもあれば桂坂地域女性会のように月に1回「繕い物」をするボランティアもあります。

障害をもつ人は、少しの援助があれば「普通の生活」も可能になります。更生園では、園で生活している人と一緒に映画や買い物に外出するガイドヘルパーを必要としています。

私たち桂坂に住む者が園を分かっていないのと同様、施設でも「地域」が見えてこないそうです。そのために「地域の人たちにできるだけ多く園内に足を踏み入れてほしい、地域の中で互いに〈共存〉していきたい」といわれます。

私たちはともすると障害をもつ人たちに対して何かしてあげたいと思いがちです。でもそれは違うのかも知れません。すべての人が「共存」できる社会が望ましく、その社会を作るために桂坂の住民皆で考えてみたいと思います。



西養護学校

一番早く開設

1986（昭和61）年の4月、洛西福祉ゾーンで一番早く開設されました。当時、周囲は空き地ばかりで交通の便も非常に悪く、孤立した状態でしたが、現在では他の施設や家並みも多く立ち並び、にぎやかになりました。

小・中・高等部あわせて189名の知的障害をもつ児童・生徒が在籍し、職員は108名。スクールバスによる通学ですが、高等部には市バスを利用するなど自主通学をする人もいます。通学区域は堀川以西の児童・生徒です。

今までは東養護学校のみでしたが、洛西ふれあいゾーンに京都府と京都市が共同で設立したもので、西養護学校はよそのコピーをしない、開けた学校がその特色です。

開校時から小人数制を採用し、1学級、1担任、1教室で、児童・生徒の障害や発達に応じた適切な指導を行い、



一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、健康で豊かな人間の育成と社会参加を教育目標としています。「世の光になれ」と朝野校長は児童生徒にしているということでした。

各学年の時間割に算数や国語などの教科はなく、小学部ではのびのびと遊び、思い切り好きなこと楽しいことをする時間があります。工作やプール遊び、ゲームなどを通して「自分でやろうという意欲を育てたい」（朝野校長談）ということで、健康な体づくりとともに、基本的な生活習慣を繰り返し学びます。

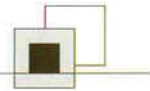
中学部では進んで活動し、自ら選び、高等部では自ら学び、自ら行動することで、園芸、陶芸、紙工、木工などの作業学習を通して卒業後に必要な日常の力を養います。

本人のやる気が自立につながるので、最近では小学部では桂坂周辺、中等部は桂坂から京都駅、高等部は京都市全域に外出して自然に接し、世の中の人たちとふれあい、交流をするよう努めています。

地域との交流

京都まつりにはフラッグ隊で参加しました。地域との交流では、桂坂小学校との交流や、はなみずき自治会の方にピラをお願いして大枝中学校の生徒と作業作品を販売したり、大枝中学校の生徒と交流をしています。休日には運動場の開放、洛西ふれあいまつりの時は施設開放をしています。高等部1、2年では桂坂児童館や保育所、コミュニティプラザのメンテナンスに行っています。人の目に接することでその子の意外な面を発見することもあるそうです。

今後、学校所在の地域とのかかわりを大いに持つことを願ってられます。学校内だけでなく桂坂全体が子どもたちにとっては学習の場かも知れません。桂坂の子どもたちと同様に西養護学校の子どもたちも元気に学び、健やかに育ってほしいと思います。



地域に開かれた診療を目指して

沓掛寮内科診療所

1998（昭和63）年12月21日より、沓掛寮一階の南西角に「内科診療所」が開かれています。

この施設は、地域の医師会や地元の協力を得て、沓掛寮に生活する人はもとより、地域に住む私たちをも対象とするものです。

診療の日と時間は

月曜日～土曜日（日・祝日は休診）午後1時～3時

福祉の面でも医療の面でもその意義は大きく、開所以来、多くの利用者があります。



ふれあい会館

ふれあい会館は市政 100周年記念事業の一環として1994（平成6）年に開設されました。保養のための宿泊施設と福祉のための研修施設という2つを兼ね備えているのが大きな特徴です。

宿泊施設には電動ベッドの備えられた部屋があり、バスやトイレが車椅子でも使いやすくなっているなど、何かにつけて高齢者や障害のある人が安心して利用できるよう配慮されたところの、日本でも数少ない施設です。

研修施設としては、介護支援の専門員養成など研修事業を実施するとともに、相談にもり、情報提供も積極的に行っています。

ふれあい会館は、高齢化が進む中で、施設中心の福祉から在宅地域福祉へというニーズに応え、「地域」と深くかわっていくパイプ役を果たしていますし、また、「子どもの頃のふれあいは生涯を左右する」という考えのもとに体験学習ができる場を企画したり、指導者の養成・研修にも力を入れています。

地域の私たちの健康維持を目的とした体力・骨密度の測

定などを行う健康増進室があり、健康増進室と研修室の利用者は大浴場（料金 250円）でリフレッシュできます。ほかにいくつかの教養・文化サークルも設けられています。

ふれあい交流の場

高齢者から子どもまで3世代が関わる街づくり——福祉の街づくりを、ボランティアの人や地域のサークルの人たちと一緒に、みんなで盛り立て支援する「ふれあい交流の場」としての役目を、この会館は担っています。



特別養護老人ホーム

——沓掛寮



この老人ホームは、緑豊かな自然に囲まれた桂坂の地に1987（昭和62）年4月に、50床で開設されました。

お年寄りがいま明るく快適な生活を送り、そして、年をとって体が不自由になってもお年寄りにあたたかな心の連携によって生きる喜びを与えること、これが沓掛寮の願い

で、地域の福祉の向上を図るとともに、お年寄りの方々が安心して暮らすことのできる生活の場を提供しています。

お花見、買い物ツアー、納涼大会、運動会のほか1年間を通じて盛りだくさんの行事が企画されています。家族にとって安心して任せられる短期入所のショートステイもあります。1992（平成4）年には85床に増床され、現在の定員は長期が85人、短期8人の合計93人です。

デイサービスセンター

1991（平成3）年4月にはデイサービスセンターが開設されました。

利用する人は、1日15人以上。概ね65歳以上で、身体的な障害があるために日常生活を営むのに支障のあるお年寄りが通っておられます。

センターでは、生活をするのに必要な訓練や入浴サービス等を提供することによって心身の機能向上を図るとともに、友達づきあいの交流の中で社会的な孤立感から解放され、生きる喜びを得ることができます。

このデイサービスはさらに、お年寄りを介護される家族の苦労を少しでも軽減緩和しようという目的もち、さらに、地域の方々の介護に関する悩みや不安などの相談に応じる「在宅介護支援センター」も併設されています。

ふれあい 出会いの 輪

桂坂地域での福祉施設の諸行事

桂坂地域では、福祉施設の催しが1年を通じて色々行われます。例えば、「洛西ふれあいまつり」、ふれあい会館主催の「ふれあい会館フェスタ」、ふれあいの里授産園の「陶器まつり」、ふれあいの里療護園主催の「夏祭り」などです。

これらの行事は多くのボランティアの人たちによって支えられています。会場のふれあいの里広場には、施設の紹介コーナーが設けられ、自主作品の販売、体験コーナー、フリーマーケット、ステージ発表会、保護者会のバザーなど催し物は多彩で、桂坂はいうに及ばず、洛西地域、京都市内の子どもから大人まで、多くの人たちで賑わいます。

あちこちで「いい感じのふれあい、出会い」が見られ、それぞれ楽しい1日を過ごします。一人でも多くの方の理解が得られ、互いに励まし合いながら、自然体でいきたいものです。



授産園の陶器まつり

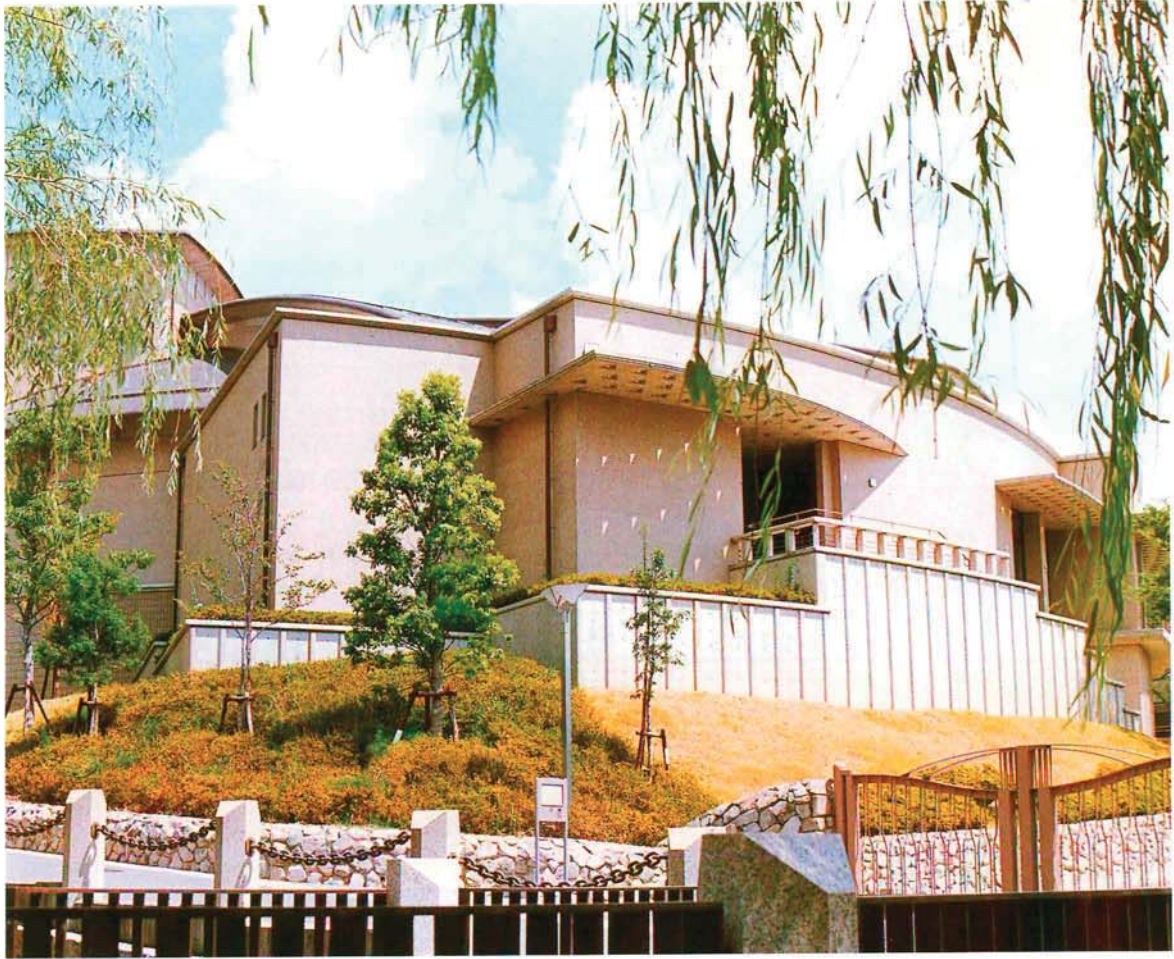


療護園の夏まつり



洛西ふれあいまつり





「日文研」 山の手倶楽部 青井 勇氏

文化 ■ 彩華映発

文化

風土と活動



桂坂は、「緑豊かな自然」といわれるほかに、国際日本文化研究センター（「日文研」）という学術研究機関があり、近くには京都市立芸術大学・音楽高校もあって、文化的環境に恵まれています。このことが近隣の羨望の的となり、さらには記念事業の一環として実施された「ふれあい会」や「合同作品展」など華やかなイベントの展開が、新聞で報道されたこともあって、「桂坂」の評価を高めたようです。たしかに私たちは、この恵まれた文化的風土の中で桂坂ならではの恩恵を色々としています。

「日文研」と学術講演会・一般公開

桂坂の中央に位置する「日文研」は、どこからでも歩いて15分足らずの距離にあり、文化の芳醇な香りに酔えるのですから、私たちこの地に住むものは恵まれているといえましょう。

年に1回の一般公開では、施設の一部、所蔵の文献や蓄積されている研究データなど、親しく拝見できます。

ある年の一般公開について記す感想です。

「日文研」の一般公開——羨ましい「遊び」の空間

去る11月1日、国際日本文化研究センターが私たち一般人に公開されました。

日本文化に関する「国際的・学際的な総合研究」と「世界の日本研究者に対する研究協力」をおこなうことを目的として設立されたため、その利用も関係分野の研究者に限

られ、普段は一般に公開されません。

しかし、今回のように年1回にしる、「一般市民への普及」活動の一環として施設の一部、所蔵の文献、これまでに蓄積されているデータなどが、見たり触れたりできる形で公開されるのは、地域に住む私たちにとっては、文化の芳香を聞きうる恰好の機会にもなり有難いことだと思います。

当日は、セミナー室では「日文研紹介ビデオ」の放映と写真「秋の大原野」の展示、図書室では外国語で書かれた日本研究書の陳列と「データベース」の公開などがありました。

「桂坂、いいところにお住いですね」と羨望されるこの地の、しかも眺望の利く一等地に位置するセンターは、この環境が設計に巧みに活かされています。

円筒型の図書室や講堂もさることながら、回廊に囲まれた中庭を含む建物全体の佇まい、これには魂消ました。あの和洋を折衷した？回廊に囲まれた「遊び」の空間では、自在に心を遊ばせることもできそうですし、また、国際的と日本的との相互交流に雄々しく想い遣えることもできるでしょうから、研究者冥利に尽きるのではないかと傍目には感じました。

中西進教授の講演「あそぶを考える」を聞いた後、累々たる屍ならぬ、大枝山に投棄されたゴミ・廃材を横目に帰路に着きました。しばしの間とはいえ、憧れ出てあの「遊び」の空間に逍遥していた魂も、わずかの道のりの中でいとも自然に、現実の我が身にもどっておりまして。

【桂坂】16号1994.11.10

この一般公開の日や学術講演会では、センターの著名な先生の警咳に接することができます。また、テーマによってその都度、適任の講師が招かれます。ある時の公開セミナーでは、隣の市立芸術大学と提携して「唱歌にうたう日本の四季」がとりあげられ、私たちは、「日本の四季」の趣を味わうことができました。



「日文研」ホールの外で

時には、「日本研究・京都会議」という国際会議の開幕を告げる公開講演なども行われます。1994（平成6）年10月17日、ノーベル文学賞を受賞したばかりの大江健三郎氏が最初の講演「世界文学は日本文学たりうるか」を行ったのは、実はこの公開講演においてでした。当日は、マスコミ各社が大江氏を追って桂坂に大学して集結しましたが、

私たちが思いがけない幸運に出くわしたことになります。

カザラッカコンサート

桂坂小学校PTAの主催する恒例の「カザラッカコンサート」もやはり桂坂という「地の利」を活かしたころみで、音楽高校のフルメンバーのオーケストラを招いて行われる音楽会として好評を博しています。



ふれあい会館の教養講座と「花の木ラウンジ」

ふれあい会館では、多彩な教養講座が開かれ、これも全市的に受講者の募集が行われます。「健康づくり」「介護講座」にとどまらず、陶芸、茶道、水墨画、囲碁などの文化講座も開講され、作品発表の機会も設けられています。

また、「野鳥園」には「花の木ラウンジ」があります。ここは地域の文化サークルが作品を発表する場となっており、土曜・日曜が開園日。催し物は、例えば、4月は写真展、5月は野鳥写真展のように1ヶ月ごとに変わります。



ふれあい会館
ロビー



「野鳥園」花の木ラウンジ

桂坂の放送網

難視聴地域の洛西ニュータウンと同じく桂坂でも、開発時から有線放送のシステムになっています。衛星放送やCS放送なども視聴できますが、この拡張放送は桂坂CATV専用のコンバーターが必要です。

社屋を新しくした「JIB」(Jack in the Boxの略で、〈びっくり箱〉の意)では今後、新しい放送サービスとして、9chと11chの空きチャンネルで「JIBコミュニティ放送」(視聴無料)を予定しています。自治連合会や自治会のお知らせ、他地域のコミュニティ放送便りや各種情報のサービスです。例えば静止画面やVTRで、センター街の買物情報などがリアルタイムで流れることになります。

しかしこの「JIB」の放送網は、関西電工と長谷工の区域だけに張られたもので、さくら自治会などは洛西ケーブルビジョン(「RCV」)のネットに入っていますから、桂坂には2系統の放送網があるわけです。

桂坂の緊急放送ならびに案内放送は、「JIB」を通じて行われますから、さくら自治会など京都市住宅供給公社と住宅・都市整備公団の開発地域には伝わりません。長谷工の施工した2つのマンションも保安設備が異なるため、はなみずきとほぶらの両自治会も今は聴取不能です。



文化普及会と「名月観賞の夕べ」

各種団体の1つに、「文化普及会」があります。主として西京区が行うイベントの世話役で、桧原廃寺跡で毎年、各学区が競演する「名月観賞の夕べ」や京都市の大きなイベント「京都まつり」の西京区を担当します。もちろん桂坂学区の「文化普及」にも関わります。

「名月観賞の夕べ」は、西京区民ふれあい実行委員会および西京区民文化普及会が主催するもので、名月を觀賞しながら各学区の人たちの歌や踊りを一緒に楽しもうという恒例の西京区民のつどいです。会場にはお茶席やうどん・おでん・飲み物などの模擬店も設けられ、区民のつどいを盛り上げる一役を担います。

舞台の歌や踊りを見て、ある年の文化普及委員・中谷敏

清氏は、広報『桂坂』(34号1996.9.28)で、「西京地区には多くの日本の郷土の歴史や遺跡があり、文化の漂う地区だけに、当日は、各区民の生活を営みながら伝統芸能を保存して芸能文化を継承されて大切に育てられる方々の姿に感動いたしました」と、その感想を述べられています。

桂坂学区の代表としては、1993年にあかしあ自治会の沢岡雅楽満社中の皆さんが箏曲の合奏で参加されたのが最初で、翌年は女性会を代表してさつき自治会の宇野早苗さんが詩吟『本能寺』を披露されました。その後も毎年、山の手倶楽部のみなさんの女性コーラス(1995・1997・1998年の参加)、けやき自治会の矢本知里さん・雨田幸子さんのソプラノとハーブ演奏(1996年)、プランタンのみなさんの女性コーラス(1999年)が桂坂を代表して参加されています。

文化活動 — 親睦を深めるために

けやき自治会

クリーンデーや柿狩りなどで会員相互の親睦を深めるけやき自治会は、1996年11月に「趣味の作品展」を開催しました。当時の井上照雄会長のことば(『桂坂』36号「けやき自治会・趣味の作品展を終えて」1996.11.25)に拠って開催の目的やその模様などを記してみます。

1つには「会員さんの趣味を知り、その趣味の中から会員サークルの育成を図れないか」、2つ目は「このサークルを、利用の少ない自治会館の有効利用に結びつけることができないか」ということでした。

文化・広報委員を中心にした出品勧誘が功を奏して、盛大な作品展が行われました。「中でも3歳の幼児や保育園児・小学生の力作が目をひきましたが、フランス刺繍や手彫りの額・押し花の額など5点の出品をしてくださった作者が、83歳のおばあちゃんと知った時は、驚きと同時に大きな感動を受けました」。

今後「このような取り組みが各自治会に波及し、将来連合体での開催となることを、大いに期待するもの」です。

こうした会員の幅広い交流を求める試みは、昨年秋の文化講演会にも受け継がれています。



11月27日、自治会の会員である耳鼻科医の話を聴く講演会。「スライドでは、耳の構造や各部分の名称・働き、そして耳の代表的な病気について」知り、また「ビデオでは病気で聴力を失った少女が器具を埋めこむことによって聴力を取り戻し、生き生きとしていく姿を見」て、「耳の大切さを改めて知り、とても勉強になった」とのことです。(『桂坂』67号「耳よりな話」1999.12.10)

さつき自治会

自治会の主催するこのような文化講演会は、さつき自治会でも企画され、実施されています。

自治会設立の頃から「文化普及」に熱心で、1998年の夏には「文化生活はアレルギー患者を増加させます」、その年の暮れには「夫婦の法律関係について」などと題する講演会が相次いで開かれています。いずれも自治会の会員である医師、弁護士といった専門の方による講演で、広報『桂坂』を通して案内された「公開講演会」でした。



かつてしらかば自治会においても、造園の専門家によるその時期に応じた「庭木講座」が7回にわたって行われたことがあります。

山の手倶楽部と地域女性会の文化活動

山の手倶楽部では、会員相互の連絡にニュースが発行され、会や分科会・同好会の動静などが伝えられます。

文化活動は、運動関係の分科会とともに活発です。「歴史史跡巡り」「旅行」「園芸」などは野外に活動場所を求め、「囲碁将棋」「謡曲」「写真」や「書道」はふれあい会館を、「一筆画」「コーラス」「手編み」の各分科会は中央信用金庫の2階を利用して研鑽を積んでいます。

その成果が作品として結実するものは「趣味の作品展」という公の場に出品され、女性コーラスの場合は「名月観賞の夕べ」や西京区老連の「文化芸能祭」に出演します。

地域女性会も、日頃の成果を「作品展」を開催して発表する一方で、サロンのような雰囲気の中で音楽会を開いて楽しんでいます。ふれあい会館を会場に、「ハーブサロンコンサート」や「春のコンサート」として木管による室内楽の演奏を鑑賞したり、また、「ティータイムコンサート」のくつろぎの中でシャンソンを聴いたりしています。広報でも案内された、一般も参加できる音楽会でした。

さながら桂坂の「文化祭」

この2団体は、記念事業の一環として桂坂では初めての「合同作品展」を開催しました。ふれあい会館の第1研修室と第2、第3研修室を使った、大がかりなものでした。これまで個々に開いていたものを一緒にするのですから、些か窮屈さは否めませんでした。力作で埋め尽くされ見応えがありました。

また、記念事業の「ふれあい会」には各自治会の達人たちが一同に集い日頃の修練の成果を披露、その演技・演奏は参会者を驚嘆させました。

体育関係の諸行事は、体育振興会の活動と努力が実を結んですでに学区に定着しています。そこでこの2つの文化的行事に結集された貴重な「協同」の力を見ると、こうした催しを恒常化させる、あるいは桂坂の「文化祭」を創出するだけの潜在力は私たちにはあるようです。2つのこころみをささやかな形ででも継続していけば、桂坂の発展、活性化につながっていくかも知れません。

自治会の広報活動

会の活動状況や連絡事項を会員に伝えるのに「広報」は極めて大切で、有効な手段です。

回覧板、広報紙、掲示板など伝達手段を通して自治会・自治連合会・各種団体の動きや主催行事、あるいは行政からのものを含めた連絡事項が伝えられます。受けとった私たちには、役員はじめ会員の皆さんの、会員相互の親睦を念頭において住環境の改善・整備に努力され、また、文化・体育活動に活躍される姿が分かってうれしいものです。

かえて自治会（『かえてニュース』）、しらかば自治会（『しらかば自治会だより』）、あかしあ自治会（『やまびこ』）などは発足当初から広報活動に意義を認めて情報の伝達に力を入れています。



広報の発行——にれのき自治会

1996年設立のにれのき自治会では、わずか3年半の間に1999年11月発行の『にれのきニュース』で、36号を数えます。自治会と建築協定に関する総会の報告はもちろん、自治会の企画行事、そして自治連合会や各種団体の動き——

例えば自治会館建設にともなう募金要請の記事、行政懇談会の報告、体育祭・体育行事の案内と結果の報告など盛り沢山の内容です。紙面では、「子どもたちを地域として育て、子どもたちをむすびつけるためのきっかけとなる活動の場」として『にれのきっこ広場』も設けられて和太鼓の練習や「秋の山を歩こう」といった子ども向けの催しを伝える号もあれば、「小学校ご入学おめでとう

〒604-8125
京都市東山区桂坂

にれのき自治会
にれのきニュース／第25号

桂坂学区消防員連・自治会館建設資金ご寄付について（続）

にれのきニュース第24号（97.12.14）、「桂坂」第9号（98.1.1）、桂坂区（桂坂学区）消防員連・自治会館建設資金ご寄付のお知らせ（自治会会報）（98.1.17）でお知らせとお知らせを致しましたが、「建設資金のご寄付」を各団体が集めてまいりますので、ご協力のほどお願ひいたします。

(1) 募金期間：2月1日（日）～2月22日（日）
(2) 募金金額：1日3千円（4千円以上1日単位でなくてもかまいません）
寄付ですべての建設費ではありませんが、住居の建設費でもですので、少しでも多くのご寄付をお願いいたします。

【桂坂学区の自治会館は誰が使うの？】
新内政委員になられた方がそれぞれ自治連合会、体育振興会、少年体育委員などに建設費が配分されて利用されます。即ち、両方共に管理の中のどなたかが必ず利用されます。
総会で、建設費の使い道が決定すれば、市内の他自治会がコピーになります。即ち、他自治会がコピーの建設費をかけることになります。
【桂坂学区の自治会館を建てることについて】
各自治会の建設費を持ち回りで利用してまいりましたが、他自治会が建設費で負担されるため「建設費」の形で桂坂区の方に建設費をかけることになります。なお、あくまで自治会館はコピー機や複写機をたくさん置くなどの建設費もかかっています。また、大人数の会議はふれあい会館を利用してまいりますが、京都市の施設費でその負担の確保があり、利用し辛い場合があります。
小学校の用地に自治会館を建設することで、以上のことが解決されます。
【なぜ寄付金を求めるの？】
原則、消防からもらえる「補助金」です。つまり建設費用を分担するのが基本です。この程度の規模と設備のものが建てられるのは住居の建設から集まるお金次第です。なお、見解が高層の「建築」を想定しているためです。
【なぜ必要なの？】
10周年記念事業の一環であることをアピールすることで、自治会館建設の補助金は最高額の80万円の内部が得られます。また、同時に消防員連を建設することで小学校用地の利用が可能になり、かつ建設費最高額の400万円の内部を計ります。つまり、「今年であること」で補助金が最大増額され、かつ、結果よく消防員連と自治会館の建設が可能になるということです。

回覧板・広報紙・掲示板

回覧板は、緊急の連絡事項の伝達には無くてはならない手段ですが、次のお宅へ送ることが急がれて家族全員の目に触れるとは限りません。こうした不備・弱点多、各戸配布の広報紙であれば、手元に「留め」ることも保管しておくこともでき、にれのき自治会の活動の足どりを後になって知りたい場合でも足跡を辿ることができるわけです。

広報板は、バス停に設置されたものと、京都市が設置したものとがあります。前者は、自治連合会が業者懇談会において設置を求めたもので、掲示物の更新、貼り替えは最寄りの自治会が担当しています。



もみのき自治会館のOA化——もみのき自治会

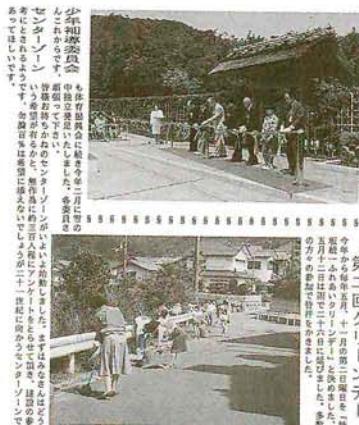
従来の伝達手段のほかに、もみのき自治会では、情報化時代に即応した「広報」活動のあり方として、「会員間の新しいコミュニティの場を創出」することを目的にホームページ(<http://www.geocities.co.jp/HeartLand/6217/>)を開いています。

自治会館にパソコンとFAXを導入したのは、事務の効率化を図って役員の負担を軽減するとともに情報を迅速に伝達できる、そしてネット上で自由闊達な意見の交換も可能であり、より開かれた自治会が期待できる、という考えからです。

情報化社会の到来が喧伝される昨今とはいえ、まだどの家庭にもパソコンがあるわけではありません。そこで、パソコンのある場合にはE-mailを通して、また、FAXのあるお宅はFAXで、その他の家庭には従来どおり回覧板を回して情報を提供しようというもので、今後の地域のコミュニティのあり方を示す一つのこころみです。

自治連合会の広報

1990年12月10日に創刊号『桂坂自治連合だより』が発行されてから1999年12月発行の「記念特集号(Ⅱ)」まで、67号になります。(これまで発行した広報は、合綴して各自治会館のほか郵便局、京都中央信用金庫、ふれあい会館など公共施設のロビーに置いてあります)



少年相談委員会
少年相談員は、少年の悩みを聞き取り、適切な指導を行います。毎月、少年相談員による相談が行われます。

野鳥園オープン
野鳥園は、自然観察や環境教育の場として、毎月オープンしています。野鳥の観察や、自然の観察を行います。

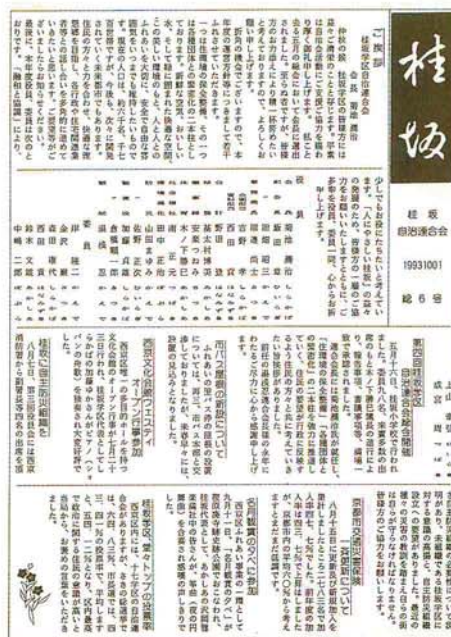
七自治会で出発進行
七自治会は、毎月、七自治会での出発進行を行います。七自治会での出発進行を行います。

晴れた、汗かいた、
第二回クリーンデー
第二回クリーンデーは、毎月、第二回クリーンデーを行います。第二回クリーンデーを行います。

創刊号から4号まではA4判。草創期の桂坂の出来事、催しなど精神の昂ぶりの中で要領よく編集されています。5号はB4判の2枚綴り。6号は「桂坂」を冠したものの最初で、A4判の両面刷りでした。

今の『桂坂』になったのは7号からで、概ねB4判で両面刷り。山田まゆみ編集委員の回想(『桂坂』50号)にあるように、「それまで不定期であったものを、少しでも新しい情報を伝えたいと、概ね月1回の発行に」し、当時は「4人で担当を決め、それぞれが企画から取材、原稿依

頼、時には自らも原稿を書き、それを集めて(入力)、紙面の割付け、印刷、(各自治会長宅への)配布までしていました。1996年からは、見るに見かねた自治連合会の配慮で、各自治会より選出された委員が月に3回程度集まって編集会議を開き、広報を発行し、今日に至っています。



広報編集の考え方

発行がもし年4回程度の「季刊」であれば、どの号もご挨拶風の文章や報告記事が並び、「一人でも多くの方に読んでもらえる紙面」から遠く隔たってしまいそうです。回数が多くなればそれだけ、報告以外に桂坂学区全体の動きや自治連合会・各自治会・各種団体の消息・案内などを伝えることができ、さらに各施設の行事を事前に案内すれば皆さんの「予定表」の中に書き留めてもいただけます。

しかし月に数回の会合となると編集に携わるスタッフの負担が増すのは当然で、選出段階で既に「編集部は鬼門」説が浮上し、敬して遠ざける風も吹き始めるようです。むつかしいところです。

しかし、桂坂は目に見えて発展している街であり、各団体や施設の動きも盛んになってきたこともあって、最近に掲載すべき原稿が数多く集まり、編集部は紙面の割付けにうれしい悲鳴をあげる有様です。こうした中で、いくらかでもこの「敬遠」の気を祓うには、「一人でも多くの方に読んでもらえる紙面」づくりをモットーに企画記事を予定し、編集委員が桂坂全体を股にかけて取材し、記事にまとめて紙面に割付けるといふ、編集の「醍醐味」が味わえるよう配慮する、そうすれば祓除の霊験あらたかなものがあるかも知れません。

桂坂自治会館 — 文化活動の拠点

ところで桂坂には、私たちの文化活動の場として各自治会の会館、ふれあい会館、中央信用金庫2階があります。そして新たに1998年、私たち地域住民の醸金と桂坂にゆかりのある企業の協力を得て、桂坂自治会館が建設されました。この会館は、自治活動・文化活動・防災の拠点としてその意義は大きいものがあります。

会館竣工式の成瀬洛西支所長の祝辞を抜粋してみます。

桂坂学区の皆さま方は、自治会ならびに自治連合会に結集され、今日まで、ふれあい統一クリーンデーの取組みなどによる美しく清潔な環境のまちづくりをはじめ、統一夏まつりや体育祭、音楽祭など多彩な活動による学区民相互のふれあいと交流の促進、地域福祉の向上に努力されるとともに、消防分団の創設など地域の防火・防災力の向上にも力を尽くされるなど、潤いのある、安心して暮らせる故郷・桂坂の実現に、なみなみならぬ努力を続けて来られました。

皆さま方のこれらの幅広く多彩な活動とご努力は、市民1人1人が心豊かに地域で生活することができるよう、京都市が全力を挙げて進めております「光輝く元気なまち・京都」の実現に大きく寄与されるものであり、誠に心強く改めて感謝を申し上げる次第であります。

折しも、本年（1998）は、京都市の自治100周年の記念の年であります。

この記念の年に、桂坂学区の自治活動、地域活動の拠点となる施設が竣工いたしましたことは学区民の皆様の自治意識の高揚に大きな契機となるものであり、誠に意義深く今後の皆様方の地域づくりと地域コミュニティの強化、自治の発展に大きな役割を果たすものとなりますようお願いいたしております。

「学校コミュニティプラザ構想」

この会館が、自治活動、文化活動の拠点として今後活用されることとなりますが、昨年、桂坂小学校に「ふれあいサロン」も開設されました。

樹本市長が教育長の任にあった1993（平成5）年7月、「学校コミュニティプラザ構想田辺試案」なるものが発表されました。

その趣旨はこうです。今日は「あらゆる世代の市民が、自分の住むまちを誇りに思い、いつまでも住み続けたいと願うような地域社会をつくっていく」ことが求められている。そこで「文化活動、スポーツ活動、ボランティア活動の場として地域にある小・中学校の施設を整備して、地域に住む人々に開放する『学校コミュニティプラザ事業』を

計画してい」る。つまり、「学校を市民の生涯学習・地域コミュニティ活動の場として活用することで、地域のコミュニティネットワークを新たに形成し、地域社会の再生と発展を図り、21世紀に向けて、〈人が主役の健康都市づくり〉を目指」すというものです。

「学校ふれあいサロン事業」

そして、自治100年を迎えた1998年、「学校ふれあいサロン事業」としてその計画が具体化されました。

「ふれあいサロン」は、「地域に根差した自治活動のシンボリックな記念事業」として、学校の教室を1室、改修整備し、地域の「子どもたちからお年寄りまであらゆる世代の市民」が「集い、学びあえる身近な生涯学習の場として開放される」こととなります。

1999年の9月19日に開設された桂坂小学校の「ふれあいサロン」も、かつての「町衆の英知とあふれる熱意」を今に甦らせ「〈元気な京都〉の基礎となる〈元気な地域〉を創設」する（市長のことは）拠点となるべきところです。

街中の過疎化を迎えたところとは異なり、桂坂は人口増加の著しい地域です。桂坂小学校はこれまで、ゆったりとした羨ましい学習と遊びの空間を誇っていましたが、いまや特別教室に間仕切をして普通教室に模様替えせざるをえない有様です。こうした状況下での「ふれあいサロン」の開設ですから、今は利用上の制約・窮屈さはやむをえないことかも知れません。



「ふれあいサロン」はこうした状況の中での地域への開放事業ですから、利用面での窮屈さはやむを得ません。

利用時間帯は、午前9：00～12：00、午後13：30～16：30

「ふれあいサロンの開設」
みんなで元気な地域社会を

ミーティングルームを改装 文化活動の場に
9月19日、桂坂小学校の「ふれあいサロンの開所式」が関係者出席のもとで行われました。

学校の施設を活用し「子どもたちからお年寄りまであらゆる世代の市民の皆様が集い、学びあえる身近な生涯学習の場」として地域に開放されるものです。

空教室が多い市内中心部の学区と違い、桂坂小学校は生徒さんが増える一方、他に類を見ない、ゆったりとした、恵まれた学習空間も当面必要な普通教室に模様替えする有様です。

「ふれあいサロン」はこうした状況の中での地域への開放事業ですから、利用面での窮屈さはやむを得ません。

夜間：18：00～21：00
但し、学校教育活動の時間帯は学校の利用が優先です。

利用資格は、管理運営委員会に加盟する各種団体と委員会に登録したサークルです。

管理は小学校の教頭で333-11101
申込時に利用時間に応じた実費を取ります。これで、自治活動と防災の業務上の拠点である桂坂自治会館と併せて、二つの貴重な地域の文化活動の場が揃ったこととなります。

「町衆」の英知を活かして

こうして新たな器がまた1つ出来ました。私たちとしてはここで、かつての「町衆」よろしく「英知とあふれる熱意」を今に甦らせながら、生涯学習やボランティア活動、そして桂坂の文化創造などの大切な拠点としてこの施設を存分に活用していく必要があるでしょう。

桂坂自治会館の維持管理

会館は、自治連合会の役員が2名、使用の申込の受付とその維持管理を担当しています。

そのほかに会館使用の各団体が、4月を担当する自治連合会本部から3月の広報編集部まで毎月交替で会館の清掃に当たっています。

会館の印刷機

桂坂自治会館の1階に簡便な印刷機が設置されました。多くの学校で使用されている「優れもの」で、2000年3月より各自治会、各種団体が総会の議案書などの印刷に使用しています。

かつて広報『桂坂』7号の「談話室」(1993.12.26)で編集部が「印刷室」を望んで次のように述べています。

1つの組織の大切な伝達手段である「広報紙」は、文選・レイアウトまではワープロで何とかできますが、大量の印刷となるとままなりません。自らの手で継続的に発行する場合、この「印刷」面がネックになりそうです。

各区の「相談室」が「地域振興室」と名を大きく変えました。小さな「文化事業」ともいえる広報紙の継続的発行を保証するような簡便な「印刷」設備が各区に備わり、自由に使えたならば、「田邊試案」の意に沿うて「地域振興」も実あるものになるのではないのでしょうか。恰好の「印刷室」を望みたいところです。

印刷機は「文化事業」の推進・発展、「地域振興」などに大きく寄与する利器です。この機器がこの度、私たちの自治会館に備えられました。今後はこの「印刷室」で、会議のレジュメの印刷にとどまらず、多彩な表現・広報活動に活用されて、桂坂の「文化振興」のために大いに役立つことでしょう。

不特定多数の人が共用します。この機器は共用に耐え、トラブルの少ない機種ですが、私たちは扱い方を熟知して有効に、そして大切に使用していきたいものです。





秋の中央通り 山の手倶楽部 藤本 武氏

ロータリーのあるまち



ロータリーのあるまち



灘区の上野通りは戦前からの住宅街で、震災で多くの家が屋根瓦の落ちる被害を受けました。補修用のビニールシートも人手も不足していた時、ある人が「近所の人に呼びかけて資材を持ち寄り、1月21日に住民総出で一斉補修」したのが、「自治会結成」に繋がったのだそうです。

メンバーは22世帯の75人で、翌22日に世話人・会計・渉外担当を選んで活動開始しました。

『毎日新聞』によると、「震災後1週間ほどは、毎日のように会合を持ち、友田さん宅に設置した本部の留守番役や名簿作成など仕事を分担。留守番役は、差し入れ物資などの受付とともに、会員となるべく話をすることも重要な役目だった。運営はだれにとっても初めての経験で、すべて話し合いから。自治会活動とは別に、食料を分け合うなど助け合い精神が芽生えていった」そうです。

また、阪神間の交通・通信が途絶し、情報不足が不安をかきたてたので、「会員間の情報交換と意思疎通を図るため、発足と同時に手書き情報紙を発行」し、修理工業者や開いている浴場の情報、ゴミ収集や買物情報など、会員が知ることができた「生の情報」を掲載したというのです。

世話人の主婦、河野則子さんは「屋根の教訓を忘れず、コミュニケーション豊かなまちを自分たちの手でつくっていききたい。救援物資を分配する形式だけの自治会ではだめ」と訴え、また、中心となった友田さんは、「私たちは皿を提供したようなもの。その上に盛る料理はみんな

なが持ってきてくれた。ここまでこれたのは、若い人から年配の方まで自分の役割をそれぞれ考えたから。今後も地道な活動を続けていきたい」と話しています。

「屋根自治会」の人たちの体験を私たちに引き当てて考えれば、自治会を設立した初めの頃の初々しい気持ちにたちかえって諸々のこと、身近のことを考えてみると、これが大切かも知れません。

私たちのこの京都には、「町衆」の創意・工夫、そして何よりも町内に住むものの連帯感によって祇園祭などの祭りが維持され発展して来たという伝統があります。

身近なことでは常日頃、隣近所で交わされる挨拶、一見不用にも思えるおしゃべり、そして自治会、自治連合会、各種団体や、災害時には恐らく「桂坂」地域の救援の拠点となるはずの小学校・PTAなどが催す様々な集いに参加して「顔を売り込み」、町衆としての連帯感を培っておくこと、いささか牽強附会のきらいなきにしてもあらずですが、肝要かと思えます。

夏祭りは「町衆」としての創意・工夫が凝らされ、エネルギーがふんだんに発露されているはずで、床几に腰を下ろしてちょっとビールを飲みながら談笑に耽るといったことすらも、「桂坂」の文化の普及には格好の「基点」となるでしょう。「屋根自治会」の方は「だれにとっても初めての経験で、すべて話し合い」で運営しており「会員となるべく話をすること」も重要だった、といます。日常のちょっとしたことですが、傾聴すべきことばです。(「夏祭りにことよせて」『桂坂』24号 1995.8.12)

安全の街づくり — 防犯

防犯推進委員

1992(平成4)年8月、桂坂学区に「防犯連絡所」ができましたが、1994年4月には「防犯推進委員」と名前をかえて20名、2年の任期で桂署より辞令が交付されました。

その後、桂坂の開発が進んで自治会が新たに設立されるに伴い、委員が既成の自治会内に偏るといった問題が生じました。また、この推進委員が自治会組織とは無関係なために文書配布など広報活動がスムーズにいかない憾みもありました。そこで自治連合会・各自治会と連動させるために各会長が推進委員を兼務することになりました。

各自治会の防犯委員とも協力できますから、活動もスムーズにゆくはずですが、ただ、1年任期の自治会の場合は、

後の1年がボランティアということになります。

現在、防犯推進委員は自治連合会から会長を含めて2人と各自治会長が当り、防犯推進協議会が構成されます。

交通安全協議会や少年補導委員会はいずれも警察と関りがあり、自主防災会、学区の防犯委員会も含め、地域における「安全」の確保と推進のために、例えば防犯パトロールなど、互いに連携して活動をすすめています。

防犯委員会

防犯推進委員ももちろん住民から寄せられる色々な要望・意見を把握して警察に連絡通報しますが、各自治会の防犯委員もまた適宜、交番と連絡協議会を開き、「安心して暮らせる住みよい街づくり」を目指して話し合います。自治会単位で、街灯・公園灯の球切れに注意して街を明るくするといった、身近な防犯活動もその務めです。

地域ぐるみで子どもを守る

「子ども 110番のいえ」(緑の下地に赤と黒の文字)——子どもが危ない目に遭った時すぐ駆け込めるように桂署の手で、桂坂の20軒の家にこのステッカーが掲げられました。

また、小学校のPTAでは、各自治会単位の保護者が順番制で、小学生の下校時の安全を願って、緑のタスキと黄色の腕章をつけパトロールしています。

これは「複数で下校していても、自宅付近で一人になる時や、見通しの悪い緑道、人気のない公園付近で被害が多くあったことを受け」て巡回するもので、「対外的にも、みんなで子どもたちの安全を守るため対策を講じていることがわかるようにし、不審者が行動を起こしにくくすることを目的とした予防策」(片山桂坂小学校PTA会長「防犯について再度のお願い」・『桂坂』46号1997.10.16)でもあるようです。

安全の街づくり —— 交通・安全

交通安全推進協議会

桂坂には、交通安全推進協議会とその婦人部があって、学区を交通事故のない安全な住環境にするための活動と交通安全の意識向上を計る啓蒙活動を行っています。

家や車が増えてくると事故も増加し、迷惑駐車が原因となって起きた事故は多々あります。駐車している車のせいで視界が遮られたり、道が狭くなったりして事故を誘発します。そこで少しでも迷惑駐車をなくそうと、かつて推進会では車のワイパーに「迷惑駐車」のステッカーを挟んだり、回覧板で呼びかけたりもしましたが、迷惑駐車は一向にありません。このことをどう考えているか、アンケート調査も行われました。迷惑駐車は行政懇談会の都度とりあげられていますが、「規制をすれば解決するという問題ではない。ドライバー1人ひとりの意識改革が必要である」——これはある年の懇談会で、私たちに方に投げ返されたボールです。

ロータリーの車の流れを美しく

ロータリーは京都では珍しい特殊な交差点です。左に車の流れる一方通行で、全体が交差点ですから、ロータリー内での駐・停車はできません。

横断歩道の手前に菱形の道路標示と一旦停止の標識が設置され「徐行」と「一旦停止」が義務づけられています。「一



旦停止」と「先入車輛優先」のルールが守られるならば、ロータリーほど絵に描いたように車のきれいに流れる交差点はありません。必ず「一旦停止」をして先入の車輛を通過させた後で進入し、出る際には必ずウインカーで左折の意志表示をし、横断者の有無を十分確認の上でロータリーから出ることが大切です。

親と子の自転車教室

起伏の多い桂坂では、自転車に乗った子どもたちはスピードが出すぎて事故に遭うこともありますし、「親の手を離れて行動範囲の広がる自転車は、子どもたちにとって便利で楽しい乗り物である反面、事故に遭う危険性も高く」(「楽しかった自転車教室」『桂坂』16号1994.11.10) なります。



そこで毎年、小学生を対象に「親と子の自転車教室」を桂坂小学校で開催しています。

グラウンド上には学年に応じた法規コース・技術コースなど模擬コースが設けられ、交通ルールを学んだり、急制動や遅乗りの運転技術を習得したりします。

自転車も乗って運転したら「車」と同じ。信号のない交差点ではやはり「一旦停止」の義務があります。

交通巡視員の指導で行われるこの自転車教室は、交通ルールや自転車の乗り方の楽しく学べる催しです。

桂坂消防分団

桂坂消防分団は、1997(平成9)年8月8日、西京消防団大枝分団の桂坂班として発足し、1998年10月1日、西京消防署において桂坂消防分団の結団式が行われました。そして8日、榊本市長より分団旗を授与されました。

この大枝消防分団「桂坂班」が呱呱の声をあげるまで桂坂は、実は大枝消防分団の方が歳末の警戒にも、火災発生時の出動にも献身的に活躍されていたのです。

20数名の団員で構成されるこの大枝消防団は、何も消防団が「専業」ではありません。親子3代で活動されている方もあり、プライドをもって事に当っておられました。

消防団員の募集

「わが街は自らの手で守っていかなければなりません。

阪神大震災の時も、85%は消防団員や自主防災会の人々によって救助されたのです。不幸にして災害が発生した時には、どのようにして町の人々を守るのか、平素からの準備が何より肝要だ（自治連合会事務局）ということで、消防団員として「志ある方」を募ることになりました。

平常時の任務は、

- ①火災予防の推進 [巡回広報、防火訪問、自主防災組織等の指導]
- ②応急手当の普及指導。
- ③消防施設等の保全。
- ④教育訓練

災害時の任務は、

- ①火災現場の活動 [警戒区域の設定と群衆整理。消火活動の支援等]
- ②その他、災害現場の活動、所轄消防署長の指示による活動。です。募集の結果、団員は男8名、女7名の計15名。



「桂坂班」から桂坂消防分団へ

大枝消防分団の指導を受けながら消防団員としての訓練を重ねていきます。ある時の「総合査閲」の様子を、西村明氏の報告「西京消防団総合査閲に参加して」で見てください。

5月10日から23日までの隔日、延べ8日間、午後8時30分から11時まで、査閲に向けて訓練を重ねてきました。

隊員の基本となる動作で「基本の姿勢」ひとつとっても「気をつけ」の号令で基本の姿勢をとり、端正にして且つ気力を充実させ、いかなる号令にも直ちに応じなければなりません。初めての経験であっても甘えは許されません。また大枝分団に迷惑はかけられない。そのような思いから桂坂団員全員が目の色変えて訓練を続けてきました。その間には、非常に寒い日もあり、風邪で熱を出し数日間寝込んでしまった団員もいました。普段は非常に優しい消防署の方もこの時ばかりは鬼軍曹の顔に見えました。(略)

次の小型動力ポンプ操法には、操作員4名(指揮者、1番員、2番員、3番員)の内、1番員と2番員を桂坂班の湯浅副分団長と安井団員が努め、見事大役を果たしました。小型動力ポンプ操法は、ホースを担いで走ったり、ホースを延ばして連結する等、相当体力を消耗します。(略)

査閲が終わった後、藤岡大枝分団長より「練習よりうまくいった」とお褒めの言葉をいただいた時、「がんばってよかった」これからは桂坂の消防団員として心新たに、気を引き締めて活動に取り組んでいかなければならないと思いました。

今年(1998年)10月には正式に桂坂分団として独立します。まだ生まれたばかりで右も左もわからない私たちですが、安全で安心して暮らせる地域づくりに、微力ではありますが、努力したいと思っております。桂坂の皆さんの支えがあっての消防団活動であると思います。この活動を

益々充実発展させていくために地域の皆さんのご支援をよろしくお願い致します。(「桂坂」54号 1998.7.7)

消防分団の活動

「安全で安心して暮らせる地域づくり」のために、月の5日と20日に団員は桂坂消防分団の詰所に詰め、学区内をパトロール。年末には、恒例の歳末特別警戒を前に「ホース延長訓練」や「巡回警備実施訓練」が寒空の下で実施されます。1月には出初式も行われ、2000年1月の出初式では湯浅仁司分団長が「今年も新たな気持ちで、団員一丸となって〈火災のない安心して暮らせる地域づくり〉を目指して努力していきたい」と決意が表明されています。



消防互助会

洛西ふれあいの里(洛西福祉ゾーン)では、1997(平成9)年11月15日「洛西ふれあいの里施設等消防互助会」の発足を記念して消防訓練及び結成式典が開催されました。

「ふれあいの里」6施設の消防互助会

午前7時に雨天の状況を西京消防署に連絡し、午前9時から6施設(ふれあいの里授産園・更生園・療護園、沓掛寮、西養護学校、ふれあい会館)の職員による準備が始まりました。

午前9時45分、授産園と更生園での夜間火災を想定した消防訓練は、それぞれの施設の電話連絡網により連絡、すぐに消防車や救急隊が到着し、逃げ遅れた職員を救出するなど本番さながらに行われました。

その後、ふれあい広場のステージでは、互助会結成の式典が行われ(略)特に、会の設立に関わった「ふれあいの里」6施設では夜間200名以上が宿泊して火災や災害時における人命救助と応援の体制づくりが強調されました。

また、来賓の今村西京消防署長からは、「各施設を結んだ会ができたのは、京都市で最初のケースであり、その意義は大きい。今後、桂坂地域の自主防災会との連携を深めるとともにそれぞれの施設を知っていただき、非常時の時

に備えるそのためにも日常的な交流をすすめていただきたい」との要請がありました。

菊池自治連合会長からは、「地域と施設を結ぶ、福祉共生のまちづくりが桂坂自治連合会の目標・課題で、なかでも火災など災害時における防災活動がその原点である。桂坂地域においては、桂坂自主防災会を基盤に、互助会と連携していきたい」と力強いお言葉をいただきました。

式典の最後は、桂坂自治連合会協賛による京都市消防音楽隊「防火ふれあいコンサート」が盛大に行われ秋の防火運動のフィナーレを飾ることができました。

中根超信氏「ふれあいの里の諸施設を結ぶ消防互助会」(『桂坂』48号1997.11.28)

2組織が防災で連帯

1999年8月30日、「洛西ふれあいの里」の各施設を結ぶ「消防互助組織」と桂坂自主防災会が合同で、西京消防署の指導の下「普通救命講習会」を実施しています。内容は応急手当の必要性、観察の要領、心肺蘇生法、止血法など。

このように、2つの組織が連携して「自主防災」の訓練を実行したのは桂坂では初めてで、有意義なことです。

桂坂自治会館 —— 防災の拠点

学区創立10周年を迎えるに際し、記念事業のうちで最重要のものとして考えられたのは、桂坂消防分団の消防器具庫と桂坂自治会館の建設でした。

1993(平成5)年、菊池自治連合会長が就任してより、「自治活動、文化活動の拠点となる総合自治会館」の必要性は自治連合会の総会の都度、強調されてきました。いま白聖の「桂坂自治会館・消防分団器具庫」として誕生しましたが、この学区にあっての会館「建設の趣旨」について1998年(平成10)、菊池会長は年頭の挨拶の中で次のように述べました。

これまで、「安全・安心の街づくり」のため、あらゆる対策を講じてはいますものの、もし今、大地震が発生したら、私たち、ただ茫然として何もできないのではないかと思います。また、多くの学区民の方々も右往左往の混乱状態となるのではないかと懸念されます。

自然の脅威を眼の前にした時、混乱に拍車をかけ、事態收拾を妨げるのは、総合的に情報を収集したり、的確な情報を発信したり、消火、救出、避難、補給をする「拠点」がないことに因ります。

待望の桂坂消防団が誕生した今、団員の日常活動の「詰所」や、強力な動力ポンプ(消防局から配備予定)をはじめ防災器具を管理収納する「器具庫」は、災害時に不可欠の「拠点」として、どうしても早期に完備しておかなけれ

ばならないところです。

震災には「待った」がありません。根こそぎ吹っ飛ばされ、人命にかかわる問題です。災害の発生時には被害を最小限度にとどめ、最速に立ち直る「手立て」を常日頃から用意しておかねばならないのです。

また、「自治会館」は、「器具庫」の2階に設置、非常時には災害対策の「指揮拠点」として、一連の活動が効果的に実施できるよう、その体制を整えておくことが肝要です。

それだけでなく、自治連合会や自治会、各種団体などの日常活動、ならびに文化的活動の重要な「拠点」として有効に活用されるべきです。

『桂坂』49号1998.1.1「年頭のご挨拶」

こうした防災上の、また地域における自治・文化など諸活動の拠点となる会館を、「桂坂に住む私たち住民が、安全で、快適に、豊かな生活を送るために必要だから自分たちの力で建設するもの」(川上博建設推進部会長「自治会館はなぜ必要か」『桂坂』51号1998.3.8)として位置づけた実行委員会は、建設資金の募集活動に入りました。

学区の皆さん、企業の方々の協力

1997(平成9)年12月21日、ふれあい会館第1研修室において「消防器具庫・自治会館建設」を推進するための決起集会在、募金運動に携わっていただく方や学区民の方を対象に開かれ、翌98年1月18日の記念事業実行委員会の席上では、配布予定の「会館建設資金のお願い」文書の最終確認が行われました。

2月1日より募金活動の開始。各自治会の役員・班長の方には各戸を訪問して趣旨を説明し、寄付金を集めていただきました。各種団体はそれぞれ内部で会館の必要性などについて話し合わせ、募金に協力されました。

自治連合会の役員はその間、桂坂に関わりのある企業・篤志家の方をお訪ねし、募金への協力をお願いしました。中には桂坂のためだとして多額の寄付金を快く出された企業、また、傘下にある建設関係業者に呼びかけて資金の調達に協力されたところもありました。

こうして会館建設に「桂坂学区民の総力」が結集され、「安心と安全の街」・「活気のある『元気な桂坂』を構築しよう」という将来に向け大きく飛躍する「大事な基地」建設のメドが立ちました。

地鎮祭から竣工式

1998(平成10)年6月4日に提出された建築確認の申請書が24日に承認され、同日、記念事業実行委員会において3業者の入札より落札した大平技建が建築業者として承認されました。

地鎮祭は、7月18日午前10時より、桂坂小学校内の建設現場で執り行われました。設計は、もみのき在住 片山健次氏の片山一級建築士事務所。

約4ヶ月の工事期間を経て、12月13日は、新築なった桂坂自治会館において会館・消防器具庫の竣工・落成式。

当日は、豊田西京自治連合会長はじめ各学区の自治連合会長、成瀬洛西支所長、今村西京消防署長、そのほか工事関係企業、多額の寄付をいただいた方々の列席される中、先ず入口でテープカット。引き続き2階会議室で式典が始まり、成瀬洛西支所長、今村西京消防署長より祝辞をいただきました。

今村西京消防署長祝辞

先ほど、出来上がった器具庫に器材が整然と納まっている様子を見せていただきますと、西京の消防団で一番立派な消防分団の拠点が出来上がったことに、西京消防署長として大変よろこんでおります。

器具庫の建設にあたりましては、菊池会長様はじめ桂坂学区創立10周年記念事業の委員の皆様および学区の皆様のご尽力によりまして、このように立派な、桂坂の防災の拠点となる器具庫を建設していただき、ありがとうございます。また、学校敷地を快く貸していただきました学校当局に対し厚く御礼申し上げます。

このような立派な器具庫を消防分団が使用するからには桂坂学区の防災の発信基地として十二分に活用していただくことが、住民の皆様のご期待にお応えすることになると思います。

ご存知のように桂坂分団員は1年2ヶ月間、大枝分団で研修を積み、この10月1日、はれて桂坂消防分団として発足し、榊本市長から直接、分団旗の授与を受け、本日このように立派な拠点が出来上がりました。地域の住民の皆様のご期待は非常に大きいものであり、消防分団員としても、その大きな期待に応えるよう活動していただく決意を新たにさせていただきたいと思っております。

拠点もでき、器材も揃いました。今後は湯浅分団長を先頭に研修・訓練を重ねていただき、住宅地である地元に見合った火災予防活動に重点を置いた活動を行い、地元防災の指導者として学区民の誰もが一目を置く存在となつていただきたいと思います。

榊本市長らの祝電披露のあと、多額の寄付を寄せられた株式会社横綱、スーパーイズミヤ、住宅生協の代表の方をはじめ、会館の設計、建設を担当された方々にそれぞれ菊池実行委員長より感謝状が贈られました。

翌1999(平成11)年3月24日には、榊本市長揮毫の扁額「楽在人和」の除幕式に引き続き、10時より消防器具庫と自治会館が一般公開されました。



「楽在人和」(楽は人の和に在り)。これは、中国の正史『新唐書』(歐陽修等撰)に見える文言です。さながらオーケストラの演奏のように、様々な人の知・情・意がうまく調和し響き合ってこそ、奏でるものも聴くものも共ども至上の愉楽にひたれる、それは何より「人の和」、人との親しい交わりあってこそだということをおそらくは意味するこの書は、「自治」を標榜する会館に、また、学区創立10周年の記念としても、そしてここに住む私たちにとっても実にふさわしい贈り物といえます。

会館のできるまで

- | | |
|------------|--|
| 1993年5月16日 | 平成5年度自治連合会総会で提案 |
| 1994年4月24日 | 平成6年度自治連合会総会で再提案 |
| 1994年7月16日 | 菊池自治連合会長「自治連合会館(仮称)の建立について」(『桂坂』12号) |
| 8月中旬 | 桂坂自治連合会会館建立準備委員会・同実行準備委員会発足 要望書の起草(委員46名が署名捺印) |
| 25日 | 西洋環境・住宅生協・住宅整備公団に陳情 |
| 10月15日 | 行政懇談会において建設問題を提示 |
| 1997年7月8日 | 桂坂小学校長に学校用地の借用願い |
| 8月8日 | 大枝消防団桂坂班の発足 |
| 12月6日 | 記念事業実行委員会の結成 |
| 21日 | 消防器具庫・自治会館建設を推進するための決起集会(ふれあい会館) |
| 1998年1月18日 | 記念事業実行委員会(建設資金のお願い配布について) |
| 2月1日~22日 | 募金活動 |
| 3月8日 | 菊池記念事業実行委員長「募金の結果報告と御礼」(『桂坂』51号) |
| 6月4日 | 建設確認申請を提出 |
| 24日 | 申請承認。実行委員会を開催、建設業者を大平技建に決定 |
| 7月18日 | 地鎮祭・工事着工 |
| 10月1日 | 桂坂消防分団誕生 |
| 11月29日 | 消防器具庫竣工式 |
| 12月13日 | 消防器具庫・自治会館竣工落成式 |
| 1999年3月14日 | 扁額「楽在人和」除幕式。施設一般公開 |



左は、桂坂学区自治連合会のシンボルマークです。

あかしあ自治会・基太村淑子さんの考案によるもので、桂坂の外周線、東西の

桂坂が中央の美しい坂により結ばれており、しかも桂坂を象徴する野鳥の雄飛の雰囲気を醸し出しています。このマークは1996年より使用されています。

桂坂学区自主防災会

桂坂学区自主防災会は1994年2月27日、発足しました。

「学区住民が連帯協同して、火災、地震、風水害その他災害による被害を未然に防止し、又被害を軽減すること」を目的として設立されたこの組織は、「桂坂学区内にある世帯をもって構成」され、行う事業としては、

- ① 火災予防その他の災害予防に関すること
- ② 防災に関する知識の普及に関すること
- ③ 防災活動に必要な資材、器具の整備等に関すること
- ④ 防災訓練の実施に関すること
- ⑤ 災害発生時における情報の収集連絡、出火防止、初期消火、救出救護、避難誘導及び給食給水等応急対策に関すること
- ⑥ その他必要なこと

が挙げられています。

この組織には、「各自治会等を基礎とした自主防災部」と「自主防災部の長及び各種団体の長からなる自主防災本部」が置かれています。

防災に関する知識の普及

「防災に関する知識の普及」のために毎年、自主防災部や各種団体から数名ずつ京都市民防災センターで「防災研修」を行っています。また、各自主防災部においても消防署の指導を受けて年1回、防災訓練を実施しています。

高めましょう防災への関心

かえて自治会 吉田美和子

防災センターでの体験はまだ私の記憶に新しい、2年前の阪神淡路大震災のマスコミによる映像を思い出させました。幸にも京都での被害は少なかったのですが、「天災は忘れた頃にやってくる」という言葉と共に、あの時の緊張感を思い起こしました。

あの震災では、ご近所の日頃のチームワークが功を奏し多くの人命が救われたと聞きます。

桂坂でも、各自治会館に7つ道具などが設置されていますが、役員だけが知っているのではなく、日頃家にいる主婦やお年寄りの方々も防災について関心をもち、道具の使い方等、知っておきたいものです。

さらに機会があれば、訓練にも積極的に参加し、親睦の輪を広げ、助け合う心を持つこと、そして私達の町や身の安全は私達で守るといふ、備えと心構えを意識的に持つようにしたいと思いました。(『桂坂』42号1997.6.27)

防災7つ道具・広域避難所

自主防災会の本部には、各自主防災部に常置の7つ道具のほかに、炊出し用の資材のアルミ打出し料理鍋・アルミ鍋蓋 [54cm]・ステンレスボール [36cm]などが用意されています。

桂坂学区の広域避難所は、桂坂小学校、大枝中学校、国際日本文化研究センター、西養護学校です。

この広域避難所の門や体育館のカギは、緊急時に備えて自主防災会の会長など数名が保管しており、また、避難所には緊急電話の増設用設備が用意されています。

1999年の総合防災訓練には初めて「日文研」から参加されましたし、大枝中学校と桂坂小学校では、1月17日の阪神淡路大震災の日に生徒対象の避難訓練が実施され、さらに放課後には「避難収容所開設」の看板を校門に立てて、教職員がそれぞれ決められた役割分担に即して配置につき模擬訓練が行われています。

総合防災訓練

「京都南部を震源とする大規模な地震が発生、各地で火災等の災害が多発して地域住民の避難・救出・救護、初期消火および給食活動等の必要がある」ことを想定して行う模擬訓練です。

「京都南部を震源とする大規模な地震が発生」したので「火の始末をして避難してください」という緊急放送で訓練は開始されます。各自治会所定の避難場所に集結し、自主防災部長が被害状況の確認や人員を確認したあと、自主防災部の標旗を先頭にして広域避難所である小学校に避難し、そこで自主防災会長に緊急時に不可欠の、避難してきた人員を報告します。

そのあと西京消防署の指導のもとに、概ね次のような訓練が行われることになっています。

「119番の通報訓練」「消火訓練」「負傷者の搬出訓練」「応急処置の訓練（三角布による止血法、包帯法）」「煙中の避難訓練」「心肺脳蘇生法」などの実地訓練。また、緊急時に備えて炊出しの訓練も行われます。



桂坂自主防災会のシンボルマーク

シンボルマークは、あかしあ自治会の吉田重光氏が創案作成されたものです。

これは、桂坂地域全体を象徴するロータリーを基調としたもので、災害を防ぐには平素から関心をもち、多くの人が「大きな目を開き、よく見る」、そして一丸となって対

処することがなにより肝要だとし
て、図案化されたものです。この
シンボルマークは、各自治会に備
えられているヘルメットの記章に
なっています。



1994(平成6)年2月14日発行

対岸の「地震」

一月十七日、ロサンゼルス郊外で起きた大地震の生々しい映像は、テレビを通して目に鮮やかに伝えられました。道路から噴き出す水に火柱、住宅を焼き尽くしてなお衰えぬ火勢。人口過密の車社会を襲った地震は、偶々その日がキング牧師追悼の休日に当り、しかも未明であつたために被害も少なくて済んだといわれています。もし

桂坂学区に防災の「核」

つくり 防災に強い町 広げよう 防災の輪

平日の昼であつたらば、家庭ではガスの使用中、また縦横に走る高速道路など基幹道路は車を満載していたはずですが、近代都市であつても容赦しません。私たちがとつては「対岸の火事」ではないわけでは

19940214
総8号

発行 桂坂自治会
自治連委
広 告

2月27日 式
結 成 式
於 桂 坂 小

自主防災の「核」

来る二月二十七日、結成式を迎える桂坂・自主防災会は、自治連合会と各種団体との連携によって組織される

組織ですが、自治会員である私たち一人ひとりがその構成メンバーです。茫然自失しがちな不時の災害などに冷静に対処するには、「連帯共同」であったる組織へ避難、救出・救助にも、また的確な情報を提供するにもやはり私たちの「核」は必要です。

ぜひ結成式にご参加をこの二、三日、「雪」に避難しました。積雪と凍結——車社会はお手上げです。結成式にお集まり下さい。

身近な火災や震災がこれに想なつて起きた場合などをも想定すると、幹線道路はもちろん生活道路の除雪作業さえ「防災」上疎かにできません。ある自治会では役員さんが出て、町内の交差点などの除雪作業をされたそうです。私たちが「自主防災」の視点からこの「雪」を考えねばならぬいでしようし、行政にもまた「多雪地帯」同様の除雪対策、土木事務所がラッセル車を常置するなどの対策を講じてもらう必要がありそうです。

私たちの「核」が出来ました。みなさんのお恵もご協力も要ります。身近なところから「防災の輪」を広げ、「防災に強い町」を作つていきましょう。

二十七日の午後二時です。

自主防災部

桂坂自主防災会には、自治会単位にそれぞれ自治会名をつけた「自主防災部」があり、規約を定めて火災・地震・風水害、その他災害に備えています。

この自主防災部は、自治会役員からなる部長・副部長ら役員のほか自治会員有志による委員によって構成されています。

また、いわゆる「防災七つ道具」も、防災部の本部が置かれている各自治会館（会館のない場合は会長宅）に、次のものが常備されています。

ボール (90cm)	1	ハンマー (3.6kg)	1
クリッパー	1	金鋸	1
綿ロープ (20m)	1	のこぎり	1
ハンディショベル	1	手斧	1
つるはし	1	フロアジャッキ (2t)	1

他に、防災部の名入りの標旗1竿、役員数のヘルメット

と腕章が配備保管されています。

各防災部は、桂坂自主防災会と連絡調整・情報交換をしながら、火災予防はじめ、災害に関する事業や防災に関する知識の普及、訓練の実施などの諸事業を行います。

しらかば自治会の自主防災部

例えば、しらかば自主防災部。主催する事業としては、防災訓練（「心肺蘇生法」の訓練）が恒例となっているほか、広報を通じて防災意識を高めること、自治会内にある屋外消火器・消火栓・貯水槽の設置個所の周知、家庭用消火器の斡旋などです。

適宜、開かれる防災会議では「隣同士の協力体制を作っておくとよい」、あるいは「災害時の緊急車両の通行に支障を来す路上駐車取締まりも防災の一つではないか」など傾聴すべき意見が出されたり、学区の自主防災会と共同実施のアンケート調査で判明した「要救出・救護」の方を「本人の了解を得た上で各班長と両隣の方へ知らせる」問題、防災部員の増員問題なども論議されたりします。



防災・防火を考える

去る9月20日、西京消防署の方のご指導、大枝消防分団のご協力の下、「防災」について考えてみました。

こう世界のあちこちで天変地異とおぼしきことが頻発するようでは、天が落ち、大地が崩れるのではないかと、あの「杞の国の人」同様に私たちが「憂い」を抱いたとしても、「杞人の憂いだ」として簡単に嘲笑うことはできません。ましてこの桂坂学区全体の「防災計画」、非常に備えての具体案が明らかにされていない現状では、町内単位で「杞憂」に促されてその対応を考えておくほかありません。

当日、参加された方は、約50人。

簡単な実験装置で、油火災の恐さをつぶさに知ることができました。熱せられた油にほんのチョットと水が入っただけで、炎は天井にまで届く勢いで火柱をつくりました。町内には、油火災の火の恐怖を直接に体験された方も何人かおられることと思いますが、ポーッと唸るや一気に燃え上がる様にはただ唖然とするばかりでした。

当日参加された方はほとんどが「起震車」に乗って、横揺れ、上下動、さらには関東大震災クラスの震動を体験されました。地震の恐ろしさを頭に思い描ける大人は、実験車でのこととはいえ、やはり表情はこわばります。ところが子どもさんはどうでしょう、たくましく？遊園地にやってきた珍しい遊具と見立てて、横揺れ、上下動もなんのその、けらけら笑いながらVサインさえ出します。いざとい

う時に、これだけゆとりをもって行動できたらなあと思っても羨ましくも思ったのですが……。

地震や風水害は今のところはまだ私たちの手ではどうにもなりません、火事は細心の注意で未然に防ぐことも、また、訓練と、日頃から頭に言い聞かせた要領などによって初期消火につとめれば大きくせすにすますこともできます。お互い火事は出さないように、また、いざという時はお互いに助けあっていきましょう。

『桂坂・しらかば自治会だより』11号(1992.10.3)

高層マンションの防災訓練

ほぶら自治会と、はなみずき自治会はいづれも高層マンションの人たちで組織された自治会で、「管理組合」が別にあって加入している点も同じです。

この2つの自治会は、防災訓練を実施するにしても高層部における出火、救出作業などを想定しておく必要があります。その上、西電工の放送設備を使用する「連絡網」に入っていないために、非常時の緊急連絡法についても考えておかねばなりません。

はなみずき自治会の自主防災部

はなみずき自治会は1997年11月、管理組合と合同で「消火・避難訓練」を実施しました。その模様と問題点を山本佳子さんが次のように書きとめています。

5階建ての集合住宅である私たち「はなみずき自治会」は今回、ロイヤル団地管理組合とともに、桂消防署の協力を得て団地内での避難訓練および消火訓練を行いました。

11月24日(日)午前10時、団地内の5階で火災が発生し1人が逃げ遅れたという想定です。訓練は、電話で実際に119番通報するところから始まり、通報に続いてハンドマイクで「避難訓練を始めてください」との呼びかけ。これを合図に、ヘルメット・腕章姿の班長が各館に散らばり、「避難訓練です。中庭に避難してください」と声をかけて回りました。

各館から避難してきた人たちが集まると、ハシゴ車が中庭に入りました。いよいよ逃げ遅れた人を救出するため、5階までハシゴを伸ばすのですが、その前にハシゴ車は四方にジャッキを伸ばしてがっちり固定しなければなりません。ハシゴ車が入るスペースがあっても、それだけではハシゴを伸ばすことはできません。ジャッキ分を含めて、少なくとも幅5mのスペースが必要とか。先日の広島における高層住宅の火災で、消防車が十分に活躍できなかった原因も、こんなところにあったのかもしれない。この団地でも、違法な駐車があれば消防車やハシゴ車が活動できないことだってあるのですから、ぞっとしてしまいます。

さて、するすると伸びたハシゴは5階に届き、逃げ遅れた人は消防署員に助けられ、無事地上に降りることができました。間髪を入れず救急隊員が駆け寄り、応急処置をしてタンカに横たえます。その後、けが人を救急車で運び出

して、避難訓練は終了です。(中略)

さて、今回の消火・避難訓練は、消防署の協力と100名近い方の参加を得て無事終了することができました。はなみずき自治会としては初めての試みでしたが、実際にやってみて、幾つかの問題点が浮き彫りになったようです。

私たちの団地には放送設備がないため、非常時、各戸への連絡はどのようにすればよいのか。お年寄りや子供だけになるお宅の把握ができるか。また、どこに避難誘導すれば安全かなど、今後の課題はたくさんあります。今回の経験を第一歩として、イザというときの備えを整えていく必要があります。そして何よりも、そのイザという時が来ないように、日頃の注意を欠かさないようにしなければ、と心に言い聞かせた一日でした。

『桂坂』37号(1997.1.1)
「消火・避難訓練」



ほぶら自治会の自主防災部

ほぶら自治会では1999年9月4日、管理組合、西京消防署、桂坂消防分団と共催で「消火・避難訓練」を次のような訓練内容で実施しています。

あるお宅から出火したとの想定のもとに訓練開始。「火事だ!」と大声で住人に知らせると共に火元の家から119番通報。消火器と屋内消火栓のホースを伸ばし初期消火。参番館のプレイロットに避難誘導して人員の確認。到着した消防隊に火災の状況など情報を提供するという順序で訓練は進みました。その後、消防署員から消火と避難に関する注意、消火器の扱い方などの指導を受けました。

自主防災部では、「団地独自のシュミレーションを前提にした、より現実的なプランの作成、避難経路・誘導体制の整備、上階からの脱出訓練」や「全住居者への非常放送手段の確保、高性能スピーカーなどの設置」といった「火災・災害時における実質的な活動計画」を含む防災規約づくりが検討されています。

団地周辺の不法駐車

この両自治会を悩ますのは、団地周辺の不法駐車です。

消火栓・貯水槽の半径5m以内の駐・停車は、道路交通法で厳しく禁じられています。この不法駐車車両が消火栓などの使用を妨げ、消火を遅らせることがあります。また、緊急車両の通行の妨げにもなります。

さらに、マンションで問題なのは、高層部の救出活動です。3階以上には必ず赤い逆三角形の印をつけ、消防隊の進入口の所在を示しておかねばなりません。そこにハシゴ車のハシゴが伸びて消火・救出活動が行われるからです。

サンシティマンションの場合は、中庭にハシゴ車が入るのは無理のようで、周辺の道路を当てにするほかありませ

ん。そのため、どの棟にも周辺道路に面して進入口がありますから、ハシゴ車が道路に足をのぼして固定するだけのスペースがないと、消火・救出活動はできません。

防災上も「不法」

団地の両自治会や管理組合が、周辺部の不法駐車に神経を苛立たせ、三角帽子状のコーンを管理組合費で購入してまで道路わきに置いて不法駐車をなくそうとされるのも、単に通行する人の安全のためだけではなく、こうした防災上の配慮に基づいてのことなのです。

私たち桂坂学区民の交通のマナーのみならず、防災意識も問われているようです。

阪神淡路大震災に対する

桂坂の支援活動

1995（平成7）年1月17日の地震の惨状を知り、桂坂自治連合会は20日、緊急の役員会を開き、救援対策を協議しました。

現地は地獄そのものの惨状で、一刻も早く救援の手を差しのべなければなりません。今は考えているような時ではない、私たちが出来ることを早期に実施することが肝要だと役員会で判断し、役員総意の下に衣類を中心とした物資の救援活動を実施することになりました。

衣類は、防寒着・上着・ズボン・スカート・男女子供服などで、洗濯した清潔なもの。肌着類は新品に限る、などの一応の基準を示し、桂坂全域のみなさんに放送を通して協力要請を行いました。

各自治会は、自治会館を拠点に皆さんからの救援物資を受入れ、さらに品物の仕分け、ケースへの詰込み、封印、数量の表示等、連日深夜に亘り作業は続行されました。

そして24日早朝には搬出準備が全て整い、京都市のご指導の下、桂坂自治連合会の名を付して一括、京都府向日町地方振興局へ搬入することになりました。

トラック・ワゴン車を提供して下さった方をはじめ家用車で乗りつけられ、運搬作業に従事される人々の輪は次第に広がり、10数台の車が列をなして向日町へ3往復、全物資を無事届けることができました。

その数は、実に521梱包。当日は平日で、積み込みや運転の主力部隊は女性会の方々、その活躍ぶりには頭が下がる思いでした。

それにしても救援活動を決定後わずか3日で、一連の大作業を完了し、そのスピード、パワーの凄さに驚かされました。陰で支えていただいた方々の力も大きかったと思います。

また、今春に設立予定の「けやき自治会」や東部地区の「峰ヶ堂」の方たちも積極的に参加していただき、その連帯感の深さに心強さを感じました。

菊池自治連合会長の「阪神大震災に学び、災害に強い街づくりを」（『桂坂』18号1995.2.5）に拠る

桂坂——安心のまちづくりを

私たちの住むこの桂坂は、西山断層と檜原断層に挟まれた丘陵地にあります。もし西山断層が動き災害をもたらしたとすれば、おそらく9号線は大きな被害を受けて交通網は遮断され、もちろん桂坂へのライフラインも寸断されて桂坂は陸の孤島となるおそれがあります。これまでの数度の、たかだか14.5cmの「大雪」で孤立のみじめさはすでに体験済みです。

孤立すれば、惨状の中にあつて自ら打開の路を模索しながら救援救護の活動を行わねばなりません、外部からの救援はひたすら待つほかありません。

今は車社会、「車」は人を変えたりもします。阪神大震災では、車をもつもの、特に自家用車が我先にと物資調達に走って道路を塞ぎ、緊急輸送車や救急車などの通行を妨げたようです。「陸の孤島」と化した桂坂では、菊池自主防災会会長の言に見られるように「桂坂の人同士で助け合わなければ、誰も助けてはくれません。〈発生後、せめて3日間は生き耐えられる準備〉を各家庭で講じておくことが大切」（『桂坂』28号1995.11.12）なことになります。

救援物資は空から届くでしょう。「避難収容所」では、自治会館に対策本部を置く自主防災会の組織が「核」となり、訓練で培われた力を発揮して被害の掌握、外部との連絡に当たるとともに情報伝達や炊出しなどを行い、救援物資の配給にしても整然と行われるはずで。

こうした時こそ「楽は人の和に在り」という榊本市長の揮毫された文言のように、私たち住民の見事な合奏でもって事態を乗り切る必要があるでしょう。

桂坂には他に類を見ないロータリーがあります。大きな交差点でありながら信号はありません。ただ運転者の相互信頼とルールを守るというモラルに期待をおいた、優雅な交差点です。桂坂に住む私たち、平常時の小さなこころがけが積み重ねられて非常時にそれが大きく活きる、人にも自然にも優しい桂坂をつくっていききたいものです。

「優良自主防災部」受賞者

桂坂自主防災会	京都市消防局長表彰	1996.3.3
桂坂自主防災会	京都市長表彰	1998.3.1
広報『桂坂』編集部	西京消防署長表彰	1998.3.1
かえで自主防災部	京都市長表彰	1999.3.7
しらかば自主防災部	京都市消防局長表彰	2000.3.7
さつき自主防災部	西京消防署長表彰	2000.3.7



真冬の巣箱 山の手倶楽部 坪井孝二氏

資料篇

桂坂学区〔西京区〕の年表

1983—1999

〔註〕桂坂学区の団体、施設などの会議やイベントは、1999年だけは実施されたもののうち主なものを記載して、年間の行事が概観できるように配慮しました。

西 暦	内閣総理大臣	京都市長	桂 坂 〔 西 京 区 〕	京都市・国内	世 界
1983 昭和58	中曽根康弘	今川正彦	西部都市開発ニュータウン（西京桂坂）の起工式造成開始（7）		
1984			国民年金会館（エミナス）オープン（4）	平均寿命男女とも世界一（男74.2歳、女79.78歳）	
1985			「桂坂」〈建築協定——一人協定の下に〉順次販売開始（11）	男女雇用機会均等法成立（5）	
1986			「桂坂」入居開始（4） 新新小学校に国道9号線を横断して通学開始 洛西福祉会の設立（7）西養護学校・特養老人ホームの設置 市バス桂坂センターまで開通（10）	社会党委員長に土井たか子氏就任（9）	ソ連、チェルノブイリ原発事故（4）
1987			9号線自動車専用道路の完成 洛西福祉会「杏掛寮」開設（4） 洛西総合庁舎開庁（4） 「日文研」創設（洛西センタービル内に仮事務所）（5） 西友桂坂店オープン（6） 夏祭り〈西洋環境主催〉（8） 桂坂文化フォーラム'87（9） かえで自治会設立総会（10）	京阪三条まで地下化 国鉄分割民営化、JR11社発足（4） 利根川進、ノーベル医学生理学賞授賞（12）	世界の人口50億人突破（7） ブラック・マンデーNY株式市場大暴落（10）
11	竹下 登				
1988			老ノ坂バイパス開通（2） かえで自治会発足（4） しらかば自治会発足（5） かえで自治会クリーン大作戦（6） 小・中学校設立準備委員会発足（6） かえで自治会「夏祭り」（8） さつき自治会設立準備委員会発足（11）	マル優廃止（4） 瀬戸大橋開通（4） 京都国体開幕（9） 第2外環状ルート案発表（9） リクルート疑惑が問題となる（10）	イラン・イラク戦争（8） ソウル五輪（9/17～10/2）
1989 平成元年			大枝小から分離桂坂小学校開校（4） 樫原中から分離大枝中学校開校（4） 授産園・療護園の開園（4） さつき自治会発足（4） 自治連合会設立準備委員会発足（4） 洛西河川を美しくする会発足（6） 桂坂自治連合会大石洛西支所長等の出席のもと発足合意（7） 湯浅忍氏自治連合会長に就任（8） 桂坂自治連合会「発足届」（8） あかしあ自治会発足（11）	昭和天皇没（87）、明仁親王即位（1） 平成元年スタート（1） 消費税スタート（4） 参院選自民大敗、与野党逆転（7） 弥生時代の環濠集落、佐賀県吉野ヶ里遺跡が注目を集める（3） 衛星放送、本放送を開始（6） 坂本弁護士一家失踪拉至疑惑で公開捜査（11）	中国、天安門事件（6） ベルリンの壁崩壊（11）
6	宇野宗佑				
8	海部俊樹				
1990		田辺朋之 8/30	第1回生産展〔授産園〕（3） ひいらぎ自治会発足（4） 洛西福祉会「デイサービスセンター」開設（5） 京都交通桂坂乗入れ（5）京都市バス桂坂小学校前まで（5） 第1回桂坂自治連合会総会（5） 「日文研」の施設の一部桂坂に完成（10） 自治連合会・西京保健所・衛生局環境保全局による「生活騒音に関する意識調査」〈第1回〉（10/20～11/10） 洛西ふれあい祭（桂坂小）（11） 環境騒音等測定（11/13～15） 第1回桂坂統一ふれあいクリーンデー（11） 少年補導委員会発足（12）	大学入試センター試験実施（1） 気象協会、スギ花粉飛散状況予報始める（2） 大阪で花博開幕（4）	独統一（10）
1991			「騒音対策モデル事業に関する調査」〈第2回アンケート〉（2） 体育振興会発足（2） 「住みよいまち「桂坂」の静かな街づくり宣言」および「モデル事業報告書」の全戸配布（3） ほぶら自治会・つばき自治会発足（4） 野鳥園オープン（5） 第2回桂坂統一ふれあいクリーンデー（5月と11月の第2日曜日に実施を決定） 7自治会の「夏祭り」（8/17・24・25） 行政懇談会（9）体育祭実行委員会第1回区民体育祭（10）	1991年経済白書、いざなぎ景気に並ぶ平成景気と認定（2） 長崎県の雲仙・普賢岳で大規模火砕流発生（6） 株価大幅下落（7） バブル崩壊（'90～10）	湾岸戦争（1） ソビエト連邦消滅（12） ノーベル平和賞にアウンサン・スーチー氏
11	宮沢喜一				
1992			洛西支所「市民相談室」を「地域振興室」と改称（4） 山の手倶楽部発足（4） 更生園開園（4） 西京社会福祉協議会『陽だまり通信』発行（5） 第2回学区区民体育祭（10）		PKO協力法成立（6） バルセロナ五輪（7～8） スペースシャトル・エンデバーに毛利衛氏（9）
1993			菊池潤治氏自治連合会長に就任（4） はなみずき自治会発足（4） 防犯連絡所を学区内に20ヶ所設置（8） 「オーケストラと遊ぼう」〈後の「カザラツカコンサート」〉（10） 3者〈住宅生協・西洋環境開発・連合会〉連絡会（10） 西京区と市政懇談会（11） 自主防災会の設立準備に入る（11）	冷夏、コメ大凶作（6） 北海道南西沖地震M7.8（7） 非自民連立内閣成立（8）	第42代米大統領にクリントン就任（1） ECの統合市場がスタート（1）
8	細川護熙				
1994			桂坂自主防災会発足（2） 桂坂郵便局開局（3） 空ピンの分別回収のモデル地区に（3） 東桂坂より桂行きのバス運行（3） 京都中央信用金庫桂坂支店開設（4） 桂坂学区女性会発足（5）	松本サリン事件（6） 関西国際空港（大阪・泉州沖）開港（9） 大江健三郎氏ノーベル文学賞授賞（10）	ロサンゼルス地震M6.6（1） ドーバー海峡を結ぶユーロトンネル開通（5） 向井千秋氏、スペースシャトルコロンビア号で宇宙へ（7）
4	羽田 孜				

1994	6	村山富市	桂坂の各種団体長との懇談会〈のちの「桂坂みどり会」〉(5) ふれあい会館開館(6) 統一夏祭り(8) 自主防災会リーダー研修(9) 名月観賞の夕べ(9) 天皇・皇后「日文研」に行幸(11) 第1回自主防災総合訓練(11)	郵便料金値上げ(封書80円、はがき50円)(1) 社会党委員長、村山内閣発足(6)	
1995			業者との3者懇談会(1) けやき自治会発足(3) 桂坂みどり会(6) 桂坂公園誕生(9) 西京区「交通安全のつどい」でパレード(9) 洛西ふれあい祭り(11)	阪神大震災M7.2(1) 東京で地下鉄サリン事件(3) 簡易型携帯電話(PHS)サービス、首都圏等で開始(7)	
1996	1	橋本龍太郎 榎本頼兼	桂坂自主防災会「消防局長賞」を受賞(3) 榎本新京都市長誕生(2) にれのき自治会・さくら自治会発足(4) 桂坂地域女性会(4) 「ゴミ減量」モデル地区に指定(6)	岡山県邑久町で病原性大腸菌O-157検出(6) 薬害エイズ事件でミドリ十字強制捜査(8) 初めての小選挙区比例代表並立制による衆院選、自民党復活(10) たまごっち発売(11)	オリンピック100周年記念大会開会(アトランタ)(7)
1997			桂坂小学校大文字駅伝で3位入賞(1) 桂坂消防団員の募集(2) 洛西支所に福祉事務所を開設(6) 西洋環境開発建設大臣表彰(6) 桂坂保育所・児童館の建設ワークショップ方式で(6) もみのき自治会発足(6) 「府環境保全功労者」としてかえて自治会・あかしあ自治会表彰(6) 大枝消防分団桂坂班発足(8) 統一夏祭り〈O157問題に因り自粛傾向〉(8) 西京ゆめフェスティバル(10) ふれあいの里に消防互助会発足(11)	茨城県東海村動燃再処理工場で爆発事故(3) 消費税5%に引き上げ(4) 温暖化防止京都会議(12) 介護保険法成立(12)	香港返還(7) ダイアナ妃事故死(8) マザーテレサ(9)
1998	7	小瀬恵三	桂坂小学校大文字駅伝で2年連続3位入賞(2) 桂坂自主防災会に「市長賞」(3) 大枝交番業務開始(3) 落成式(4) 市民憲章の推進団体として桂坂自治連合会・つばき自治会・ひいらぎ自治会の3団体表彰(6) 桂坂自治会館・消防器具庫地鎮祭(6) 桂坂消防分団大枝分団より独立(10) 大枝中学校開校10周年記念式典(11) 桂坂(小学校東側)に初めての信号機(11) 桂坂自治会館・消防器具庫新築落成(12) 沓掛寮内科診療所を拡充(12)	三角緑神駅鏡大量出土、奈良黒塚古墳(1) 長野冬季五輪最多の72ヶ国・地域が参加(2) パラリンピック(3) 明石海峡大橋開通(4) 失業率、初の4%突破(5) 参院選で自民惨敗。小瀬内閣発足・毒入りカレー事件発生、4人死亡(7) 夏の甲子園で京都成章横浜高校に破れ準優勝(8) 橋本首相辞任(7) 中教審学校の裁量権を認める(9) 消費税還元セール、全国に広がる(11)	インド・パキスタン相繼いで核実験、「核有国」宣言(5)
1999			桂坂小学校大文字駅伝で準優勝(2) かえて自主防災部市長表彰(3) 桂坂小学校にコンピュータ等寄贈(桂坂10周年記念事業として)(3) 桂坂自治会館・消防器具庫一般公開(3) 自治会館に掲げる榎本市長揮毫の扁額「楽在人和」除幕式(3) くすのき自治会発足(3) 9号線沓掛町に感應式信号機を設置(3) 桂坂保育所・児童館〈かざらっこ〉竣工式(3) 自治会館使用開始(4) 桂坂小学校校庭に夜間照明設備点灯式(4) 西京消防分団山林火災防衛訓練〈大枝山町1番251の山林にて〉(4) 第18回統一ふれあいクリーンデー(5) 第7回桂坂みどり会(5) ふれあい会館第1回フェスタ 授産園・更生園第5回陶芸祭(5/22・23) けやき自治会西京区の市民憲章推進者として表彰(5) 防犯推進委員協議会など御陵坂ローリング族のパトロール(6) 地域女性会使用済み食用油の回収開始〈月の第3土曜〉(6) 少年補導委員会サマーキャンプ〈青葉山麓公園グリーンスポーツセンターキャンプ場〉(7/31・8/1) ロータリーに横断歩道(8) 療養園夏祭り(8) 献血会(8) 桂坂統一夏祭り(8) 創立10周年記念事業実行委員会〈ふれあい会館〉(8) 桂坂小学校に「ふれあいサロン」開設(9) 桂坂の道路に4ヶ所、「桂坂中央通り」「桂坂南本通り」「桂坂北本通り」「桂坂西通り」の標識設置(9) 交通安全推進協議会10周年記念事業の一環として「高齢者ドライバー研修会」開催(9) 第9回〈学区創立10周年記念〉桂坂学区民体育祭(10/11)・前夜祭〈聖火リレー〉(10/10) 学区創立10周年記念合同作品展〈桂坂山の手倶楽部・地域女性会〉(10/16・17) 学区創立10周年記念式典・中路融人画伯『松籟』除幕式(桂坂小学校に寄贈)・「ふれあい会」(10/24) 第6回自主防災総合訓練(11) 桂坂小学校創立10周年記念式典(11/12) 第7回カザラックコンサート・同窓会(11/13) 地下鉄東西線の西伸ルートに桂坂駅を設置する請願書提出(11) 第19回統一ふれあいクリーンデー(11) 行政懇談会(11)	国内初、脳死臓器移植が実施される(3) 東京都知事に石原慎太郎氏、大阪府知事に横山ノック氏当選(4) 佐渡の保護センターでトキ誕生名は「優優」(5) 東海村の核燃料工場JCOで臨界事故発生(9) 被曝の社員入院先で死亡(12)	EUの単一通貨「ユーロ」誕生(1)
2000		榎本頼兼	桂坂教育後援会設立(1) 桂坂教育後援会会員募集(2/13~20)	京都市長選挙で榎本現市長再選(2)	コンピュータ「2000年問題」大きな混乱なし(1)

桂坂小学校観測所
『気象観測報告』

桂坂小学校観測所
気象観測報告

第2報

1989年4月～翌
年(桂坂の気象について)
1990年9月

桂坂小学校科学クラブ

この観測所は桂坂小学校内にあり、開校間もない1989(平成元)年9月より観測が始められました。

観測は、寺尾公教諭の指導のもと科学委員会の児童によって毎日1回(日・祝日は除く)朝9時30分に行われ、気温・湿度は自記温・湿度計の3・9・15・21時の平均をとり、地中温度は地下1mを9時30分に観測したものです。この結果は、1989年9月より1993(平成5)年12月までの観測データ・報告として6回にわたり冊子で公にされました。

校舎西側に設置された百葉箱と観測機器(乾湿計・最高温度計・最低温度計・自記温度計・自記湿度計・アネロイド気圧計・毛髪湿度計・地中温度計)はPTAの援助によるものです。

次の「報告」(抜粋)は、この科学委員会の児童が約4年にわたって「桂坂の自然」を観測したデータであり、クラブ活動の貴重な記録でもあります。学区創立10年の記念にこの「貴重な記録」を留めておきたいと思います。ただ、スペースの都合で委員名とグラフの一部は割愛せざるをえませんでした。

桂坂の気候

1度寒い! 桂坂の冬

桂坂は、標高161.53mの高台にあり、北と西以外には山が無く、大変見晴らしが良い。桂坂が高台にあることから、冬は京都市の中心より寒いように思われている。月の平均気温が1番低かった1月のデータをもとに調べてみよう。それぞれ最高気温、最低気温、平均気温を折れ線グラフに表したものである。予想されたように、3つのグラフ[参考](省略)から桂坂の方が、約1度ずつ京都市中心地より低いことが分かる。特に気温が低いのは、雪の日や雪が降るような天気の日である。

	桂坂	京都市
最高	7.2	8.2
最低	0.4	1.0
平均	3.4	4.4

では、あまり差がない、つまり、京都市内と変わらない天気は、と見ると、晴れの日が多いようである。どうやら桂坂の冬は、晴れの日が市内とあまり変わらないが、雪の日は冷え込む傾向にあるようである。今一つ気温を下げた原因として、「ボラ」現象が考えられるが、この現象は、峠のような山と山の間にはさまれた所を吹き降りて来る時に起こる局地風で、低温・低湿・強風という特徴を持っている。桂坂の地形は、この現象が発生しそうな地形のように思えるのである。

1度低い! 桂坂の春

4月から6月までの月例平均気温をあげて、京都市中心部と比べてみると、

4月	桂坂……12.3℃	京都……13.8℃
5月	桂坂……17.4℃	京都……18.6℃
6月	桂坂……23.3℃	京都……24.2℃

やはり春の訪れは、京都中心部より遅いといえる。気温の差が約1度低く、桂坂の方が寒くなっている。

1度涼しい! 桂坂の夏

桂坂の地は、京都中心部より標高にして約100メートルも高い。それに、桂坂の周囲は森林や竹林が多く涼しいのに対し、京都の中心部は建物が密集し、コンクリートの照り返しやアスファルトの熱の蓄積がある上、クーラーからの熱の放出もあって、都会独特の暑さがある。以下の8月のグラフから分かるように、桂坂の方が1度涼しい結果となっている。また、最高気温も最低気温も1度低くなっている。もっと涼しいのではないかと予想していたが、それほどでなかったことから考えると、桂坂の地が日当たりの良い南向きの傾斜地にあるからなのかもしれない。(「8月の平均気温比較」のグラフは省略)

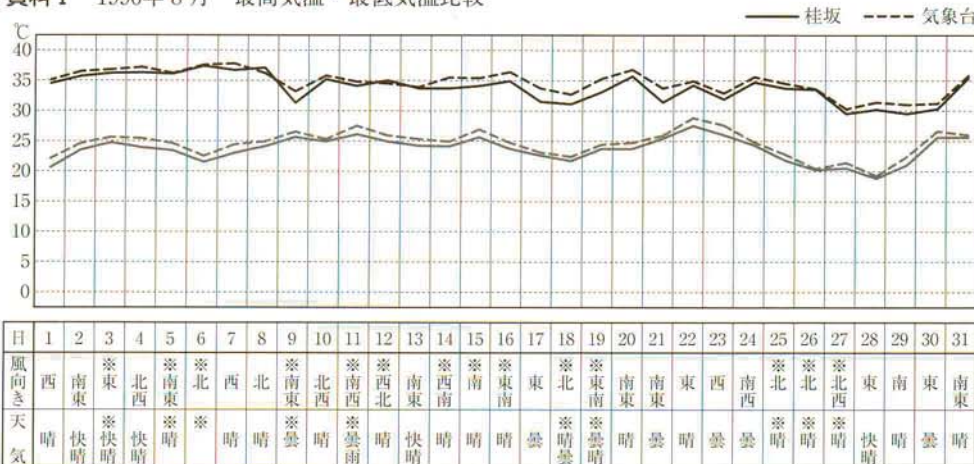
夏の気温の特徴

次に、夏の気温の特徴的な点を探してみよう。次の資料[I]を見てほしい。最低気温の差が1度ずつ平均してあるのに対して、最高気温の差は比較的变化が大きいといえる。その起因となるものは、天気ではなく、風の影響によるものと考えられる。

それは、桂坂の最高気温の方が2℃から3℃低い14日から21日は南よりの風が吹いているが、気温の差がない6日、12日、26日は、すべて北よりの風が吹いているからである。

桂坂小学校科学委員会『気象観測報告』第2報(1990.9.11)

資料I 1990年8月 最高気温・最低気温比較



※印は観測していないため、京都地方気象台のデータを使用した。しかし、このような使用は、特に風向について、正しくない。場所が変われば風向も変わるうえ、桂坂の観測方法は一日の中にある一時だけの観測値であるからである。一日の風向の平均した値でなければ、確かなデータとしての使用はできない。

気温の特色と風向との関係

第2報の「今年度の研究テーマ設定理由」で述べたように、桂坂の冬と夏は、北よりの風に影響をよく受けているように思える節がある。それを明らかにするという目的での今年度の研究であった。

桂坂の冬

京都市の中心との気温を比較した下の2月のグラフ（「1991年2月平均気温比較」省略）を見ると、今年の冬も昨年の冬と同じ点で似ていることが分かる。それは平均気温の差が去年は1℃、今年が1.3℃と似ていることはさて置き、桂坂の方が寒い日ほど京都市中心に比べ気温がより低いという傾向である。それらの日の風向について見ると、昨年冬と同様、北よりの風の場合に低いことがなにか言えるように思う。昨年の冬の場合も、積雪がある日に気温が低くなっていることで納得がいくのである。やはり、〈北よりの風の影響をよく受ける桂坂〉ということが言えるであろう。

1年間(1990年)の桂坂の気温

以下の3つのグラフ（「最高」「最低」気温は省略）が1年間を通して桂坂と京都市中心地とを比較したものである。

年平均気温について見れば、桂坂は15.4℃、京都市中心地が16.3℃であり、桂坂の方が0.9℃低い。これは、第2報とほぼ同じであり、約1度の差があるということがより実証された形である。

季節別にみれば、〈夏は涼しく冬は寒い桂坂〉という気候の特色が出てくるのではないだろうか。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
桂坂	12.3	17.4	23.3	26.7	28.0	24.0	17.3	12.9	6.9	4.2	3.0	8.3
气象台	13.8	18.6	24.2	27.6	29.0	24.7	17.9	13.7	7.7	5.1	4.3	9.4

桂坂小学校科学委員会「気象観測報告」第3報（1991.4.20）

桂坂の湿度

湿度の高い桂坂

桂坂の地は、京都市の郊外、大枝山のすそのにあり、西と北側にはすぐ山が迫っている。桂坂は、山々の森林が近くにある地形であることや、京都市の郊外にあることから、湿度もさまざまな影響を受けているだろうと思われる。

都市部と郊外の湿度の違いについて、『気象2』伊藤博著では、「年平均にすると約6%郊外の方が高い」。その理由として、「都市域では、気温が高いため、郊外と比べてたとえ空気中の水蒸気量が同じでも湿度は低下する。その上、道路が舗装され排水溝が装備される反面、樹木や草地、露出した土壌面が減少するため、降った雨は排水溝に流れ込み、地表面はすぐ乾燥する。植生からの蒸散も少ないので、都市の大気中に含まれる水蒸気量は郊外の田園地域と比べて減少しがちである」。また、森林内の湿度は、「樹木の葉面からの蒸散作用により水蒸気が多く湿度が高い」と述べている。

以上のことから、桂坂は京都市の郊外にあるため、京都市都市部より湿度が高くなっているであろうと思われる。また、多少なりとも、北や西側の山々から水蒸気の影響を受けていることが予想される。

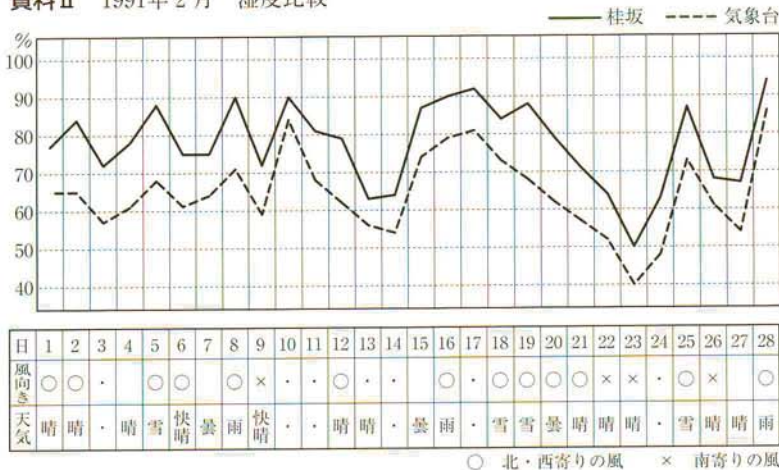
下のグラフ[Ⅲ]は、1991年の桂坂と京都地方气象台のある都市部との、湿度を比較したものである。やはり、郊外にある桂坂の方が湿度が高く、その差は年平均10パーセントであった。

さらに、森林の水蒸気の影響を受けるとすれば、風によって運ばれて来ることだろうと推測し、それをグラフと表にまとめたのが、次のものである。資料Ⅱは、月の湿度差が一番大きい2月をとりあげた。湿度差の少ない雨の日を除いて見ると、北と西寄りの風の日には湿度差が大きく、南寄りの風の日には湿度差が小さいことに気が付く。これはやはり、山の影響、つまり、森林から蒸散した水蒸気を多く含んだ空気が風によって運ばれて来たというふうと考えられるのではないだろうか。これに加えて、北西にある老ノ坂に流れる小畑川からの湿度の影響も考えておきたい。

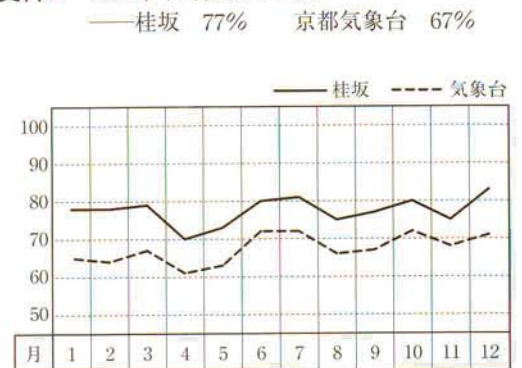
一般的に、冬は空気が乾燥して火災の危険性が高いと言われる。しかし桂坂は冬も湿度がそれほど低くないということは、乾燥して火災が起こる危険性は都市部よりは低いということである。

桂坂小学校科学委員会「気象観測報告」第4報（1992.2.29）

資料Ⅱ 1991年2月 湿度比較



資料Ⅲ 1991年平均湿度の比較



消防団器具庫・自治会館建設寄付金集計表

企業および篤志家	22,090,000円
自治会	7,211,500円
各種団体	594,000円
合計	29,895,500円

○ 企業および篤志家（敬称略）

株式会社 横綱	6,000,000	イズミヤ株式会社	4,000,000
京都労働者住宅生活協同組合	2,300,000	特殊法人 日本勤労者住宅協会	2,000,000
株式会社 京都住宅サービス	2,000,000	株式会社 今井建設	2,000,000
株式会社 青木建設大阪本店	1,000,000	京都労働金庫	500,000
大林春子	500,000	京都中央信用金庫	300,000
株式会社 セカンド	200,000	積水ハウス株式会社京都支店	100,000
ミサワホーム近畿株式会社京都支店	100,000	京都パナホーム株式会社	100,000
糀田税務会計事務所	100,000	財団法人 日本漢字能力検定協会	100,000
学校法人 洛新精華学園	100,000	エスパイエル株式会社	100,000
株式会社 西電工	100,000	大和ハウス工業株式会社京都支店	100,000
松芝政雄	100,000	京都桂坂郵便局	50,000
株式会社 江戸川	50,000	京都魚国株式会社	30,000
MK株式会社	30,000	株式会社 エヴァグリーン	30,000
宮尾歯科医院	30,000	京都交通株式会社	30,000
株式会社 大成白蟻工業	30,000	株式会社 中央漆器	10,000

○ 桂坂学区自治会

桂坂学区自治連合会本部	535,000	桂坂かえで自治会	882,000
桂坂さつき自治会	736,000	桂坂しらかば自治会	539,000
桂坂はなみずき自治会	523,000	桂坂あかしあ自治会	455,000
桂坂ぼぶら自治会	368,500	桂坂けやき自治会	358,000
桂坂ひいらぎ自治会	737,000	桂坂つばき自治会	630,000
桂坂くすのき自治会	271,000	桂坂にれのき自治会	540,000
桂坂もみのき自治会	386,000	桂坂さくら自治会	251,000

○ 桂坂学区各種団体

桂坂社会福祉協議会・桂坂民生児童委員協議会			171,000
桂坂地域女性会	118,000	桂坂防犯推進委員協議会	114,000
桂坂山の手倶楽部	76,000	桂坂小学校PTA	70,000
桂坂交通安全推進委員会	33,000	桂坂少年補導委員会	12,000

○ 大口寄付者【3口以上】名簿（敬称略）

桂坂学区自治連合会本部							
菊池 潤治	100,000	田畑 昭三	50,000	鈴木 文雄	50,000	加藤 貞雄	50,000
西田 貢	10,000	日比野俊之	10,000	下川喜久雄	10,000	早川 俊英	10,000
谷口 隆史	10,000	大倉登喜子	10,000	石塚 毅	10,000	飯田 章	10,000
桂坂かえで自治会							
岩田久二郎	100,000	佐々谷 潔	10,000	湯浅 仁司	10,000	金岡 秀享	10,000
永江 望昭	10,000						
桂坂さつき自治会							
川上 惇	50,000	長倉 陽一	30,000	道端 進	10,000	佐々木俊一	10,000

坂本 正壽 10,000	鈴木 晃司 10,000	北村 重雄 10,000	寺田 武彦 10,000
細川 和明 10,000	湯浅 保 10,000		
桂坂しらかば自治会			
大森 曠 30,000	谷口 栄一 10,000	日比野重夫 10,000	中井 幸治 10,000
松井 清文 9,000	谷 龍彦 9,000	高橋 敏行 9,000	近藤 二郎 9,000
竹村 繁利 9,000			
桂坂はなみずき自治会			
野田 登 15,000	山岡左知子 10,000		
桂坂あかしあ自治会			
乾 忠義 30,000	基太村博美 20,000	岩本 致二 10,000	青井 勇 10,000
倉田 容 10,000	船越 彰 10,000	宮尾 広一 10,000	板東 成彰 9,000
桂坂けやき自治会			
高木 明 30,000	上塚 正男 10,000	尾崎 裕之 10,000	星原 俊二 9,000
桂坂ひいらぎ自治会			
鈴木 俊佑 10,000	布本和久 10,000	内田順己 10,000	田村禎啓 10,000
桂坂くすのき自治会			
竹本 邦巨 20,000	岡田 啓夫 10,000	佐々 嘉孝 10,000	小林 隆志 10,000
天野 昭 10,000	横山 光弘 10,000	亀川 義弘 9,000	検校 正昭 9,000
石田 哲章 9,000	臼井恵美子 9,000		
桂坂にれのき自治会			
中江 淑 15,000	田中 悟 10,000	河野 昭治 9,000	城下 賢司 9,000
喜多 泰史 9,000			
桂坂もみのき自治会			
大西 健史 30,000	綱島 博 10,000	坂本 全 10,000	池田 良一 10,000
江本 洋 9,000			
桂坂社会福祉協議会・桂坂民生児童委員協議会			
湯浅 忍 50,000	酒井 厚 30,000	林 正信 15,000	平岡 達雄 15,000
山口 朝弘 15,000	木村 明夫 15,000	丸橋 晴代 10,000	
桂坂地域女性会			
中崎千嘉子 10,000	長岡 香 10,000	山田まゆみ 10,000	岡本多美子 10,000
桂坂防犯推進委員協議会			
井上 照雄 12,000	梶間 俊郎 10,000	基太村博美 10,000	加藤 實 10,000
藤井 潔 10,000	中川マスコ 10,000	植村 淳二 10,000	西村 明 10,000
中谷 敏清 10,000	佐橋 能理 10,000	柳 政植 9,000	
桂坂山の手倶楽部			
松本 正二 15,000	立野 和之 10,000	山本 昭 10,000	世木 俊一 10,000
桂坂小学校PTA			
片山 健次 30,000	琴浦 良子 10,000	千頭 宗子 10,000	稲垣 恵子 10,000
高矢 和宏 10,000			

○ 桂坂学区創立10周年記念事業特別寄贈者（敬称略）

日本画【松籟】[100号] 1点
 電子計算機 10台
 電子計算機 2台 ソフトウェア 1式
 漢字教育用ソフトウェア [6種] 90点
 金100,000円

日展理事 画伯 中路 融入
 京都コンピューター学院 学院長 長谷川靖子
 ネクストウェア株式会社 代表取締役 豊田 崇克
 財団法人日本漢字能力検定協会 理事長 大久保 昇
 桂坂体育振興会

自治連合会役員・自治会長・自治連合会委員名簿

役 職	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
会 長		湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍
会 長 代 行			南部喜八郎	南部喜八郎	
会 長 代 行			米田 和雄	米田 和雄	
副 会 長		米田 和雄	田畑 昭三	菊池 潤治	菊池 潤治
副 会 長		後藤 正幸	大森 曠	大野 和之	岸 隆二
副 会 長			鈴木 章司		
副 会 長			森田 博		
副 会 長			野口 修		
事 務 局 長		松尾 隆夫	松尾 隆夫	松尾 隆夫	安田 克敏
会 計		田邊 尚士	田邊 尚士	田畑 昭三	田畑 昭三
会 計				田邊 尚士	飯田 章
庶 務				藤木 弘	倉橋順一郎
庶 務				中村 博	加藤 貞雄
庶 務					皆本 幹雄
事 務 局 次 長		御石 浩三	森井 博一	森田 啓三	木ノ下勝巳
事 務 局 次 長		南部喜八郎	河合 公平	安田 克敏	石田 晋三
事 務 局 次 長			福村 喜之		
事 務 局 次 長			安田 和正		
事 務 局 次 長			武田 正男		
監 査 役			小林 健一	小林 健一	小林 健一
監 査 役			御石 浩三		田邊 尚士
相 談 役					南部喜八郎

役 職	昭和63年	平成元年	平成2年	平成3年	平成4年
かえで自治会長 自治連合会委員	湯浅 忍	湯浅 忍 小林 健一	田畑 昭三	田畑 昭三 前川 武宣 橋本 篤也	松尾 隆夫 坂本 雄二
しらかば自治会長 自治連合会委員	浜辺 博	米田 和雄 盛重 登	大森 曠	菊池 潤治 高橋 敏行 谷口 栄一	加藤 貞雄 木村 明夫
さつき自治会長 自治連合会委員		後藤 正幸	南部喜八郎	藤木 弘 越久村真一 鶴蒔 静男	倉橋順一郎 原田 光佑
あかしあ自治会長 自治連合会委員			森田 博	森田 博 森田 博 安田 和正	横山 光広 横山 光広
ひいらぎ自治会長 自治連合会委員			野口 修	立野 和之 石田 昭子 細川 和子	飯田 章 西川 国夫
ほぶら自治会長 自治連合会委員				中村 博 渥美三十男 内田 賢穂	石田 晋三 島田 健
つばき自治会長 自治連合会委員				安田 克敏 秋山 武久 水野真知子	皆本 幹雄 岡田 寛出
はなみずき自治会長 自治連合会委員					野田 登

役 職	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
顧問	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍
会長	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治	菊池 潤治
副会長	飯田 章	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三	田畑 昭三
副会長	田畑 昭三	若林 実	梶田 博	井上 照雄	川上 惇	細川 和子	石塚 毅
事務局 長	田邊 尚士	基太村博美	基太村博美	基太村博美	基太村博美	鈴木 文雄	鈴木 文雄
会計	野田 登	山田 邦和	田村 禎啓	佐橋 能理	細谷 修三	細谷 修三	細谷 修三
会計		木ノ下勝巳	木ノ下勝巳	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之	日比野俊之
広報				木ノ下勝巳	木ノ下勝巳	木ノ下勝巳	
自治会館 担当							細川 和子
自治会館 担当							山奥由美子
防犯		鹿野 準一	鹿野 準一	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎	梶間 俊郎
防災	山田まゆみ						
防災	佐野正次						
総務	基太村博美	柳原 徹	佐川 公也	西村 明	城下 賢司	平手 謹一	阪本 健
総務					南郷 美紀	五十嵐幸夫	知念 章
庶務		中川 啓三	桃井 修	藤井 潔	池田 一照	青山 俊夫	伊藤 光雄
庶務						木田 孝一	中西 康人
体育	木ノ下勝巳						
社会福祉	南 正元						
環境美化・正副	田中 正次	岸本新兵衛	野田 亨	柳 政植 別所 貞俊	西澤 治雄 中川 章	北川 薫 大林 春子	堤 信彦 森口はつ美
河川美化・正副		稲垣 青児	井上 照雄	植村 惇二 西片 昇	乾 忠義 岡 頼男	近藤 浩之 菅原 正幸	小原 康廣 若山 勝幸
文化普及・正副		奥野 信孝	谷口 隆史	中谷 敏清	中倉 裕史 熊倉 光雄	基太村博美 後藤 昭七	永富 進 須磨 純司
交通災害共済 10周年記念事業・正副				加藤 實			仲谷 敏清 藤堂 喜正
事務局 次長		鈴木 文雄	鈴木 文雄	鈴木 文雄			
事務局・企画 庶務	吉野 孝	山田まゆみ	山田まゆみ	下川智恵子	早川美登里	早川美登里	早川美登里
議事録	安楽つねみ	日比野俊之	日比野俊之	谷口 和子	早川美登里	早川美登里	早川美登里
資料	西田 貢	西田 貢	西田 貢	西田 貢	西田 貢	西田 貢	西田 貢
監査役	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	植村 淳二	植村 淳二	植村 淳二
監査役	倉橋順一郎	佐野 正次	柳原 徹	柳原 徹	柳原 徹	柳原 徹	柳原 徹
桂坂編集部 長副部長	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄	加藤 貞雄
							井ノ崎重美
かえで自治会長 自治連合会委員	松尾 隆夫 岸 隆二	鹿野 準一 山田まゆみ	鹿野 準一 植村 淳二	植村 淳二 吉田 邦寛	細谷 修三 吉田美和子	細谷 修三 中村 久	阪本 健 中村 久
しらかば自治会長 自治連合会委員	吉野 孝 森田 康代	稲垣 青児 日比野俊之	野田 亨 二枝 誠一	柳 政植 福田耕三郎	池田 一照 小久保 博	北川 薫 由城 和男	堤 信彦 吉井 和子
さつき自治会長 自治連合会委員	安楽つねみ 金沢 徹	奥野 信孝 和泉 春	佐川 公也 河合 正人	西片 昇 大路 繁男	川上 惇 二九 宏和	平手 謹一 田中 聖晃	藤堂 善正 中井 善浩
あかしあ自治会長 自治連合会委員	基太村博美 鈴木 文雄	中川 敬三 神野 直	桃井 修 藤井 修	西村 明 澤岡 清	乾 忠義 中島 章廣	基太村博美 星野 義一	永富 進 采野 邦美
ひいらぎ自治会長 自治連合会委員	佐野 正次 上山 泰弘	岸本新兵衛 井上 章	田村 禎啓 東 武	佐橋 能理 上川 芳実	南郷 美紀 富士 裕加	細川 和子 山奥 文明	石塚 毅 品部 久志
ぼぶら自治会長 自治連合会委員	田中 正治 中嶋 二郎	柳原 徹 浜口 憲一	谷口 隆史 湊 義浩	中谷 敏清 吉田 良二	中倉 勇二 木村 基	後藤 昭七 平山 修児	中谷 敏清 中島 維明
つばき自治会長 自治連合会委員	南 正元 成宮 周	若林 実 笹田 充宏	梶田 博 木村 晋也	加藤 實 藤本 明弘	岡 頼男 岡村 邦彦	近藤 浩之 川本 惠三	若山 勝幸 阪本 幸雄
はなみずき自治会長 自治連合会委員	野田 登 西田 貢	山田 邦和 渡辺 義夫	河村 隆 上田 久美	梶間 俊郎 山本 高義	西沢 治雄 久保多恵子	菅原 正幸 牧原 正実	森口はつ美 高橋 剣
けやき自治会長 自治連合会委員			井上 照雄 河瀬 嘉和	井上 照雄 西上 靖明	熊倉 光雄 榊 信一	大林 春子 高橋 俊樹	中西 康人 梅津 俊広
にれのき自治会長 自治連合会委員				別所 貞俊 田鶴 五郎	城下 賢司 河野 昭治	青山 俊夫 尾崎 安彦	小原 康廣 石田 鋭司
さくら自治会長 自治連合会委員				藤井 潔 中西 敏生	中川 章 平野 淳史	五十嵐幸夫 鈴木 博雄	伊藤 光雄 竹原 範道
もみのき自治会長 自治連合会委員					池田 良一	木田 孝一 綱島 博	知念 章 網島 博
くすのき自治会長 自治連合会委員							須磨 純司 検校 正昭

桂坂学区各種団体等役員名簿

団体名		平成元年	平成2年	平成3年	平成4年	平成5年	平成6年	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年
桂坂市政協力委員連絡協議会	会長	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治
桂坂自主防災会	会長						菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治
桂坂社会福祉協議会	会長			湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍
桂坂体育振興会	会長		永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭	永江望昭
日赤奉仕団桂坂分団	会長		菅谷公恵	菅谷公恵	倉橋順一郎	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三
共同募金会桂坂分会	分団長		菅谷公恵	菅谷公恵	倉橋順一郎	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三	田畑昭三
桂坂保健協議会・献血会	会長		松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫	松尾隆夫
桂坂民生児童委員協議会	総務		湯浅 忍	湯浅 忍	湯浅 忍	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚	酒井 厚
少年補導委員会桂坂支部	支部長		永井裕一	永井裕一	永井裕一	永井裕一	馬江芳雄	馬江芳雄	馬江芳雄	前田富造	前田富造	前田富造
桂坂消防分団	分団長										湯浅仁司	湯浅仁司
桂坂地域女性会	会長						安楽つねみ	安楽つねみ	山田まゆみ	山田まゆみ	中崎千嘉子	中崎千嘉子
桂坂交通安全推進会	会長				森田啓三	森田啓三	森田啓三	森田啓三	新井健之	新井健之	伊藤一男	伊藤一男
桂坂交通安全推進会	婦人部長				古川得津子		戸田晴子	戸田晴子	戸田晴子	戸田晴子	戸田晴子	戸田晴子
桂防犯推進委員協議会	理事								菊池潤治	梶間俊郎 菊池潤治	梶間俊郎 菊池潤治	梶間俊郎 菊池潤治
桂坂防犯委員会	委員長				菊池潤治	菊池潤治	鹿野準一	鹿野準一	梶間俊郎	梶間俊郎	梶間俊郎	梶間俊郎
桂坂文化普及会	会長				田邊尚士	田邊尚士	奥野信孝	谷口隆史	中谷敏清	中倉勇二	基太村博美	永富 進
桂坂環境美化委員会	委員長				田畑昭三	田中正治	岸本新兵衛	野田 亨	柳 政植	西澤治雄	北川 薫	堤 信彦
桂坂山の手倶楽部	会長				立野和之	立野和之	立野和之	立野和之	立野和之	立野和之	立野和之	立野和之
桂坂暴力追放協議会	会長				菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治	菊池潤治
桂坂遺族会	会長					黒川眞佐子	黒川眞佐子					
桂坂小学校PTA	会長		山本哲夫	北川 薫	北川 薫	北川 薫	平手謹一	平手謹一	平手謹一	片山健次	片山健次	片山健次
大枝中学校PTA	会長	奥村正男	基太村博美	廣田博司	福野招三	田原光明	北川 薫	中原 一	大下 猛	高木 工	酒井信一	林 良子
桂坂小学校	校長	中西一孝	中西一孝	中西一孝	中西一孝	中西一孝	寺内敦子	寺内敦子	村田喬子	角垣健美	角垣健美	角垣健美
大枝中学校	校長	佐野幸夫	佐野幸夫	佐野幸夫	山崎嘉久	山崎嘉久	山崎嘉久	村田 泓	村田 泓	朽木長綱	朽木長綱	朽木長綱
西養護学校	校長	永井 實	永井 實	永井 實	浅井正彦	浅井正彦	浅井正彦	浅井正彦	三村 勝	三村 勝	朝野 浩	朝野 浩
桂坂保育所	所長											長井妙子
桂坂児童館	館長											小倉恵美子
洛西ふれあいの里 保養研修センター	館長						森田久男	森田久男	山口英太郎	山口英太郎	山口英太郎	山口英太郎
洛西ふれあいの里授産園	園長	鈴木雅己	鈴木雅己	鈴木雅己	鈴木雅己	鈴木雅己	生嶋武文	山本喜一	山本喜一	高田 功	高田 功	伊藤正子
療護園	園長	谷角慶之	谷角慶之	谷角慶之	谷角慶之	谷角慶之	谷角慶之	森井和子	森井和子	森井和子	森井和子	高田 功
更生園	園長				那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗	那須徹朗
特別養護老人ホーム杏掛寮	施設長	安田 穰	安田 穰	安田 穰	安田 穰	河本昌之	河本昌之	河本昌之	河本昌之	太田嘉繼	太田嘉繼	太田嘉繼
平安講社	学区代表			湯浅 忍	湯浅 忍	菊池潤治	菊池潤治	佐野正次	道端 進	道端 進	梶田 博	梶田 博

桂坂学区創立10周年記念事業実行委員会

顧問	湯浅 忍・佐川 公也・糺田 博
相談役	松尾 隆夫・酒井 厚・上久保潤次郎
委員長	菊池 潤治
副委員長	田畑 昭三・川上 惇・石塚 毅・加藤 貞雄・片山 健次・山田まゆみ・細川 和子
事務局長	鈴木 文雄・(補佐) 下川智恵子・早川美登里・谷口 和子
会計	細谷 修三・日比野俊之
会計監査	植村 淳二・柳原 徹
理事	中谷 敏清・藤堂 喜正・基太村博美・梶間 俊郎・湯浅 仁司・布本 和久・前田 富造 伊藤 一男・山口 和枝・中崎千嘉子・野洲 寿子・中川マスコ・井ノ崎重美・西 升美 濱松 千秋
学識経験者	桂坂小学校校長 角垣 健美・桂坂小学校教頭 赤羽 清・桂坂小学校教務主任 市場 良祐

[専門部会]

記念式典部会	部会長 川上 惇 副部会長 鈴木 文雄・細川 和子 部会員 日比野俊之・下川智恵子・早川美登里・谷口 和子・山奥由美子
記念誌部会	部会長 加藤 貞雄 副部会長 西 升美・井ノ崎重美 部会員 牧野美佐子・竹中 俣子・井出 信子・鎌屋まゆみ・北川 昌子・中山壽々恵・西村 寿子・ 門西 聡子・岡村 玲子・宮下 眞純
体育部会	部会長 布本 和久 副部会長 鈴木 晃司 部会員 谷口 栄一・船越 彰・細川 和明・山本 孝子
文化部会	部会長 細谷 修三 副部会長 中崎千嘉子・山本 昭・長岡 香・喜多みどり・藤井 正子 部会員 木村 義成・福田 敏子・青井 勇・細田 英子・別所紀代子・藤田 満江・水谷 洋子
環境美化部会	部会長 堤 信彦 副部会長 森口はつ美
交通安全部会	部会長 伊藤 一男 副部会長 中川 優
交通婦人部会	部会長 戸田 晴子 副部会長 原田 安子
自治会イベント部会	部会長 石塚 毅 副部会長 中谷 敏清・藤堂 喜正 部会員 阪本 健・堤 信彦・森口はつ美・永富 進・中西 康人・若山 勝幸・須磨 純司・ 小原 康廣・知念 章・伊藤 光男
消防団器具庫・自治会館 建設推進部会	部会長 川上 惇 副部会長 湯浅 仁司 部会員 菅原 正幸・後藤 昭七・近藤 浩之・青山 俊夫・木田 孝一・五十嵐幸夫・前田 富造・ 西村 律子・佐川 早苗

[参与]

国際日本文化研究センター所長	河合 隼雄	株式会社 西洋環境開発桂坂事業所所長	西明 義雄
京都労働者住宅生活協同組合顧問	岩本 致二		
ふれあいの里保養研修センター ふれあい会館館長	山口英太郎		
ふれあいの里運営本部長・療護園園長	高田 功	ふれあいの里授産園園長	伊藤 正子
ふれあいの里更生園園長	那須 徹朗	特別養護老人ホーム沓掛寮施設長	太田 嘉継
桂坂保育所所長	長井 妙子	桂坂児童館館長	小倉恵美子
西養護学校校長	朝野 浩	大枝中学校校長	朽木 長綱

(敬称略順不同)

過年度の記念事業実行委員 (順不同)

立野 和之	永江 望昭	木ノ下勝巳	小松 悦子	平手 謹一	北川 薫	西村 明	千頭 宗子
高矢 順子	西村 敏恵	柳原 早苗	岩本 年子	松村ミドリ	琴浦 良子	大林 春子	乾 忠義
岡 頼男	城下 賢司	丸橋 晴代	岡本多美子	福田 良子	西澤 治雄	中川 章	新井 健之
三谷 成嘉	細川由美子	中村 良子	池田 一照	中倉 勇二	熊倉 光雄	南郷 美紀	池田 良一
柄本 憲秀							

編集協力者

東公子・石田真美子・稲津誠之・大野恵子・岡本洋均・片山悦子・五島良子・塩見敦子
永富進・藤原仁美・船野智津子・細谷東喜子・細谷修三・山田まゆみ・山根博幸

資料・写真提供

青井勇・大西功・大西忠男・片山治之（元朝日新聞デザイン部）・坪内孝二・藤本武・松尾隆夫・山の手倶楽部・山本昭・湯浅忍

大枝中学校・桂坂小学校・西養護学校・桂坂社会福祉協議会・特別養護老人ホーム沓掛寮・ふれあい会館・ふれあいの里（授産園・療護園・更生園）

京都新聞社・国土地理院・西洋環境開発・住宅生協

【付記】 28頁の地図2葉は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図（旧版）を複製したものです。（承認番号 平12近複 第139号）

桂坂小学校編

桂坂小学校創立10周年記念PTA実行委員兼記念誌編集委員

角垣健美（学校長）・赤羽清（教頭）・市場良祐（教務主任）

片山健次（委員長）・千頭宗子（副委員長）・西升美（副委員長）・稲垣恵子（庶務）

市場けい子（会計）・浜松千秋・門西聡子・岡村玲子・高矢順子・岸波直美・蛭田敬子

木村桂子・早藤真里・琴浦良子・中島順子

編集協力者

今崎文弥・十川修一・緩詰健二・吉見忠郎・山本直樹・岩井早苗・西川裕子（以上、現教職員）

中西一孝・寺内敦子・村田喬子（以上、歴代校長）

山本哲夫・北川薫・平手謹一（以上、歴代PTA会長）

岩淵信明・早川雅雄・小林孝二・木村純一・三宅貞志・和田英明・上坊由美子

福田昌史・清水君子（以上、旧教職員）

佐野幸夫・松尾隆夫・入江秀子・渡辺秀子・北風一恵・中谷洋道・安井公子・西田房江

一宮まり子・西村清子・谷本百合子・箕田江里・小出麻由美・谷口千絵・柴田さや香

資料提供

京都新聞社・小学館・日活・虫プロ・株式会社ワールドカラー

〈敬称略〉

編集後記

創立後わずか10年の新しい学区・小学校とはいえ、この「桂坂」は、時間と空間の両面からひとつの大きなまとまりとして把えるには、やはり私たちの手に余る存在でした。

窮余の一策として無知なるを大切な拠り所に、未知の「桂坂」に向かいました。学区・学校の来歴をたづねるに際しては遺された資料や先達の言に感謝し、現況を知るには、緑と起伏に富む「桂坂」を巡り歩き、また、老若男女、ここに住み、働く人たちの動静、片言隻句に気を配りました。

こうして私たちは、草創期から10年に亙る「桂坂」の足跡を、「後の葉（よ）に流（つた）へん」ことを目的に記念誌を作成しました。この小誌が、後々の「桂坂」の発展のために、ささやかな捨石にでもなれば幸いです。

作成にあたっては、多くの方より教示助言を頂戴し、貴重な資料・写真など提供いただきました。また、煩わしい編集校正の作業にも、大勢の方に多忙の時間を割いて携わっていただきました。厚く御礼申し上げます。

ご芳名を上記して感謝の意を表する次第です。

記念誌部会

部会長 加藤貞雄 副部会長 西升美(PTA) 井ノ崎重美

部会員 牧野美佐子 竹中淑子 井出信子 鎌屋まゆみ 北川昌子

中山壽々恵 西村寿子 門西聡子(PTA) 岡村玲子(PTA)

宮下真純

発行

2000(平成12)年6月

編集

記念誌部会

桂坂小学校PTA

発行者

桂坂学区創立10周年

記念事業実行委員会

京都市立桂坂小学校

桂坂小学校PTA

印刷

株式会社 大気堂